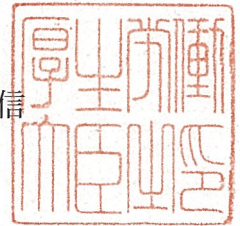


厚生労働省発生食 0822 第5号  
平成 30 年 8 月 22 日

薬事・食品衛生審議会  
会長 橋田 充 殿

厚生労働大臣 加藤 勝 信



諮問書

食品衛生法（昭和 22 年法律第 233 号）第 11 条第 1 項の規定に基づき、下記の事項について、貴会の意見を求めます。

記

次に掲げる農薬等の食品中の残留基準設定について

動物用医薬品チモール  
農薬シメコナゾール  
農薬テブフェンピラド  
農薬トリフルミゾール  
農薬ピリオフェノン  
農薬フルアジホップブチル  
農薬フルエンシルホン  
農薬メタフルミゾン

以上

平成 30 年 10 月 3 日

薬事・食品衛生審議会  
食品衛生分科会長 村田 勝敬 殿

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会  
農薬・動物用医薬品部会長 穂山 浩

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会  
農薬・動物用医薬品部会報告について

平成 30 年 8 月 22 日付け厚生労働省発生食 0822 第 5 号をもって諮問された、食品衛生法（昭和 22 年法律第 233 号）第 11 条第 1 項の規定に基づくメタフルミゾンに係る食品中の農薬の残留基準の設定について、当部会で審議を行った結果を別添のとおり取りまとめたので、これを報告する。



# メタフルミゾン

今般の残留基準の検討については、農薬取締法に基づく適用拡大申請に伴う基準値設定依頼が農林水産省からなされたことに伴い、食品安全委員会において食品健康影響評価がなされたことを踏まえ、農薬・動物用医薬品部会において審議を行い、以下の報告を取りまとめるものである。

## 1. 概要

(1) 品目名：メタフルミゾン [ Metaflumizone (ISO) ]

(2) 用途：殺虫剤

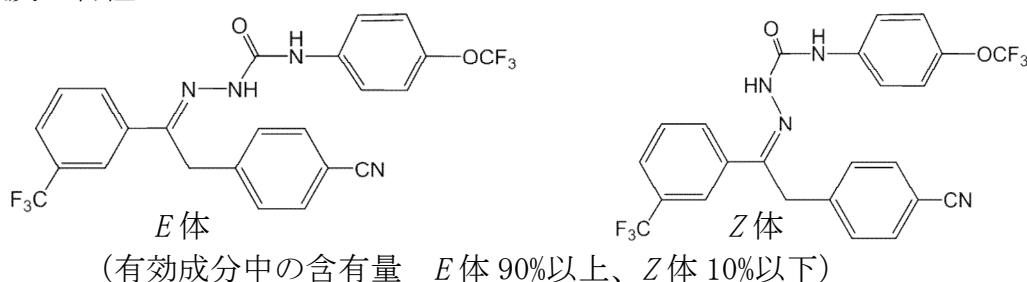
トリフルオロメトキシフェニル環を有する殺虫剤である。昆虫の神経細胞のナトリウムイオンチャンネルに作用し、神経系の情報伝達を阻害することにより殺虫効果を示すと考えられている。

(3) 化学名及びCAS番号

(*EZ*)-2-{2-(4-Cyanophenyl)-1-[3-(trifluoromethyl)phenyl]ethylidene}-*N*-[4-(trifluoromethoxy)phenyl]hydrazine-1-carboxamide (IUPAC)

Hydrazinecarboxamide, 2-[2-(4-cyanophenyl)-1-[3-(trifluoromethyl)phenyl]ethylidene]-*N*-[4-(trifluoromethoxy)phenyl]-  
(CAS : No. 139968-49-3)

(4) 構造式及び物性



分子式	$C_{24}H_{16}F_6N_4O_2$
分子量	506.40
水溶解度	メタフルミゾン : $1.79 \times 10^{-6}$ g/L (20°C) <i>E</i> 体 : $1.07 \times 10^{-6}$ g/L (20°C) <i>Z</i> 体 : $1.87 \times 10^{-6}$ g/L (20°C)
分配係数	<i>E</i> 体 : $\log_{10}P_{ow} = 5.1$ (pH 5) <i>Z</i> 体 : $\log_{10}P_{ow} = 4.4$ (pH 5)

## 2. 適用の範囲及び使用方法

本剤の適用の範囲及び使用方法は以下のとおり。

【作物名】となっているものについては、今回農薬取締法(昭和 23 年法律第 82 号)に基づく適用拡大申請がなされたものを示している。

(1) 国内での使用方法

① 25.0%メタフルミゾンフロアブル

作物名	適用	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタフルミゾンを含む農薬の総使用回数		
キャベツ	コガ アムシ キスジノミハムシ	1000倍	100～300 L/10 a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内		
	ハイダラノメイガ ハスモンヨトウ オオタバコガ ヨウムシ ウリバ類	1000～ 2000倍							
はくさい	コガ アムシ ハイダラノメイガ キスジノミハムシ ダイコンサハムシ	1000倍							
	ヨウムシ ハスモンヨトウ カブラハバチ	1000～ 2000倍							
レタス	ハスモンヨトウ オオタバコガ							2回以内	2回以内
非結球レタス									
ブロッコリー		ヨウムシ ハスモンヨトウ							
非結球あぶらな 科葉菜類	コガ キスジノミハムシ	1000倍						3回以内	3回以内
	ハスモンヨトウ	2000倍							
だいこん	キスジノミハムシ	1000倍						2回以内	2回以内
	ハイダラノメイガ ヨウムシ カブラハバチ	1000～ 2000倍							
えだまめ だいず	ハスモンヨトウ	1000倍	3回以内	3回以内					
	フタスジヒメハムシ								
しょうが	ハスモンヨトウ アヲノメイガ	1000～ 2000倍							

① 25.0%メタフルミゾンフロアブル (つづき)

作物名	適用	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタフルミゾンを含む農薬の総使用回数
かんしょ	ハスモンヨトウ ナカジロシハバ ヨツモンカメノコハムシ	1000～ 2000倍	100～300 L/10 a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
さといも	ハスモンヨトウ						
うめ	ケムシ類	1000倍	200～700 L/10 a				
	ケシキスイ類						
とうもろこし	アワノメイガ	100～300 L/10 a					
アスパラガス	ハスモンヨトウ		100～800 L/10 a				
ごぼう		1000～ 2000倍	100～300 L/10 a				
トマト ミニトマト	オオタバコガ ハスモンヨトウ						
ピーマン	オオタバコガ						
なす	オオタバコガ ニジユウヤホシテントウ ハスモンヨトウ						
にんじん	ハスモンヨトウ ヒョウタンゾウムシ類	1000倍					
ねぎ	シロイチモジヨトウ						
ほうれんそう	シロホノメイガ ハスモンヨトウ	1000～ 2000倍					
かんきつ	ゴマダラカミキリ	200倍	5～200 L/10 a	収穫7日 前まで	3回以内	主幹か ら株元 に散布	3回以内
		1000～ 2000倍	200～700 L/10 a				
キウイフルーツ	ケムシ類	1000倍	100～300 L/10 a	収穫前日 まで	2回以内	散布	2回以内
かぶ	コガ アオムシ			収穫3日 前まで			

② 0.20%メタフルミゾン粒剤

作物名	適用	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタフルミゾンを含む農薬の総使用回数
キャベツ はくさい	コオキ <sup>®</sup> 類 ネリムシ <sup>®</sup> 類 ハスモンヨトウ	3~6 kg/10 a	収穫7日 前まで	3回以内	株元 散布	3回以内
だいこん	ネリムシ <sup>®</sup> 類			2回以内		2回以内
ブロッコリー	ネリムシ <sup>®</sup> 類 コオキ <sup>®</sup> 類					
非結球レタス ねぎ レタス ごぼう だいず えだまめ しょうが	ネリムシ <sup>®</sup> 類		3回以内			
アスパラガス いちご	ハスモンヨトウ					
にんじん	ネリムシ <sup>®</sup> 類 ハスモンヨトウ		6 kg/10 a	収穫前日 まで		3回以内
	コオキ <sup>®</sup> 類					

③ 19.0%メタフルミゾン・12.0%トルフェンピラドフロアブル

作物名	適用	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタフルミゾンを含む農薬の総使用回数
キャベツ	コガ <sup>®</sup> アオムシ ヨトウムシ ハスモンヨトウ オタバコガ <sup>®</sup> ウリバ <sup>®</sup> 類 ハイマダ <sup>®</sup> ラノメカ <sup>®</sup> アブラムシ <sup>®</sup> 類 ネギアサ <sup>®</sup> ミウマ	1000倍	100~300 L/10 a	収穫14日 前まで	2回以内	散布	3回以内
はくさい	コガ <sup>®</sup> アオムシ ヨトウムシ ハイマダ <sup>®</sup> ラノメカ <sup>®</sup> アブラムシ <sup>®</sup> 類 ナメグリバ <sup>®</sup> エ ネギアサ <sup>®</sup> ミウマ						
レタス	オタバコガ <sup>®</sup> アブラムシ <sup>®</sup> 類 ナメグリバ <sup>®</sup> エ ハスモンヨトウ						
	ヨトウムシ ウリバ <sup>®</sup> 類	1500倍					



③ 19.0%メタフルミゾン・12.0%トルフェンピラドフロアブル (つづき)

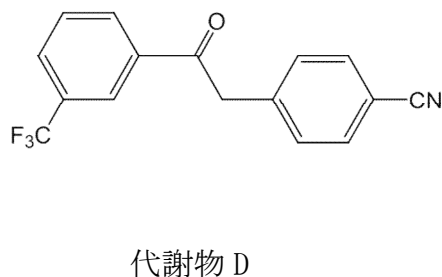
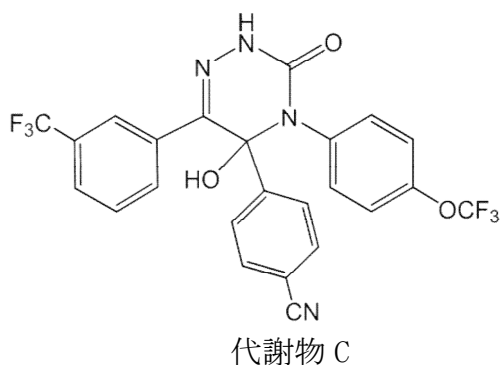
ねぎ	シロイモジヨトウ 社カ 社アサミマ	1000倍	100~300 L/10 a	収穫7日 前まで	2回以内	散布	2回以内
----	-------------------------	-------	-------------------	-------------	------	----	------

3. 作物残留試験

(1) 分析の概要

① 分析対象物質

- ・メタフルミゾン (E体)
- ・メタフルミゾン (Z体)
- ・4-[5-ヒドロキシ-3-オキソ-4-[4-(トリフルオロメトキシ)フェニル]-6-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]-2,3,4,5-テトラヒドロ-1,2,4-トリアジン-5-イル}ベンズニトリル (以下、代謝物Cという)
- ・*p*-[*m*-(トリフルオロメチル)フェナシル]ベンズニトリル (以下、代謝物Dという)



② 分析法の概要

i) メタフルミゾン (E体)、メタフルミゾン (Z体)、代謝物C及び代謝物D

試料からメタノール・水 (7:3) 混液で抽出し、*n*-ヘキサンで洗浄した後、酢酸エチル・ヘキサン混液に転溶する。PSA カラムを用いて、メタフルミゾン及び代謝物D並びに代謝物Cの画分に分画する。メタフルミゾンと代謝物D画分はシリカゲルカラムで、代謝物C画分はグラファイトカーボンカラム及びシリカゲルカラムを用いて精製した後、紫外分光光度型検出器付き高速液体クロマトグラフ (HPLC-UV) で定量する。なお、代謝物C及び代謝物Dの分析値は、それぞれ換算係数0.9731及び1.7507を用いてメタフルミゾン濃度に換算した値として示した。

定量限界：	メタフルミゾン (E体及びZ体)	0.01~0.05 mg/kg
	代謝物C	0.05 mg/kg (メタフルミゾン換算濃度)
	代謝物D	0.018~0.09 mg/kg (メタフルミゾン換算濃度)

## ii) メタフルミゾン (E体)、メタフルミゾン (Z体) 及び代謝物 D

試料からメタノール・水 (7:3) 混液で抽出し、C<sub>18</sub> カラム又は PSA カラムを用いて精製する。次に、PSA カラム、PSA・シリカゲル連結カラム、シクロヘキシルシリル化シリカゲルカラム及び PSA・シリカゲル連結カラム、あるいは HLB カラム及び PSA カラムを用いて精製した後、液体クロマトグラフ・質量分析計 (LC-MS) 又は液体クロマトグラフ・タンデム型質量分析計 (LC-MS/MS) で定量する。

または、試料に試料重量の 5% (W/W) の L-アスコルビン酸ナトリウム、又は試料重量の 5% (W/W) の L-アスコルビン酸ナトリウム及び 5 又は 10% (W/W) のリン酸水素二ナトリウムを加えて磨砕する。メタノール・水 (7:3) 混液で抽出し、C<sub>18</sub> カラム又は C<sub>18</sub> カラム及び PSA カラムを用いて精製した後、LC-MS/MS で定量する。なお、代謝物 D の分析値は、換算係数 1.75 を用いてメタフルミゾン濃度に換算した値として示した。

定量限界：	メタフルミゾン (E 体及び Z 体)	0.01~0.05 mg/kg
	代謝物 C	0.05 mg/kg (メタフルミゾン換算濃度)
	代謝物 D	0.018~0.09 mg/kg (メタフルミゾン換算濃度)

### (2) 作物残留試験結果

国内で実施された作物残留試験の結果の概要については別紙1を参照。

## 4. 魚介類における推定残留濃度

本剤については水系を通じた魚介類への残留が想定されることから、本剤の水産動植物被害予測濃度<sup>注1)</sup> 及び生物濃縮係数 (BCF : Bioconcentration Factor) から、以下のとおり魚介類中の推定残留濃度を算出した。

### (1) 水産動植物被害予測濃度

本剤が非水田においてのみ使用されることから、メタフルミゾンの非水田 PECtier1<sup>注2)</sup> を算出したところ、非水田 PECtier1 は 0.028 µg/L となった。

### (2) 生物濃縮係数

ベンズニトリル環の炭素を<sup>14</sup>Cで標識したメタフルミゾン (第一濃度区 : 0.04 mg/L、第二濃度区 : 0.40 mg/kL) を用いた42日間の取込期間及び56日間の排泄期間を設定したブルーギルの魚類濃縮性試験が実施された。メタフルミゾンの分析結果から、BCFk<sup>注3)</sup> は7900 L/kgと算出された。

### (3) 推定残留濃度

(1)及び(2)の結果から、メタフルミゾンの水産動植物被害予測濃度:0.028 µg/L、BCF:7900 L/kgとし、下記のとおり推定残留濃度が算出された。

$$\text{推定残留濃度} = 0.028 \mu\text{g/L} \times (7900 \text{ L/kg} \times 5) = 1106 \mu\text{g/kg} = 1.106 \text{ mg/kg}$$

注 1) 農薬取締法第3条第1項第6号に基づく水産動植物の被害防止に係る農薬の登録保留基準設定における規定に準拠

注 2) 既定の地表流出率、ドリフト率で河川中に流入するものとして算出した

注 3) BCFk: 被験物質の魚体への取込速度定数と魚体からの排泄速度定数の比で求められたBCF

(参考) 平成19年度厚生労働科学研究費補助金食品の安心・安全確保推進研究事業「食品中に残留する農薬等におけるリスク管理手法の精密化に関する研究」分担研究「魚介類への残留基準設定法」報告書

## 5. 畜産物における推定残留濃度

本剤については、飼料として給与した作物を通じ家畜の筋肉等への移行が想定されることから、飼料の最大給与割合等から算出した飼料中の残留農薬濃度と動物飼養試験の結果を用い、以下のとおり畜産物中の推定残留濃度を算出した。

### (1) 分析の概要

#### ① 分析対象物質

・メタフルミゾン (E体及びZ体)

#### ② 分析法の概要

試料からメタノールで抽出し、ジクロロメタンに転溶した後、LC-MS/MS で定量する。

定量限界: 組織 0.02 mg/kg

乳 0.01 mg/kg

### (2) 家畜残留試験 (動物飼養試験)

#### ① 乳牛を用いた残留試験

乳牛 (ホルスタイン種、3頭/群) に対して、飼料中濃度として0.2、1.0、5.5及び16.5 ppmに相当する量のメタフルミゾンを含むゼラチンカプセルを45日間にわたり経口投与し、筋肉、脂肪、肝臓及び腎臓に含まれるメタフルミゾン (E体及びZ体) の濃度を測定した。乳については、投与開始1、3、5、8、12、15、18、21、25、28、32、36、40、42及び45日後に採取した乳に含まれるメタフルミゾン (E体及びZ体) の濃度をLC-MS/MSで測定した。結果は表1を参照。

表1. 乳牛の組織中の残留濃度 (mg/kg)

	0.2 ppm投与群	1.0 ppm投与群	5.5 ppm投与群	16.5 ppm投与群
筋肉	<0.02 (最大)	<0.02 (最大)	<0.02 (最大)	0.063 (最大)
	<0.02 (平均)	<0.02 (平均)	<0.02 (平均)	0.044 (平均)
脂肪	<0.02 (最大)	0.043 (最大)	0.182 (最大)	0.864 (最大)
	<0.02 (平均)	0.027 (平均)	0.153 (平均)	0.566 (平均)
肝臓	<0.02 (最大)	<0.02 (最大)	<0.02 (最大)	0.059 (最大)
	<0.02 (平均)	<0.02 (平均)	<0.02 (平均)	0.042 (平均)
腎臓	<0.02 (最大)	<0.02 (最大)	<0.02 (最大)	0.053 (最大)
	<0.02 (平均)	<0.02 (平均)	<0.02 (平均)	0.042 (平均)
乳	<0.01 (平均)	<0.01 (平均)	0.014 (平均)	0.042 (平均)

定量限界：組織0.02 mg/kg、乳0.01 mg/kg

上記の結果に関連して、JMPRは、乳牛及び肉牛のMDB<sup>注1)</sup>はいずれも0.13 ppm、STMR dietary burden<sup>注2)</sup>はいずれも0.13 ppm と評価している。

注 1) 最大飼料由来負荷 (Maximum Dietary Burden : MDB) : 飼料として用いられる全ての飼料品目に農薬が残留基準まで残留していると仮定した場合に、飼料の摂取によって畜産動物が暴露される最大濃度。飼料中濃度として表示される。

注 2) 平均的飼料由来負荷 (STMR dietary burden 又は mean dietary burden) : 飼料として用いられる全ての飼料品目に農薬が平均的に残留していると仮定した場合に (作物残留試験から得られた残留濃度の中央値を試算に用いる)、飼料の摂取によって畜産動物が暴露される最大濃度。飼料中濃度として表示される。

### (3) 推定残留濃度

乳牛について、MDB 又は STMR dietary burdenと家畜残留試験結果から、畜産物中の推定最大残留濃度を算出した。結果は表2を参照。推定残留濃度はメタフルミゾン (E体及びZ体の和) で示した。

表2. 畜産物中の推定残留濃度 (mg/kg)

	筋肉	脂肪	肝臓	腎臓	乳
乳牛	0.013	0.013	0.013	0.013	0.0065
	(0.013)	(0.013)	(0.013)	(0.013)	(0.0065)

上段：最大残留濃度

下段：平均的な残留濃度



## 6. ADI及びARfDの評価

食品安全基本法（平成15年法律第48号）第24条第1項第1号の規定に基づき、食品安全委員会あて意見を求めたメタフルミゾンに係る食品健康影響評価において、以下のとおり評価されている。

### (1) ADI

無毒性量：12 mg/kg 体重/day

（動物種） イヌ

（投与方法） カプセル経口

（試験の種類） 慢性毒性試験

（期間） 1年間

安全係数：100

ADI：0.12 mg/kg 体重/day

#### （参考）

評価に供された遺伝毒性試験において染色体異常試験で陽性であったが、*in vivo* 試験を含む他の全ての試験で陰性であったことから、メタフルミゾンは生体にとって問題となる遺伝毒性はないと結論されている。

### (2) ARfD 設定の必要なし

メタフルミゾンの単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響は認められなかったことから、急性参照用量（ARfD）は設定する必要がないと判断した。

## 7. 諸外国における状況

JMPRにおける毒性評価が行われ、2009年にADIが設定され、ARfDは設定の必要なしとされている。国際基準はレタス、トマト等に設定されている。

米国、カナダ、EU、豪州及びニュージーランドについて調査した結果、米国においてかんきつ類、ナッツ類等に、EUにおいてはくさい、畜産物等に基準値が設定されている。

## 8. 基準値案

### (1) 残留の規制対象

農産物にあつてはメタフルミゾン（E体及びZ体）並びに代謝物Dとし、畜水産物にあつてはメタフルミゾン（E体及びZ体）とする。

作物残留試験においてメタフルミゾン（E体）、メタフルミゾン（Z体）及び代謝物Dの分析が行われており、一部の作物残留試験では代謝物Cの分析も行われているが、代謝物Cの残留濃度はメタフルミゾン（E体）、メタフルミゾン（Z体）及び代謝物Dと比較して低い値であることから、代謝物Cは残留の規制対象に含めないこととする。

なお、食品安全委員会は、食品健康影響評価において、農産物中の暴露評価対象物質をメタフルミゾン（E体及びZ体）並びに代謝物D、畜産物及び魚介類中の暴露評価対象物質をメタフルミゾン（E体及びZ体）としている。

### (2) 基準値案

別紙2のとおりである。

### (3) 暴露評価

1日当たり摂取する農薬等の量のADIに対する比は、以下のとおりである。詳細な暴露評価は別紙3参照。

	TMDI/ADI (%) 注)
国民全体（1歳以上）	44.8
幼小児（1～6歳）	66.3
妊婦	42.1
高齢者（65歳以上）	54.0

注) 各食品の平均摂取量は、平成17年～19年度の食品摂取頻度・摂取量調査の特別集計業務報告書による。

TMDI試算式：基準値案×各食品の平均摂取量

メタフルミジンの作物残留試験一覧表 (国内)

農作物	試験圃場数	試験条件				各化合物の残留濃度の合計 (mg/kg) 注1)	各化合物の残留濃度 (mg/kg) 注2) 【メタフルミジン(E体)/メタフルミジン(Z体)/代謝物C/代謝物D】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数		
とうもろこし (子実)	2	25.0%フロアブル	1000倍散布 200 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A:<0.04 圃場B:<0.04	圃場A:<0.01/<0.01/ <sup>注3)</sup> <0.02 圃場B:<0.01/<0.01/ <sup>注3)</sup> <0.02
未成熟とうもろこし (種子)	2	25.0%フロアブル	1000倍散布 200 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A:<0.04 圃場B:<0.04	圃場A:<0.01/<0.01/ <sup>注3)</sup> <0.02 圃場B:<0.01/<0.01/ <sup>注3)</sup> <0.02
だいず (乾燥子実)	2	25.0%フロアブル	1000倍散布 200, 170 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A:0.18 (3回, 3日) 圃場B:0.18	圃場A:*0.06/*0.10/ <sup>注3)</sup> <0.02 (*3回, 3日) 圃場B:0.06/0.10/ <sup>注3)</sup> <0.02
	2	0.20%粒剤	6 kg/10 a株元散布	3	1, 3, 7	圃場A:<0.04 圃場B:<0.04	圃場A:<0.01/<0.01/ <sup>注3)</sup> <0.02 圃場B:<0.01/<0.01/ <sup>注3)</sup> <0.02
さといも (塊茎)	2	25.0%フロアブル	1000倍散布 166, 167 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A:<0.04 圃場B:<0.04	圃場A:<0.01/<0.01/ <sup>注3)</sup> <0.02 圃場B:<0.01/<0.01/ <sup>注3)</sup> <0.02
かんしょ (塊根)	2	25.0%フロアブル	1000倍散布 200, 150 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A:<0.04 圃場B:<0.04	圃場A:<0.01/<0.01/ <sup>注3)</sup> <0.02 圃場B:<0.01/<0.01/ <sup>注3)</sup> <0.02
だいこん (根)	2	25.0%フロアブル	1000倍散布 300 L/10 a	2	1, 3, 7	圃場A:<0.2 圃場B:<0.2	圃場A:<0.05/<0.05/ <sup>注3)</sup> <0.09 圃場B:<0.05/<0.05/ <sup>注3)</sup> <0.09
	2	1.0%粒剤	3 kg/10 a株元散布	2	1, 3, 7	圃場A:<0.2 (2回, 7日) (#) 圃場B:<0.2 (2回, 7日) (#)	圃場A:<0.05/<0.05/ <sup>注3)</sup> <0.09 (2回, 7日) (#) <sup>注3)</sup> 圃場B:<0.05/<0.05/ <sup>注3)</sup> <0.09 (2回, 7日) (#)
だいこん (葉)	2	25.0%フロアブル	1000倍散布 300 L/10 a	2	1, 3, 7	圃場A:19.2 圃場B:21.1	圃場A:6.14/10.2/ <sup>注3)</sup> 3.10 圃場B:5.94/10.6/ <sup>注3)</sup> 4.53
	2	1.0%粒剤	3 kg/10 a株元散布	2	1, 3, 7	圃場A:<0.2 (2回, 7日) (#) 圃場B:<0.2 (2回, 7日) (#)	圃場A:<0.05/<0.05/ <sup>注3)</sup> <0.09 (2回, 7日) (#) 圃場B:<0.05/<0.05/ <sup>注3)</sup> <0.09 (2回, 7日) (#)
だいこん (つまみ菜)	1	0.20%粒剤	6 kg/10 a全面散布	2	8	圃場A:<0.04	圃場A:<0.01/<0.01/ <sup>注3)</sup> <0.018
だいこん (間引菜)	1	0.20%粒剤	6 kg/10 a全面散布	2	14	圃場A:<0.04	圃場A:<0.01/<0.01/ <sup>注3)</sup> <0.018
かぶ (根)	1	25.0%フロアブル	1000倍散布 192 L/10 a	2	3, 7, 14	圃場A:0.12	圃場A:0.06/0.04/ <sup>注3)</sup> <0.02
	1	25.0%フロアブル	1000倍散布 200 L/10 a	2	3, 7, 14	圃場A:0.06 (2回, 7日)	圃場A:0.02/*0.02/ <sup>注3)</sup> <0.02 (*2回, 7日)
	1	25.0%フロアブル	1000倍散布 179 L/10 a	2	3, 7, 14	圃場A:0.07	圃場A:0.03/*0.03/ <sup>注3)</sup> <0.02 (*2回, 14日)
かぶ (葉)	1	25.0%フロアブル	1000倍散布 192 L/10 a	2	3, 7, 14	圃場A:17.1	圃場A:5.72/11.0/ <sup>注3)</sup> 0.38
	1	25.0%フロアブル	1000倍散布 200 L/10 a	2	3, 7, 14	圃場A:15.5	圃場A:5.32/9.90/ <sup>注3)</sup> 0.38 (*2回, 7日)
	1	25.0%フロアブル	1000倍散布 179 L/10 a	2	3, 7, 14	圃場A:21.7	圃場A:9.17/12.2/ <sup>注3)</sup> 0.51 (*2回, 7日)
はくさい (茎葉)	2	25.0%フロアブル	1000倍散布 250~350, 150~200 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A:5.6 (3回, 3日) 圃場B:2.7	圃場A:1.88/3.36/<0.05/1.01 (3回, 3日) 圃場B:1.04/*1.60/<0.05/0.67 (*3回, 3日)
	2	1.0%粒剤	6 kg/10 a株元散布	3	1, 3, 7	圃場A:<0.2 (3回, 7日) (#) 圃場B:<0.2 (3回, 7日) (#)	圃場A:<0.05/<0.05/ <sup>注3)</sup> <0.09 (3回, 7日) (#) 圃場B:<0.05/<0.05/ <sup>注3)</sup> <0.09 (3回, 7日) (#)
キャベツ (葉球)	2	25.0%フロアブル	1000倍散布 300~367, 200 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A:3.0 圃場B:1.4 (3回, 3日)	圃場A:1.14/1.74/<0.05/0.25 (3回, 1日) 圃場B:0.42/0.74/<0.05/0.28 (*3回, 3日)
	2	1.0%粒剤	6 kg/10 a株元散布	3	1, 3, 7	圃場A:<0.2 (3回, 7日) (#) 圃場B:<0.2 (3回, 7日) (#)	圃場A:<0.05/<0.05/ <sup>注3)</sup> <0.09 (3回, 7日) (#) 圃場B:<0.05/<0.05/ <sup>注3)</sup> <0.09 (3回, 7日) (#)
こまつな (茎葉)	2	25.0%フロアブル	1000倍散布 200 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A:13.6 圃場B:28.3 (3回, 3日)	圃場A:4.90/8.59/ <sup>注3)</sup> 0.140 圃場B:12.6/*16.4/ <sup>注3)</sup> 0.52 (*3回, 3日)
みずな (茎葉)	2	25.0%フロアブル	1000倍散布 200, 150 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A:16.3 圃場B:30.4	圃場A:6.90/9.24/ <sup>注3)</sup> 0.280 (*3回, 7日) 圃場B:14.2/16.0/ <sup>注3)</sup> 0.158
チンゲンサイ (茎葉)	2	25.0%フロアブル	1000倍散布 180, 170 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A:2.66 (3回, 3日) 圃場B:3.48	圃場A:1.28/*1.42/ <sup>注3)</sup> *0.105 (*3回, 3日, **3回, 7日) 圃場B:1.58/1.86/ <sup>注3)</sup> *0.053 (*3回, 3日)
ブロッコリー (花蕾)	2	25.0%フロアブル	1000倍散布 300 L/10 a	2	1, 3, 7	圃場A:5.17 圃場B:3.49	圃場A:3.16/1.92/ <sup>注3)</sup> <0.09 圃場B:1.76/1.64/ <sup>注3)</sup> *0.14 (*2回, 3日)
	2	1.0%粒剤	3 kg/10 a株元散布	2	1, 3, 7	圃場A:<0.2 (2回, 1日) (#) 圃場B:<0.2 (2回, 1日) (#)	圃場A:<0.05/<0.05/ <sup>注3)</sup> <0.09 (2回, 1日) (#) 圃場B:<0.05/<0.05/ <sup>注3)</sup> <0.09 (2回, 1日) (#)
ごぼう (根部)	2	25.0%フロアブル	1000倍散布 195, 177 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A:<0.04 圃場B:<0.04	圃場A:<0.01/<0.01/ <sup>注3)</sup> <0.02 圃場B:<0.01/<0.01/ <sup>注3)</sup> <0.02
	2	0.20%粒剤	6 kg/10 a株元散布	3	1, 3, 7	圃場A:<0.04 圃場B:<0.04	圃場A:<0.01/<0.01/ <sup>注3)</sup> <0.02 圃場B:<0.01/<0.01/ <sup>注3)</sup> <0.02
レタス (茎葉)	2	25.0%フロアブル	1000倍散布 300, 250 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A:7.65 圃場B:3.47 (3回, 3日)	圃場A:3.62/3.98/ <sup>注3)</sup> 0.10 (*3回, 3日) 圃場B:*1.83/*1.62/ <sup>注3)</sup> *0.04 (*3回, 3日, **3回, 7日)
	2	0.20%粒剤	6 kg/10 a株元散布	3	1, 3, 7	圃場A:<0.04 圃場B:<0.04	圃場A:<0.01/<0.01/ <sup>注3)</sup> <0.02 圃場B:<0.01/<0.01/ <sup>注3)</sup> <0.02
リーフレタス (茎葉)	2	25.0%フロアブル	1000倍散布 200, 250 L/10 a	2	1, 3, 7	圃場A:7.41 (2回, 3日) 圃場B:33.7	圃場A:3.89/*3.64/ <sup>注3)</sup> *0.088 (*2回, 3日, **2回, 7日) 圃場B:15.6/17.9/ <sup>注3)</sup> 0.35 (*2回, 3日)
	2	1.0%粒剤	3 kg/10 a株元散布	2	1, 3, 7	圃場A:<0.2 (2回, 1日) (#) 圃場B:<0.2 (2回, 1日) (#)	圃場A:<0.05/<0.05/ <sup>注3)</sup> <0.09 (2回, 1日) (#) 圃場B:<0.05/<0.05/ <sup>注3)</sup> <0.09 (2回, 1日) (#)
サラダ菜 (茎葉)	2	25.0%フロアブル	1000倍散布 200 L/10 a	2	1, 3, 7	圃場A:26.4 圃場B:35.1	圃場A:13.8/12.2/ <sup>注3)</sup> 0.980 (*2回, 3日) 圃場B:16.0/*18.7/ <sup>注3)</sup> *2.00 (*2回, 3日, **2回, 7日)
	2	1.0%粒剤	3 kg/10 a株元散布	2	1, 3, 7	圃場A:<0.2 (2回, 1日) (#) 圃場B:<0.2 (2回, 1日) (#)	圃場A:<0.05/<0.05/ <sup>注3)</sup> <0.09 (2回, 1日) (#) 圃場B:<0.05/<0.05/ <sup>注3)</sup> <0.09 (2回, 1日) (#)
ねぎ (茎葉)	2	25.0%フロアブル	1000倍散布 200 L/10 a	2	1, 3, 7	圃場A:3.6 (2回, 3日) 圃場B:1.2	圃場A:1.46/*1.72/ <sup>注3)</sup> 0.72 (*2回, 3日) 圃場B:0.58/0.60/ <sup>注3)</sup> <0.09
	2	1.0%粒剤	3 kg/10 a株元散布	2	1, 3, 7	圃場A:<0.2 (2回, 1日) (#) 圃場B:<0.2 (2回, 1日) (#)	圃場A:<0.05/<0.05/ <sup>注3)</sup> <0.09 (2回, 1日) (#) 圃場B:<0.05/<0.05/ <sup>注3)</sup> <0.09 (2回, 1日) (#)

メタフルミジンの作物残留試験一覧表 (国内)

農作物	試験圃場数	試験条件				各化合物の残留濃度の合計 (mg/kg) 注1)	各化合物の残留濃度 (mg/kg) 注2) 【メタフルミジン(E体)/メタフルミジン(Z体)/代謝物C/代謝物D】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数		
アスパラガス (若莖)	2	25.0%フロアブル	1000倍散布 206.4, 289 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A:0.22 圃場B:0.21	圃場A:0.08/0.12/-/0.02 圃場B:0.11/0.08/-/0.02
	2	0.20%粒剤	6 kg/10 a全面散布	3	1, 3, 7	圃場A:<0.04 圃場B:<0.04	圃場A:<0.01/<0.01/-/0.02 圃場B:<0.01/<0.01/-/0.02
にんじん (根部)	2	25.0%フロアブル	1000倍散布 190, 175 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A:<0.04 圃場B:0.09	圃場A:<0.01/<0.01/-/0.02 圃場B:0.05/*0.03/-/0.02 (*3回, 7日)
	2	0.20%粒剤	6 kg/10 a全面散布	3	1, 3, 7	圃場A:<0.04 圃場B:<0.04	圃場A:<0.01/<0.01/-/0.02 圃場B:<0.01/<0.01/-/0.02
ミニトマト (果実)	2	25.0%フロアブル	1000倍散布 250, 249 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A:2.73 圃場B:2.39	圃場A:1.26/1.40/-/0.11 (*3回, 3日) 圃場B:1.18/1.16/-/0.07
ピーマン (果実)	2	25.0%フロアブル	1000倍散布 230, 282 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A:2.78 圃場B:2.85	圃場A:1.10/1.66/-/0.02 圃場B:1.45/1.38/-/0.02
なす (果実)	2	25.0%フロアブル	1000倍散布 300, 282 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A:0.78 (3回, 3日) 圃場B:1.22	圃場A:*0.38/*0.38/-/0.02 (*3回, 3日) 圃場B:0.81/0.39/-/0.02
ほうれんそう (莖葉)	2	25.0%フロアブル	1000倍散布 200, 157.9 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A:51.8 圃場B:25.4	圃場A:18.6/32.4/-/0.92 (*3回, 3日) 圃場B:10.8/*16.4/-/0.88 (*3回, 7日)
しょうが (塊茎)	2	25.0%フロアブル	1000倍散布 185, 200 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A:<0.04 圃場B:0.06	圃場A:<0.01/<0.01/-/0.02 圃場B:0.02/0.02/-/0.02
しょうが (根茎)	2	0.20%粒剤	6 kg/10 a株元散布	3	1, 3, 7	圃場A:<0.04 圃場B:<0.04	圃場A:<0.01/<0.01/-/0.02 圃場B:<0.01/<0.01/-/0.02
	2	25.0%フロアブル	1000倍散布 200, 190 L/10 a	3	1, 3, 7, 14	圃場A:5.24 圃場B:4.08	圃場A:2.22/2.94/-/0.08 圃場B:1.61/2.45/-/0.02
えだまめ (さや)	2	0.20%粒剤	6 kg/10 a株元散布	3	1, 3, 7, 14	圃場A:<0.04 圃場B:<0.04	圃場A:<0.01/<0.01/-/0.02 圃場B:<0.01/<0.01/-/0.02
	2	25.0%フロアブル	1000倍散布 575 L/10 a	3	1, 14, 21	圃場A:0.15 圃場B:0.12	圃場A:0.05/0.08/-/0.02 圃場B:0.04/0.06/-/0.02
温州みかん (果肉)	1	25.0%フロアブル	1000倍散布 667 L/10 a	3	1, 14, 21	圃場A:0.09	圃場A:0.03/0.04/-/0.02
	1	25.0%フロアブル	1000倍散布 556 L/10 a	3	1, 14, 21	圃場A:0.15 (3回, 14日)	圃場A:0.06/*0.07/-/0.02 (*3回, 14日)
	1	25.0%フロアブル	1000倍散布 620 L/10 a	3	1, 14, 21	圃場A:0.08	圃場A:0.02/0.04/-/0.02
	1	25.0%フロアブル	1000倍散布 660 L/10 a	3	1, 14, 21	圃場A:0.12	圃場A:0.04/0.06/-/0.02
	3	25.0%フロアブル	200倍樹幹散布 150 L/10 a	3	1, 14, 21	圃場A:<0.04 圃場B:<0.04 圃場C:<0.04	圃場A:<0.01/<0.01/-/0.02 圃場B:<0.01/<0.01/-/0.02 圃場C:<0.01/<0.01/-/0.02
	2	25.0%フロアブル	200倍樹幹散布 178 L/10 a	3	1, 14, 21	圃場A:<0.04 圃場B:<0.04	圃場A:<0.01/<0.01/-/0.02 圃場B:<0.01/<0.01/-/0.02
	1	25.0%フロアブル	200倍樹幹散布 167 L/10 a	3	1, 14, 21	圃場A:<0.04	圃場A:<0.01/<0.01/-/0.02
	2	25.0%フロアブル	1000倍散布 575 L/10 a	3	1, 14, 21	圃場A:11.4 圃場B:10.2	圃場A:4.00/7.13/-/0.42 (*3回, 21日) 圃場B:3.68/6.12/-/0.49 (*3回, 21日)
温州みかん (果皮)	1	25.0%フロアブル	1000倍散布 667 L/10 a	3	1, 14, 21	圃場A:11.8 (3回, 21日)	圃場A:4.79/*7.03/-/0.32 (*3回, 21日)
	1	25.0%フロアブル	1000倍散布 556 L/10 a	3	1, 14, 21	圃場A:12.8	圃場A:6.16/6.37/-/0.32 (*3回, 21日)
	1	25.0%フロアブル	1000倍散布 620 L/10 a	3	1, 14, 21	圃場A:16.0	圃場A:5.44/9.30/-/1.30 (*3回, 14日)
	1	25.0%フロアブル	1000倍散布 660 L/10 a	3	1, 14, 21	圃場A:18.5	圃場A:6.96/10.5/-/1.58 (*3回, 21日)
	3	25.0%フロアブル	200倍樹幹散布 150 L/10 a	3	1, 14, 21	圃場A:<0.04 圃場B:<0.04 圃場C:<0.04	圃場A:<0.01/<0.01/-/0.02 圃場B:<0.01/<0.01/-/0.02 圃場C:<0.01/<0.01/-/0.02
	2	25.0%フロアブル	200倍樹幹散布 178 L/10 a	3	1, 14, 21	圃場A:<0.04 圃場B:0.04	圃場A:<0.01/<0.01/-/0.02 圃場B:<0.01/0.01/-/0.02
	1	25.0%フロアブル	200倍樹幹散布 167 L/10 a	3	1, 14, 21	圃場A:<0.04	圃場A:<0.01/<0.01/-/0.02
	1	25.0%フロアブル	1000倍散布 540 L/10 a	3	1, 14, 21	圃場A:2.31 (3回, 14日)	圃場A:*0.79/*1.40/-/0.12 (*3回, 14日)
なつみかん (全果実)	1	25.0%フロアブル	1000倍散布 600 L/10 a	3	1, 14, 21	圃場A:1.41	圃場A:0.62/0.67/-/0.14 (*3回, 14日)
	1	25.0%フロアブル	1000倍散布 571 L/10 a	3	1, 14, 21	圃場A:1.15	圃場A:0.58/*0.56/-/0.10 (*3回, 21日)
	1	25.0%フロアブル	200倍樹幹散布 180 L/10 a	3	1, 14, 21	圃場A:<0.04	圃場A:<0.01/<0.01/-/0.02
	1	25.0%フロアブル	200倍樹幹散布 171 L/10 a	3	1, 14, 21	圃場A:<0.04	圃場A:<0.01/<0.01/-/0.02
	1	25.0%フロアブル	200倍樹幹散布 160 L/10 a	3	1, 14, 21	圃場A:<0.04	圃場A:<0.01/<0.01/-/0.02
	1	25.0%フロアブル	1000倍散布 560 L/10 a	3	1, 14, 21	圃場A:2.25	圃場A:0.82/1.31/-/0.12
かぼす (果実全体)	1	25.0%フロアブル	200倍樹幹散布 160 L/10 a	3	1, 14, 21	圃場A:<0.04	圃場A:<0.01/<0.01/-/0.02



メタフルミゾンの作物残留試験一覧表 (国内)

農作物	試験圃場数	試験条件				各化合物の残留濃度の合計 (mg/kg) 注1)	各化合物の残留濃度 (mg/kg) 注2) 【メタフルミゾン(E体)/メタフルミゾン(Z体)/代謝物C/代謝物D】
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数		
すだち (果実全体)	1	25.0%フロアブル	1000倍散布 500 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A:1.79	圃場A:0.72/1.00/-/0.07
	1	25.0%フロアブル	200倍樹幹散布 160 L/10 a	3	7, 14, 21	圃場A:<0.04	圃場A:<0.01/<0.01/-/<0.02
うめ (果実)	2	25.0%フロアブル	1000倍散布 333,400 L/10 a	3	1, 3, 7, 21	圃場A:2.68 圃場B:3.49	圃場A:1.02/1.48/-/0.18 圃場B:1.96/*1.54/-/*0.05 (*3回, 3日)
いちご (果実)	2	0.20%粒剤	6 kg/10 a株元散布	3	1, 3, 7	圃場A:<0.04 圃場B:<0.04	圃場A:<0.01/<0.01/-/<0.02 圃場B:<0.01/<0.01/-/<0.02
キウイ (果肉)	3	25.0%フロアブル	1000倍散布 350 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A:0.09	圃場A:0.05/0.02/-/<0.02
		25.0%フロアブル	1000倍散布 360 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場B:0.08	圃場B:0.04/0.02/-/<0.02
		25.0%フロアブル	1000倍散布 333 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場C:0.09	圃場C:0.05/0.02/-/<0.02
キウイ (果実)	3	25.0%フロアブル	1000倍散布 350 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場A:4.79	圃場A:3.32/*1.48/-/0.07 (*3回, 7日)
		25.0%フロアブル	1000倍散布 360 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場B:5.70	圃場B:3.68/*2.20/-/*0.18 (*3回, 7日)
		25.0%フロアブル	1000倍散布 333 L/10 a	3	1, 3, 7	圃場C:5.14	圃場C:3.53/*1.85/-/*0.16 (*3回, 7日)

注1) メタフルミゾン本体 (E体)、メタフルミゾン (Z体) 及び代謝物Dの合計濃度 (メタフルミゾンに換算した値) を示した。

注2) 当該農薬の登録又は申請された適用の範囲内で最も多量に用い、かつ最大使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験 (いわゆる最大使用条件下の作物残留試験) を複数の圃場で実施し、それぞれの試験から得られた残留濃度の最大値を示した。

代謝物C及び代謝物Dの残留濃度は、メタフルミゾン濃度に換算した値で示した。

表中、最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付しているが、経時的に測定されたデータがある場合において、収穫までの期間が最短の場合にのみ最大残留濃度が得られるとは限らないため、最大使用条件以外で最大残留濃度が得られた場合は、その使用回数及び経過日数について ( ) 内に記載した。

注3) (#)印で示した作物残留試験成績は、登録又は申請された適用の範囲内で行われていないことを示す。また、適用範囲内ではない試験条件を斜体で示した。

注4) 今回、新たに提出された作物残留試験成績に網を付けて示している。

注5) -: 分析せず。

食品名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績等 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
とうもろこし	0.2	0.2	○			<0.04,<0.04(とうもろこし)、 <0.04,<0.04(未成熟とうもろこし)
大豆	0.5	0.5	○			0.18,0.18
ばれいしょ	0.02	0.02		0.02		※1)
さといも類(やつかしらを含む。)	0.2	0.2	○			<0.04,<0.04
かんしょ	0.2	0.2	○			<0.04,<0.04
だいこん類(ラディッシュを含む。)の根	0.5	0.5	○			<0.2,<0.2
だいこん類(ラディッシュを含む。)の葉	30	30	○			19.2,21.1
かぶ類の根	0.5		申			0.06,0.07,0.12(\$)
かぶ類の葉	30		申			15.5,17.1,21.7(\$)
はくさい	10	10	○	6		2.7,5.6
キャベツ	5	5	○			1.4,3.0
芽キャベツ	0.8	0.8		0.8		※1)
ケール	40	40	○			(みずな参照)
こまつな	40	40	○			13.6,28.3(\$)
きょうな	40	40	○			16.3,30.4(\$)(みずな)
チンゲンサイ	10	10	○			2.66,3.48
ブロッコリー	10	10	○			3.49,5.17
その他のあぶらな科野菜	40	40	○			(みずな参照)
ごぼう	0.2	0.2	○			<0.04,<0.04
レタス(サラダ菜及びちしゃを含む。)	50	50	○	7		26.4,35.1(\$)(サラダ菜)
ねぎ(リーキを含む。)	10	10	○			1.2,3.6(\$)
アスパラガス	0.7	0.7	○			0.21,0.22
にんじん	0.3	0.3	○			<0.04,0.09
トマト	5	5	○	0.6		2.39,2.73(ミニトマト)
ピーマン	5	5	○	0.6		2.78,2.85
なす	3	3	○	0.6		0.78,1.22(\$)
その他のなす科野菜	0.6	0.6		0.6		※1)
ほうれんそう	70	70	○			25.4,51.8(\$)
しょうが	0.3	0.3	○			<0.04,0.06(\$)
えだまめ	10	10	○			4.08,5.24
みかん	0.3		申			0.08~0.15(n=6)
なつみかんの果実全体	5		申			1.15,1.41,2.31(\$)
レモン	5		申			(すだち、かぼす参照)
オレンジ(ネーブルオレンジを含む。)	5		申			(すだち、かぼす参照)
グレープフルーツ	5		申			(すだち、かぼす参照)
ライム	5		申			(すだち、かぼす参照)
その他のかんきつ類果実	5		申			1.79(すだち),2.25(かぼす)
うめ	10	10	○			2.68,3.49
いちご	0.2	0.2	○			<0.04,<0.04
キウイ	0.3		申			0.08,0.09,0.09
その他のスパイス	25		申			10.2~18.5(\$)(n=6)(みかんの果皮)
その他のハーブ	40	40	○			(みずな参照)
牛の筋肉	0.02	0.02		0.02		
豚の筋肉	0.02	0.02		0.02		
その他の陸棲哺乳類に属する動物の筋肉	0.02	0.02		0.02		
牛の脂肪	0.02	0.02				推:0.013
豚の脂肪	0.02	0.02				(牛の脂肪参照)
その他の陸棲哺乳類に属する動物の脂肪	0.02	0.02				(牛の脂肪参照)
牛の肝臓	0.02	0.02		0.02		
豚の肝臓	0.02	0.02		0.02		
その他の陸棲哺乳類に属する動物の肝臓	0.02	0.02		0.02		

食品名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績等 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
牛の腎臓	0.02	0.02		0.02		
豚の腎臓	0.02	0.02		0.02		
その他の陸棲哺乳類に属する動物の腎臓	0.02	0.02		0.02		
牛の食用部分	0.02	0.02		0.02		
豚の食用部分	0.02	0.02		0.02		
その他の陸棲哺乳類に属する動物の食用部分	0.02	0.02		0.02		
乳	0.01	0.01		0.01		
魚介類	2	2				推:1.106
とうがらし(乾燥させたもの)				6		※2)

「登録有無」の欄に「○」の記載があるものは、国内で農薬等としての使用が認められていることを示している。

「登録有無」の欄に「申」の記載があるものは、国内で農薬の登録申請等の基準値設定依頼がなされたものであることを示している。

(\$)これらの作物残留試験は、試験成績のばらつきを考慮し、この印をつけた残留値を基準値策定の根拠とした。

「作物残留試験」欄に「推」の記載のあるものは、推定残留濃度であることを示している。

※1) 国際基準の農産物における規制対象は、メタフルミジン(E体)及びメタフルミジン(Z体)であり、代謝物Dを含んでいないが、国際基準を参照しているばれいしょ、芽キャベツ、とうがらし(その他のなす科野菜)においては、JMPR評価書より代謝物Dの残留はほとんど認められないことが確認できているため、国際基準値をそのまま採用している。

※2) 加工食品であるとうがらし(乾燥させたもの)については、国際基準が設定されているものの、加工係数を用いて原材料中の濃度に換算した値が当該原材料中の基準値案を超えないことから、基準値を設定しないこととしている。基準値が設定されていない加工食品については原材料の基準値に基づき加工係数を考慮して適否を判断することとしている。なお、本物質についてJMPRはとうがらし(乾燥させた

メタフルミゾン推定摂取量 (単位:  $\mu\text{g}/\text{人}/\text{day}$ )

食品名	基準値案 (ppm)	国民全体 (1歳以上) TMDI	幼小児 (1~6歳) TMDI	妊婦 TMDI	高齢者 (65歳以上) TMDI
とうもろこし	0.2	0.9	1.1	1.2	0.9
大豆	0.5	19.5	10.2	15.7	23.1
ばれいしょ	0.02	0.8	0.7	0.8	0.7
さといも類 (やつがしらを含む。)	0.2	1.0	0.3	0.3	1.5
かんしょ	0.2	1.4	1.3	2.4	2.0
だいこん類 (ラディッシュを含む。) の根	0.5	16.5	5.7	10.3	22.9
だいこん類 (ラディッシュを含む。) の葉	30	51.0	18.0	93.0	84.0
かぶ類の根	0.5	1.4	0.4	0.1	2.5
かぶ類の葉	30	9.0	3.0	3.0	18.0
はくさい	10	177.0	51.0	166.0	216.0
キャベツ	5	120.5	58.0	95.0	119.0
芽キャベツ	0.8	0.1	0.1	0.1	0.1
ケール	40	8.0	4.0	4.0	8.0
こまつな	40	200.0	72.0	256.0	256.0
きょうな	40	88.0	16.0	56.0	108.0
チンゲンサイ	10	18.0	7.0	18.0	19.0
ブロッコリー	10	52.0	33.0	55.0	57.0
その他のあぶらな科野菜	40	136.0	24.0	32.0	192.0
ごぼう	0.2	0.8	0.3	0.8	0.9
レタス (サラダ菜及びちしゃを含む。)	50	480.0	220.0	570.0	460.0
ねぎ (リーキを含む。)	10	94.0	37.0	68.0	107.0
アスパラガス	0.7	1.2	0.5	0.7	1.8
にんじん	0.3	5.6	4.2	6.8	5.6
トマト	5	160.5	95.0	160.0	183.0
ピーマン	5	24.0	11.0	38.0	24.5
なす	3	36.0	6.3	30.0	51.3
その他のなす科野菜	0.6	0.7	0.1	0.7	0.7
ほうれんそう	70	896.0	413.0	994.0	1218.0
しょうが	0.3	0.5	0.1	0.3	0.5
えだまめ	10	17.0	10.0	6.0	27.0
みかん	0.3	5.3	4.9	0.2	7.9
なつみかんの果実全体	5	6.5	3.5	24.0	10.5
レモン	5	2.5	0.5	1.0	3.0
オレンジ (ネーブルオレンジを含む。)	5	35.0	73.0	62.5	21.0
グレープフルーツ	5	21.0	11.5	44.5	17.5
ライム	5	0.5	0.5	0.5	0.5
その他のかんきつ類果実	5	29.5	13.5	12.5	47.5
うめ	10	14.0	3.0	6.0	18.0
いちご	0.2	1.1	1.6	1.0	1.2
キウイ	0.3	0.7	0.4	0.7	0.9
その他のスパイス	25	2.5	2.5	2.5	5.0
その他のハーブ	40	36.0	12.0	4.0	56.0
陸棲哺乳類の肉類	0.02	1.2	0.9	1.3	0.8
陸棲哺乳類の食用部分 (肉類除く)	0.02	0.0	0.0	0.1	0.0
陸棲哺乳類の乳類	0.01	2.6	3.3	3.6	2.2
魚介類	2	186.2	79.2	106.4	229.6
計		2961.9	1313.5	2955.0	3632.3
ADI比 (%)		44.8	66.3	42.1	54.0



TMDI：理論最大1日摂取量 (Theoretical Maximum Daily Intake)

TMDI試算法：基準値案×各食品の平均摂取量

「陸棲哺乳類の肉類」については、TMDI計算では、牛・豚・その他の陸棲哺乳類に属する動物の筋肉、脂肪の摂取量にその範囲の基準値案で最も高い値を乗じた。

「魚介類」については、摂取する魚介類を内水面（湖や河川）魚介類、海産魚介類及び遠洋魚介類に分け、それぞれ海産魚介類での推定残留濃度を内水面魚介類の1/5、遠洋魚介類での推定残留濃度を0として算出した係数（0.31）を推定残留量に乗じた値を用いてEDI試算した。

(参考)

これまでの経緯

平成18年	2月22日	農林水産省より厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準値設定依頼（新規：はくさい、キャベツ）
平成18年	2月27日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成20年	8月29日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
平成21年	3月6日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
平成21年	9月28日	残留農薬基準告示、初回農薬登録
平成23年	2月7日	農林水産省より厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準値設定依頼（適用拡大：だいず、さといも等）並びに基準値設定依頼（魚介類）
平成23年	3月22日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成24年	2月16日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
平成24年	7月25日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
平成25年	5月15日	残留農薬基準告示
平成26年	2月7日	農林水産省より厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準値設定依頼（適用拡大：とうもろこし、アスパラガス等）
平成26年	3月20日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成26年	6月24日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
平成27年	4月21日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
平成28年11月	1月14日	厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請
平成29年	5月23日	食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知
平成29年	8月2日	薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会
平成30年	3月30日	残留農薬基準告示
平成29年12月	2月20日	農林水産省より厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準値設定依頼（適用拡大：かぶ、かんきつ、キウイフルーツ）

平成30年 4月18日 厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請  
平成30年 5月22日 食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知  
平成30年 8月22日 薬事・食品衛生審議会へ諮問  
平成30年 8月23日 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

● 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

[委員]

○ 穂山 浩 国立医薬品食品衛生研究所食品部長  
石井 里枝 埼玉県衛生研究所副所長（兼）食品微生物検査室長  
井之上 浩一 立命館大学薬学部薬学科臨床分析化学研究室准教授  
折戸 謙介 麻布大学獣医学部生理学教授  
魏 民 大阪市立大学大学院医学研究科分子病理学准教授  
佐々木 一昭 東京農工大学大学院農学研究院動物生命科学部門准教授  
佐藤 清 元 一般財団法人残留農薬研究所理事  
佐野 元彦 東京海洋大学海洋生物資源学部門教授  
永山 敏廣 明治薬科大学薬学部特任教授  
根本 了 国立医薬品食品衛生研究所食品部第一室長  
二村 睦子 日本生活協同組合連合会組織推進本部長  
宮井 俊一 一般社団法人日本植物防疫協会技術顧問  
由田 克士 大阪市立大学大学院生活科学研究科公衆栄養学教授  
吉成 浩一 静岡県立大学薬学部衛生分子毒性学分野教授

(○：部会長)

答申(案)

メタフルミゾン

食品名	残留基準値 ppm	
とうもろこし	0.2	
大豆	0.5	
ばれいしょ	0.02	
さといも類(やつがしらを含む。)	0.2	
かんしょ	0.2	
だいこん類(ラディッシュを含む。)の根	0.5	
だいこん類(ラディッシュを含む。)の葉	30	
かぶ類の根	0.5	
かぶ類の葉	30	
はくさい	10	
キャベツ	5	
芽キャベツ	0.8	
ケール	40	
こまつな	40	
きょうな	40	
チンゲンサイ	10	
ブロッコリー	10	
その他のあぶらな科野菜 <sup>注1)</sup>	40	注1)「その他のあぶらな科野菜」とは、あぶらな科野菜のうち、だいこん類の根、だいこん類の葉、かぶ類の根、かぶ類の葉、西洋わさび、クレソン、はくさい、キャベツ、芽キャベツ、ケール、こまつな、きょうな、チンゲンサイ、カリフラワー、ブロッコリー及びハーブ以外のものをいう。
ごぼう	0.2	
レタス(サラダ菜及びちしゃを含む。)	50	
ねぎ(リーキを含む。)	10	
アスパラガス	0.7	
にんじん	0.3	
トマト	5	
ピーマン	5	
なす	3	
その他のなす科野菜 <sup>注2)</sup>	0.6	注2)「その他のなす科野菜」とは、なす科野菜のうち、トマト、ピーマン及びなす以外のものをいう。
ほうれんそう	70	
しょうが	0.3	
えだまめ	10	
みかん	0.3	
なつみかんの果実全体	5	
レモン	5	
オレンジ(ネーブルオレンジを含む。)	5	
グレープフルーツ	5	
ライム	5	
その他のかんきつ類果実 <sup>注3)</sup>	5	注3)「その他のかんきつ類果実」とは、かんきつ類果実のうち、みかん、なつみかん、なつみかんの外果皮、なつみかんの果実全体、レモン、オレンジ、グレープフルーツ、ライム及びスパイス以外のものをいう。
うめ	10	
いちご	0.2	

食品名	残留基準値 ppm
キウイー	0.3
その他のスパイス <sup>注4)</sup>	25
その他のハーブ <sup>注5)</sup>	40
牛の筋肉	0.02
豚の筋肉	0.02
その他の陸棲哺乳類に属する動物 <sup>注6)</sup> の筋肉	0.02
牛の脂肪	0.02
豚の脂肪	0.02
その他の陸棲哺乳類に属する動物の脂肪	0.02
牛の肝臓	0.02
豚の肝臓	0.02
その他の陸棲哺乳類に属する動物の肝臓	0.02
牛の腎臓	0.02
豚の腎臓	0.02
その他の陸棲哺乳類に属する動物の腎臓	0.02
牛の食用部分 <sup>注7)</sup>	0.02
豚の食用部分	0.02
その他の陸棲哺乳類に属する動物の食用部分	0.02
乳	0.01
魚介類	2

注4)「その他のスパイス」とは、スパイスのうち、西洋わさび、わさびの根茎、にんにく、とうがらし、パプリカ、しょうが、レモンの果皮、オレンジの果皮、ゆずの果皮及びごまの種子以外のものをいう。

注5)「その他のハーブ」とは、ハーブのうち、クレソン、にら、パセリの茎、パセリの葉、セロリの茎及びセロリの葉以外のものをいう。

注6)「その他の陸棲哺乳類に属する動物」とは、陸棲哺乳類に属する動物のうち、牛及び豚以外のものをいう。

注7)「食用部分」とは、食用に供される部分のうち、筋肉、脂肪、肝臓及び腎臓以外の部分をいう。



府食第 342 号  
平成 30 年 5 月 22 日

厚生労働大臣  
加藤 勝信 殿

食品安全委員会  
委員長 佐藤 洋



### 食品健康影響評価の結果の通知について

平成 30 年 4 月 18 日付け厚生労働省発生食 0418 第 31 号をもって厚生労働大臣から食品安全委員会に意見を求められたメタフルミゾンに係る食品健康影響評価の結果は下記のとおりですので、食品安全基本法（平成 15 年法律第 48 号）第 23 条第 2 項の規定に基づき通知します。

なお、食品健康影響評価の詳細は別添のとおりです。

### 記

メタフルミゾンの一日常摂取許容量を 0.12 mg/kg 体重/日と設定し、急性参照用量は設定する必要がないと判断した。

# 農薬評価書

# メタフルミゾン (第5版)

2018年5月  
食品安全委員会

## 目 次

	頁
○ 審議の経緯.....	3
○ 食品安全委員会委員名簿.....	4
○ 食品安全委員会農薬専門調査会専門委員名簿.....	5
○ 要 約.....	11
I. 評価対象農薬の概要.....	12
1. 用途.....	12
2. 有効成分の一般名.....	12
3. 化学名.....	12
4. 分子式.....	12
5. 分子量.....	12
6. 構造式.....	13
7. 開発の経緯.....	13
II. 安全性に係る試験の概要.....	14
1. 動物体内運命試験.....	14
(1) ラット①.....	14
(2) ラット②.....	21
(3) ヤギ.....	23
(4) ニワトリ.....	25
2. 植物体内運命試験.....	26
(1) キャベツ.....	26
(2) トマト.....	27
(3) ワタ.....	27
3. 土壌中運命試験.....	28
(1) 好氣的土壌中運命試験.....	28
(2) 土壌吸着試験.....	29
4. 水中運命試験.....	29
(1) 加水分解試験.....	29
(2) 水中光分解試験（蒸留水及び自然水）.....	30
5. 土壌残留試験.....	30
6. 作物等残留試験.....	31
(1) 作物残留試験.....	31
(2) 後作物残留試験.....	31
(3) 畜産物残留試験.....	31
(4) 魚介類における最大推定残留値.....	32



(5) 推定摂取量	32
7. 一般薬理試験	33
8. 急性毒性試験	34
(1) 急性毒性試験	34
(2) 急性神経毒性試験	34
9. 眼・皮膚に対する刺激性及び皮膚感作性試験	35
10. 亜急性毒性試験	35
(1) 90日間亜急性毒性試験(ラット)	35
(2) 90日間亜急性毒性試験(イヌ)	36
(3) 28日間亜急性毒性試験(イヌ) <参考資料>	37
(4) 90日間亜急性神経毒性試験(ラット)	37
(5) 90日間亜急性毒性試験(ラット、Z-異性体)	38
(6) 90日間亜急性毒性試験(ラット、代謝物C)	38
11. 慢性毒性試験及び発がん性試験	40
(1) 1年間慢性毒性試験(イヌ)	40
(2) 2年間慢性毒性/発がん性併合試験(ラット)	41
(3) 18か月間発がん性試験(マウス)	42
12. 生殖発生毒性試験	42
(1) 2世代繁殖試験(ラット)	42
(2) 発生毒性試験(ラット)	44
(3) 発生毒性試験(ウサギ)	45
13. 遺伝毒性試験	45
III. 食品健康影響評価	48
・別紙1: 代謝物/分解物略称	54
・別紙2: 検査値等略称	56
・別紙3: 作物残留試験成績	57
・別紙4: 後作物残留試験	81
・別紙5: 畜産物残留試験成績(泌乳牛)	82
・別紙6: 畜産物残留試験成績(産卵鶏)	83
・別紙7: 推定摂取量	84
・参照	86

## <審議の経緯>

### －第1版関係－

- 2006年 2月 22日 農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準値設定依頼（新規：はくさい、キャベツ）
- 2006年 2月 27日 厚生労働大臣から残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請（厚生労働省発食安第0227001号）
- 2006年 2月 28日 関係書類の接受（参照1～41）
- 2006年 3月 2日 第133回食品安全委員会（要請事項説明）
- 2006年 9月 6日 第4回農薬専門調査会総合評価第一部会
- 2007年 12月 18日 追加資料受理（参照42）
- 2008年 5月 9日 第15回農薬専門調査会確認評価第一部会
- 2008年 6月 24日 第40回農薬専門調査会幹事会
- 2008年 7月 17日 第247回食品安全委員会（報告）
- 2008年 7月 17日 から8月15日まで 国民からの意見・情報の募集
- 2008年 8月 26日 農薬専門調査会座長から食品安全委員会委員長へ報告
- 2008年 8月 28日 第252回食品安全委員会（報告）
- 2008年 8月 29日 厚生労働大臣へ通知（参照43）
- 2009年 9月 28日 残留農薬基準告示（参照44）、初回農薬登録

### －第2版関係－

- 2011年 2月 7日 農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準値設定依頼（適用拡大：だいず、さといも等）並びに基準値設定依頼（魚介類）
- 2011年 3月 22日 厚生労働大臣から残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請（厚生労働省発食安0322第10号）
- 2011年 3月 25日 関係書類の接受（参照45～53）
- 2011年 4月 28日 第380回食品安全委員会（要請事項説明）
- 2012年 1月 13日 第79回農薬専門調査会幹事会
- 2012年 2月 13日 農薬専門調査会座長から食品安全委員会委員長へ報告
- 2012年 2月 16日 第419回食品安全委員会（報告）  
（同日付け厚生労働大臣へ通知）（参照55）
- 2013年 5月 15日 残留農薬基準告示（参照56）

### －第3版関係－

- 2014年 2月 7日 農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準値設定依頼（適用拡大：とうもろこし、アスパラガス等）
- 2014年 3月 20日 厚生労働大臣から残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請（厚生労働省発食安0320第6号）

- 2014年 3月 25日 関係書類の接受（参照 57～62）  
 2014年 3月 31日 第 509 回食品安全委員会（要請事項説明）  
 2014年 6月 24日 第 519 回食品安全委員会（審議）  
 （同日付け厚生労働大臣へ通知）（参照 63）

－第 4 版関係－

- 2016年 11月 14日 厚生労働大臣から残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請（厚生労働省発生食 1114 第 5 号）、関係書類の接受（参照 64～74）  
 2016年 11月 22日 第 630 回食品安全委員会（要請事項説明）  
 2017年 1月 18日 第 60 回農薬専門調査会評価第二部会  
 2017年 3月 29日 第 146 回農薬専門調査会幹事会  
 2017年 4月 11日 第 645 回食品安全委員会（報告）  
 2017年 4月 12日 から 5月 11日 まで 国民からの意見・情報の募集  
 2017年 5月 17日 農薬専門調査会座長から食品安全委員会委員長へ報告  
 2017年 5月 23日 第 650 回食品安全委員会（報告）  
 （同日付け厚生労働大臣へ通知）（参照 75）  
 2018年 3月 30日 残留農薬基準告示（参照 76）

－第 5 版関係－

- 2017年 12月 20日 農林水産省から厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準値設定依頼（適用拡大：かぶ、かんきつ等）  
 2018年 4月 18日 厚生労働大臣から残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請（厚生労働省発生食 0418 第 31 号）、関係書類の接受（参照 77～84）  
 2018年 4月 24日 第 694 回食品安全委員会（要請事項説明）  
 2018年 5月 22日 第 697 回食品安全委員会（審議）  
 （同日付け厚生労働大臣へ通知）

**<食品安全委員会委員名簿>**

(2006年 6月 30日まで)	(2006年 12月 20日まで)	(2009年 6月 30日まで)
寺田雅昭（委員長）	寺田雅昭（委員長）	見上 彪（委員長）
寺尾允男（委員長代理）	見上 彪（委員長代理）	小泉直子（委員長代理*）
小泉直子	小泉直子	長尾 拓
坂本元子	長尾 拓	野村一正
中村靖彦	野村一正	畑江敬子
本間清一	畑江敬子	廣瀬雅雄**
見上 彪	本間清一	本間清一

\* : 2007年2月1日から

\*\* : 2007年4月1日から

(2011年1月6日まで)

小泉直子 (委員長)  
見上 彪 (委員長代理\*)  
長尾 拓  
野村一正  
畑江敬子  
廣瀬雅雄  
村田容常

\* : 2009年7月9日から

(2012年6月30日まで)

小泉直子 (委員長)  
熊谷 進 (委員長代理\*)  
長尾 拓  
野村一正  
畑江敬子  
廣瀬雅雄  
村田容常

\* : 2011年1月13日から

(2015年6月30日まで)

熊谷 進 (委員長)  
佐藤 洋 (委員長代理)  
山添 康 (委員長代理)  
三森国敏 (委員長代理)  
石井克枝  
上安平冽子  
村田容常

(2017年1月6日まで)

佐藤 洋 (委員長)  
山添 康 (委員長代理)  
熊谷 進  
吉田 緑  
石井克枝  
堀口逸子  
村田容常

(2017年1月7日から)

佐藤 洋 (委員長)  
山添 康 (委員長代理)  
吉田 緑  
山本茂貴  
石井克枝  
堀口逸子  
村田容常

## <食品安全委員会農薬専門調査会専門委員名簿>

(2007年3月31日まで)

鈴木勝士 (座長)

廣瀬雅雄 (座長代理)

赤池昭紀

石井康雄

泉 啓介

上路雅子

臼井健二

江馬 眞

大澤貫寿

太田敏博

大谷 浩

小澤正吾

小林裕子

三枝順三

佐々木有

高木篤也

玉井郁巳

田村廣人

津田修治

津田洋幸

出川雅邦

長尾哲二

中澤憲一

納屋聖人

成瀬一郎

布柴達男

根岸友恵

林 眞

平塚 明

藤本成明

細川正清

松本清司

柳井徳磨

山崎浩史

山手丈至

與語靖洋

吉田 緑

若栗 忍

(2008年3月31日まで)

鈴木勝士 (座長)	三枝順三	西川秋佳**
林 真 (座長代理*)	佐々木有	布柴達男
赤池昭紀	代田眞理子****	根岸友恵
石井康雄	高木篤也	平塚 明
泉 啓介	玉井郁巳	藤本成明
上路雅子	田村廣人	細川正清
臼井健二	津田修治	松本清司
江馬 眞	津田洋幸	柳井徳磨
大澤貫寿	出川雅邦	山崎浩史
太田敏博	長尾哲二	山手丈至
大谷 浩	中澤憲一	與語靖洋
小澤正吾	納屋聖人	吉田 緑
小林裕子	成瀬一郎***	若栗 忍

\* : 2007年4月11日から

\*\* : 2007年4月25日から

\*\*\* : 2007年6月30日まで

\*\*\*\* : 2007年7月1日から

(2010年3月31日まで)

鈴木勝士 (座長)	佐々木有	平塚 明
林 真 (座長代理)	代田眞理子	藤本成明
相磯成敏	高木篤也	細川正清
赤池昭紀	玉井郁巳	堀本政夫
石井康雄	田村廣人	松本清司
泉 啓介	津田修治	本間正充
今井田克己	津田洋幸	柳井徳磨
上路雅子	長尾哲二	山崎浩史
臼井健二	中澤憲一*	山手丈至
太田敏博	永田 清	與語靖洋
大谷 浩	納屋聖人	義澤克彦**
小澤正吾	西川秋佳	吉田 緑
川合是彰	布柴達男	若栗 忍
小林裕子	根岸友恵	
三枝順三 <sup>1</sup> ***	根本信雄	

<sup>1</sup> 第15回農薬専門調査会確認評価第一部会に参考人として出席

\* : 2009年1月19日まで  
\*\* : 2009年4月10日から  
\*\*\* : 2009年4月28日から

(2012年3月31日まで)

納屋聖人 (座長)	佐々木有	平塚 明
林 真 (座長代理)	代田眞理子	福井義浩
相磯成敏	高木篤也	藤本成明
赤池昭紀	玉井郁巳	細川正清
浅野 哲**	田村廣人	堀本政夫
石井康雄	津田修治	本間正充
泉 啓介	津田洋幸	増村健一**
上路雅子	長尾哲二	松本清司
臼井健二	永田 清	柳井徳磨
太田敏博	長野嘉介*	山崎浩史
小澤正吾	西川秋佳	山手丈至
川合是彰	布柴達男	與語靖洋
川口博明	根岸友恵	義澤克彦
桑形麻樹子***	根本信雄	吉田 緑
小林裕子	八田稔久	若栗 忍
三枝順三		

\* : 2011年3月1日まで  
\*\* : 2011年3月1日から  
\*\*\* : 2011年6月23日から

(2014年3月31日まで)

- ・ 幹事会

納屋聖人 (座長)	上路雅子	松本清司
西川秋佳* (座長代理)	永田 清	山手丈至**
三枝順三 (座長代理**)	長野嘉介	吉田 緑
赤池昭紀	本間正充	

- ・ 評価第一部会

上路雅子 (座長)	津田修治	山崎浩史
赤池昭紀 (座長代理)	福井義浩	義澤克彦
相磯成敏	堀本政夫	若栗 忍

- ・ 評価第二部会

吉田 緑 (座長)	桑形麻樹子	藤本成明
松本清司 (座長代理)	腰岡政二	細川正清
泉 啓介	根岸友恵	本間正充

・評価第三部会

三枝順三（座長）	小野 敦	永田 清
納屋聖人（座長代理）	佐々木有	八田稔久
浅野 哲	田村廣人	増村健一

・評価第四部会

西川秋佳*（座長）	川口博明	根本信雄
長野嘉介（座長代理*； 座長**）	代田眞理子	森田 健
山手丈至（座長代理**）	玉井郁巳	與語靖洋
井上 薫**		

\*：2013年9月30日まで

\*\*：2013年10月1日から

（2016年3月31日まで）

・幹事会

西川秋佳（座長）	小澤正吾	林 真
納屋聖人（座長代理）	三枝順三	本間正充
赤池昭紀	代田眞理子	松本清司
浅野 哲	永田 清	與語靖洋
上路雅子	長野嘉介	吉田 緑*

・評価第一部会

上路雅子（座長）	清家伸康	藤本成明
赤池昭紀（座長代理）	林 真	堀本政夫
相磯成敏	平塚 明	山崎浩史
浅野 哲	福井義浩	若栗 忍
篠原厚子		

・評価第二部会

吉田 緑（座長）*	腰岡政二	細川正清
松本清司（座長代理）	佐藤 洋	本間正充
小澤正吾	杉原数美	山本雅子
川口博明	根岸友恵	吉田 充
桑形麻樹子		

・評価第三部会

三枝順三（座長）	高木篤也	中山真義
納屋聖人（座長代理）	田村廣人	八田稔久
太田敏博	中島美紀	増村健一
小野 敦	永田 清	義澤克彦

・評価第四部会

西川秋佳（座長）	佐々木有	本多一郎
----------	------	------

長野嘉介（座長代理）  
井上 薫\*\*  
加藤美紀

代田眞理子  
玉井郁巳  
中塚敏夫

森田 健  
山手丈至  
與語靖洋

\*：2015年6月30日まで

\*\*：2015年9月30日まで

（2018年3月31日まで）

・幹事会

西川秋佳（座長）

三枝順三

長野嘉介

納屋聖人（座長代理）

代田眞理子

林 真

浅野 哲

清家伸康

本間正充\*

小野 敦

中島美紀

與語靖洋

・評価第一部会

浅野 哲（座長）

桑形麻樹子

平林容子

平塚 明（座長代理）

佐藤 洋

本多一郎

堀本政夫（座長代理）

清家伸康

森田 健

相磯成敏

豊田武士

山本雅子

小澤正吾

林 真

若栗 忍

・評価第二部会

三枝順三（座長）

高木篤也

八田稔久

小野 敦（座長代理）

中島美紀

福井義浩

納屋聖人（座長代理）

中島裕司

本間正充\*

腰岡政二

中山真義

美谷島克宏

杉原数美

根岸友恵

義澤克彦

・評価第三部会

西川秋佳（座長）

加藤美紀

高橋祐次

長野嘉介（座長代理）

川口博明

塚原伸治

與語靖洋（座長代理）

久野壽也

中塚敏夫

石井雄二

篠原厚子

増村健一

太田敏博

代田眞理子

吉田 充

\*：2017年9月30日まで

<第60回農薬専門調査会評価第二部会専門参考人名簿>

永田 清

松本清司

<第146回農薬専門調査会幹事会専門参考人名簿>

赤池昭紀

永田 清

松本清司



上路雅子

## 要 約

トリフルオロメトキシフェニル環を有する殺虫剤である「メタフルミゾン」(CAS No. 139968-49-3) について、各種資料を用いて食品健康影響評価を実施した。なお、今回、作物残留試験(かぶ、温州みかん等)の成績等が新たに提出された。

評価に用いた試験成績は、動物体内運命(ラット、ヤギ及びニワトリ)、植物体内運命(キャベツ、トマト等)、作物等残留、亜急性毒性(ラット及びイヌ)、亜急性神経毒性(ラット)、慢性毒性(イヌ)、慢性毒性/発がん性併合(ラット)、発がん性(マウス)、2世代繁殖(ラット)、発生毒性(ラット及びウサギ)、遺伝毒性等の試験成績である。

各種毒性試験結果から、メタフルミゾン投与による影響は主に体重(増加抑制)、血液(貧血)及び肝臓(小葉中心性肝細胞肥大等)に認められた。神経毒性、発がん性、催奇形性及び生体において問題となる遺伝毒性は認められなかった。

各種試験結果から、農産物中の暴露評価対象物質をメタフルミゾン(*E*-異性体及び*Z*-異性体)及び代謝物D、畜産物及び魚介類中の暴露評価対象物質をメタフルミゾン(*E*-異性体及び*Z*-異性体)と設定した。

各試験で得られた無毒性量のうち最小値は、イヌを用いた1年間慢性毒性試験の12 mg/kg 体重/日であったことから、これを根拠として、安全係数100で除した0.12 mg/kg 体重/日を一日摂取許容量(ADI)と設定した。

また、メタフルミゾンの単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響は認められなかったことから、急性参照用量(ARfD)は設定する必要がないと判断した。

## I. 評価対象農薬の概要

### 1. 用途

殺虫剤

### 2. 有効成分の一般名

和名：メタフルミゾン

英名：metaflumizone (ISO 名)

### 3. 化学名

#### IUPAC

和名：90-100%の

(*E*)-2'-[2-(4-シアノフェニル)-1-( $\alpha,\alpha,\alpha$ -トリフルオロ-*m*-トリル)エチリデン]-4-(トリフルオロメトキシ)カルバニロヒドラジド  
及び0-10%の

(*Z*)-2'-[2-(4-シアノフェニル)-1-( $\alpha,\alpha,\alpha$ -トリフルオロ-*m*-トリル)エチリデン]-4-(トリフルオロメトキシ)カルバニロヒドラジド  
の混合物

英名：a mixture of 90-100%

(*E*)-2'-[2-(4-cyanophenyl)-1-( $\alpha,\alpha,\alpha$ -trifluoro-*m*-tolyl)ethylidene]-4-(trifluoromethoxy)carbanilohydrazide  
and 10-0%

(*Z*)-2'-[2-(4-cyanophenyl)-1-( $\alpha,\alpha,\alpha$ -trifluoro-*m*-tolyl)ethylidene]-4-(trifluoromethoxy)carbanilohydrazide

#### CAS(No. 139968-49-3)

和名：2-[2-(4-シアノフェニル)-1-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]エチリデン]-*N*[4-(トリフルオロメトキシ)フェニル]ヒドラジンカルボキサミド

英名：2-[2-(4-cyanophenyl)-1-[3-(trifluoromethyl)phenyl]ethylidene]-*N*[4-(trifluoromethoxy)phenyl]hydrazinecarboxamide

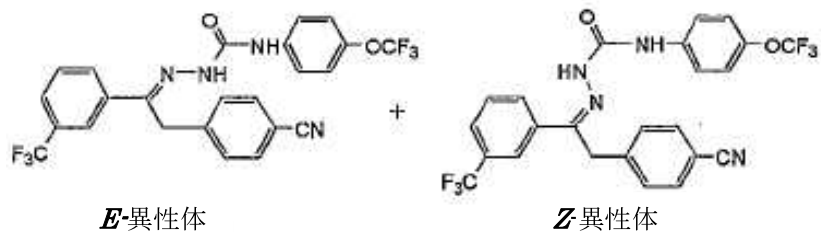
### 4. 分子式

$C_{24}H_{16}F_6N_4O_2$

### 5. 分子量

506.4

## 6. 構造式



(原体中の含有率 *E*異性体：90%以上、*Z*異性体：10%以下)

## 7. 開発の経緯

メタフルミゾンとは、1989年に日本農薬株式会社により開発されたトリフルオロメトキシフェニル環を有する殺虫剤である。本剤は、昆虫の神経細胞のNa<sup>+</sup>チャンネルに作用し、神経系での情報伝達を阻害すると考えられる。合成ピレスロイド系殺虫剤とは異なる作用機構で電位依存性Na<sup>+</sup>チャンネルに作用すると考えられる。

今回、農薬取締法に基づく農薬登録申請（適用拡大：かぶ、かんきつ等）がなされている。

## II. 安全性に係る試験の概要

各種運命試験 [II. 1~4] は、メタフルミゾンのベンゾニトリル環の炭素を  $^{14}\text{C}$  で均一に標識したもの（以下「[ben- $^{14}\text{C}$ ]メタフルミゾン」という。）及びトリフルオロメトキシフェニル環の炭素を  $^{14}\text{C}$  で標識したもの（以下「[trf- $^{14}\text{C}$ ]メタフルミゾン」という。）を用いて実施された。放射能濃度及び代謝物濃度は、特に断りがない場合は比放射能（質量放射能）からメタフルミゾンの濃度（mg/kg 又は  $\mu\text{g/g}$ ）に換算した値として示した。

代謝物/分解物略称及び検査値等略称は別紙 1 及び 2 に示されている。

### 1. 動物体内運命試験

#### (1) ラット①

##### ① 吸収

##### a. 血中濃度推移

SD ラット（一群雌雄各 4 匹）に、[ben- $^{14}\text{C}$ ]メタフルミゾン又は [trf- $^{14}\text{C}$ ]メタフルミゾンを低用量（30 mg/kg 体重）又は高用量（1,000 mg/kg 体重）で単回経口投与して、血中濃度推移について検討された。

全血中薬物動態学的パラメータは表 1 に示されている。

$T_{1/2}$  は、[ben- $^{14}\text{C}$ ]メタフルミゾン及び [trf- $^{14}\text{C}$ ]メタフルミゾンでそれぞれ 38~48 時間及び 139~402 時間であった。[ben- $^{14}\text{C}$ ]メタフルミゾンの低用量投与群では血中濃度推移に雌雄間の差はなく、 $C_{\text{max}}$  は雄及び雌でそれぞれ 0.15 及び 0.18 mg/L、 $T_{\text{max}}$  はそれぞれ投与 10 及び 12 時間後であった。[trf- $^{14}\text{C}$ ]メタフルミゾンの低用量投与群では  $C_{\text{max}}$  は [ben- $^{14}\text{C}$ ]メタフルミゾン投与時より高く、雄で 15 時間後に 0.30 mg/L、雌で 23 時間後に 0.22 mg/L であった。 $T_{1/2}$  も雄で 139 時間、雌で 325 時間と長く、[ben- $^{14}\text{C}$ ]メタフルミゾンに比べ 3~7 倍であった。これは、トリフルオロメトキシフェニル環を有する [trf- $^{14}\text{C}$ ]メタフルミゾンの代謝物が、血球成分と吸着又は結合した結果と推定された。（参照 2）

表 1 全血中薬物動態学的パラメータ

標識体	[ben- $^{14}\text{C}$ ]メタフルミゾン				[trf- $^{14}\text{C}$ ]メタフルミゾン			
	30		1,000		30		1,000	
投与量(mg/kg 体重)	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌
$T_{\text{max}}$ (hr)	10	12	32	27	15	23	48	23
$C_{\text{max}}$ ( $\mu\text{g/mL}$ )	0.146	0.183	1.67	2.18	0.304	0.224	3.95	6.43
$T_{1/2}$ (hr)	44	48	38	42	139	325	230	402
$\text{AUC}_{0-\infty}$ (hr · $\mu\text{g/mL}$ )	8.5	9.0	82.3	76.5	66.1	102	1,460	2,550

##### b. 吸収率

胆汁中排泄試験 [1. (1)④b.] で得られた投与後 72 時間の胆汁、尿及びカーカ

ス<sup>2</sup>中の残存放射能から算出された吸収率は、少なくとも低用量投与群で 2.7%～7.3%、高用量投与群で 0.8%～1.9%であった。（参照 2）

## ② 分布（単回投与）

SD ラット（一群雌雄各 3 匹）に[ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン又は[trf-<sup>14</sup>C]メタフルミゾンを低用量又は高用量で単回経口投与して、体内分布試験が実施された。

主要組織における残留放射能濃度は表 2 に示されている。

[ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン投与時には、消化管、肝臓、脂肪、副腎、甲状腺、膵臓及び腎臓に高濃度の放射能が認められた。消化管及び脂肪を除くほとんど全ての組織及び臓器中の残留放射能濃度は、投与量にかかわらず雌雄ともに血液の T<sub>max</sub> 付近で最高値となり、以後経時的に減少して、投与 168 時間後には大部分の組織及び臓器中放射能は 0.1% TAR 未満に減衰した。しかし、脂肪中の放射能濃度は最終投与 48 時間後（低用量投与群）又は 168 時間後（高用量投与群）まで増加した。

[trf-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン投与時には、消化管、脂肪、肝臓、副腎、膵臓、甲状腺及び腎臓に高濃度の放射能が認められた。ほとんどの組織及び臓器中の残留放射能濃度は、投与量にかかわらず雌雄ともに血液の T<sub>max</sub> 付近で最高値となった。肝臓及び血漿中の放射能濃度は、初期の時点で最高値となった。（参照 2）

表 2 主要組織における残留放射能濃度 (µg/g)

投与量	標識体	性別	T <sub>max</sub> 付近 <sup>1)</sup>	最終試料採取時間 <sup>2)</sup>
30 mg/kg 体重	[ben- <sup>14</sup> C] メタフル ミゾン	雄	消化管(4.72)、肝臓(3.93)、脂肪(3.65)、副腎(2.75)、甲状腺(1.57)、膵臓(1.49)、腎臓(1.29)、脾臓(0.54)、骨髓(0.47)、血漿(0.19)、血液(0.11)	脂肪(4.99)、肝臓(1.59)、膵臓(0.91)、副腎(0.71)、消化管(0.34)、甲状腺(0.33)、腎臓(0.31)、脾臓(0.14)、骨髓(0.10)、血液(0.03)、血漿(0.02)、赤血球(0.02)
		雌	消化管(4.84)、脂肪(3.89)、肝臓(3.04)、副腎(2.85)、腎臓(1.11)、甲状腺(1.02)、骨髓(0.43)、脾臓(0.41)、血漿(0.13)、血液(0.09)、赤血球(0.06)	脂肪(6.96)、肝臓(1.34)、副腎(1.12)、消化管(0.54)、甲状腺(0.40)、腎臓(0.37)、脾臓(0.20)、骨髓(0.16)、血漿(0.03)、血液(0.03)、赤血球(0.03)
	[trf- <sup>14</sup> C] メタフル ミゾン	雄	脂肪(4.92)、消化管(4.84)、副腎(2.91)、肝臓(2.70)、膵臓(2.17)、甲状腺(1.58)、腎臓(1.55)、脾臓(0.67)、骨髓(0.60)、赤血球(0.45)、血液(0.33)、血漿(0.26)	脂肪(2.12)、赤血球(0.52)、血液(0.31)、肝臓(0.18)、副腎(0.17)、膵臓(0.14)、消化管(0.14)、腎臓(0.14)、胸腺(0.13)、甲状腺(0.10)、脾臓(0.08)、骨髓(0.05)、血漿(0.01)

<sup>2</sup> 組織・臓器を取り除いた残渣のことをカーカスという（以下同じ。）。

		雌	脂肪(6.53)、副腎(5.08)、肝臓(3.47)、消化管(3.47)、膵臓(2.60)、甲状腺(2.01)、腎臓(1.87)、脾臓(0.81)、骨髓(0.57)、赤血球(0.34)、血液(0.33)、血漿(0.14)	脂肪(4.23)、皮膚(0.69)、消化管(0.46)、副腎(0.45)、赤血球(0.43)、甲状腺(0.32)、膵臓(0.31)、血液(0.30)、肝臓(0.28)、腎臓(0.24)、脾臓(0.12)、骨髓(0.09)、血漿(0.02)
1,000 mg/kg 体重	[ben- <sup>14</sup> C]メタフルミゾン	雄	脂肪(34.7)、肝臓(18.7)、消化管(14.1)、副腎(12.1)、膵臓(11.8)、甲状腺(4.62)、腎臓(3.28)、脾臓(1.94)、骨髓(1.49)、血漿(0.42)、血液(0.37)、赤血球(0.31)	脂肪(73.3)、肝臓(22.8)、膵臓(11.4)、副腎(9.58)、甲状腺(5.02)、腎臓(4.41)、消化管(4.41)、骨髓(2.67)、脾臓(2.02)、血漿(0.73)、血液(0.55)、赤血球(0.49)
		雌	消化管(141)、脂肪(56.0)、肝臓(28.0)、副腎(22.9)、膵臓(18.9)、甲状腺(7.36)、腎臓(6.48)、骨髓(4.48)、脾臓(3.81)、血漿(1.02)、血液(0.71)、赤血球(0.51)	脂肪(93.2)、肝臓(36.2)、副腎(25.0)、膵臓(22.1)、消化管(15.8)、腎臓(10.0)、胸腺(9.96)、骨髓(9.38)、甲状腺(7.85)、肺(7.79)、脾臓(5.72)、血漿(1.31)、赤血球(1.20)、血液(1.15)
	[trf- <sup>14</sup> C]メタフルミゾン	雄	脂肪(85.7)、消化管(19.6)、副腎(17.6)、肝臓(14.2)、膵臓(10.9)、赤血球(9.30)、肺(8.99)、腎臓(7.57)、血液(6.31)、脾臓(4.37)、骨髓(2.47)、血漿(1.75)	脂肪(13.6)、赤血球(10.0)、血液(6.66)、副腎(2.13)、肺(1.88)、肝臓(1.65)、膵臓(1.60)、甲状腺(1.33)、腎臓(1.19)、消化管(1.10)、脾臓(1.06)、骨髓(0.69)、血漿(0.25)
		雌	消化管(96.6)、脂肪(33.3)、副腎(18.1)、肝臓(16.5)、赤血球(10.4)、甲状腺(6.60)、腎臓(5.95)、血液(4.62)、下垂体(4.26)、骨髓(3.83)、脾臓(3.71)、膵臓(2.67)、血漿(2.37)	脂肪(31.6)、赤血球(6.18)、血液(3.97)、副腎(3.91)、消化管(3.10)、肝臓(2.29)、甲状腺(2.01)、腎臓(1.60)、脾臓(1.21)、膵臓(0.87)、骨髓(0.66)、血漿(0.21)

- 1) 低用量投与群、[ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾンは 10 時間後、[trf-<sup>14</sup>C]メタフルミゾンは 12 時間後。  
高用量投与群、[ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾンは 36 時間後、[trf-<sup>14</sup>C]メタフルミゾンは 12 時間後。  
2) [ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾンは 168 時間後、[trf-<sup>14</sup>C]メタフルミゾンは 288 時間後。

### ③ 代謝

尿及び糞中排泄試験 [1. (1)④a.] で得られた糞並びに胆汁中排泄試験 [1. (1)④b.] で得られた尿及び胆汁中の代謝物について、代謝試験が実施された。

尿及び胆汁中における代謝物は表 3 に示されている。

糞中における主要成分は未変化のメタフルミゾンであり、92%TRR 以上を占めた。

尿中からは、未変化のメタフルミゾンは検出されず、主要代謝物として [ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン投与群では I 及び L が、[trf-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン低用量

投与群では E 及び P が、高用量投与群では O がそれぞれ検出された。

胆汁からは、未変化のメタフルミゾンは検出されず、主要代謝物として [ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン投与群では I が、[trf-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン投与群では Q、S 及び T (いずれも 0.2% TAR 未満) がそれぞれ検出された。(参照 2)

表 3 尿及び胆汁中における代謝物 (%TAR)

標識体	投与量	性別	部位	代謝物
[ben- <sup>14</sup> C] メタフルミ ゾン	30 mg/kg 体重	雄	尿	L(0.17)、F(0.04)、I(0.03)、J(0.03)、その他(0.03)
			胆汁	I(1.56)、F(0.56)、J(0.50)、D(0.17)、K(0.12)、L(0.10)、その他(0.69)
		雌	尿	L(0.21)、I(0.16)、J(0.05)、F(0.01)、その他(0.07)
			胆汁	I(0.93)、F(0.60)、J(0.29)、D(0.10)、L(0.09)、K(0.08)、その他(0.61)
	1,000 mg/kg 体重	雄	尿	I(0.09)、L(0.08)、F(0.01)、J(0.01)、その他(0.01)
			胆汁	I(0.68)、J(0.16)、K(0.06)、D(0.05)、F(0.03)、L(0.03)、その他(0.29)
		雌	尿	I(0.18)、L(0.11)、J(0.03)、F(0.02)、その他(0.06)
			胆汁	I(0.31)、J(0.08)、D(0.04)、K(0.03)、L(0.02)、F(0.01)、その他(0.21)
[trf- <sup>14</sup> C] メタフルミ ゾン	30 mg/kg 体重	雄	尿	P(0.16)、E(0.10)、N(0.03)、O(0.02)、M(0.01)、その他(0.08)
			胆汁	T(0.11)、S(0.10)、Q(0.03)、その他(0.56)
		雌	尿	E(0.16)、P(0.15)、N(0.02)、O(0.01)、M(0.00)、その他(0.06)
			胆汁	T(0.08)、S(0.05)、Q(0.02)、その他(0.35)
	1,000 mg/kg 体重	雄	尿	O(0.18)、P(0.10)、E(0.03)、M(0.01)、N(0.01)、その他(0.07)
			胆汁	S(0.04)、Q(0.02)、T(0.02)、その他(0.22)
		雌	尿	O(0.24)、P(0.08)、E(0.02)、M(0.02)、N(0.00)、その他(0.04)
			胆汁	S(0.03)、T(0.02)、Q(0.01)、その他(0.14)

メタフルミゾンはラットに投与されると、そのほとんどは未変化のメタフルミゾンとして糞中に排泄された。体内に吸収されたメタフルミゾンの主要代謝経路は、①ヒドラジンカルボキサミド部分の加水分解による代謝物 E 及び D の生成並びに②ベンズニトリル環又はトリフルオロメトキシフェニル環の水酸化による代謝物 J、M 及び N の生成と考えられた。①の反応の後、さらにグルクロン酸、グリシン、マロン酸又はシュウ酸との抱合体形成による代謝物 I、L、O 又は P の生成が、一方、②の反応の後では、メタフルミゾン分子内のフッ素 1 原子の離脱を伴うグルタチオン抱合による代謝物 Q、S 及び T の生成経路がそれぞれ



考えられた。(参照 2)

#### ④ 排泄

##### a. 尿及び糞中排泄

SD ラット (一群雌雄各 5 匹) に[ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン又は [trf-<sup>14</sup>C]メタフルミゾンを低用量又は高用量で単回経口投与して、排泄試験が実施された。投与後 168 時間までの尿、糞及びケージ洗浄液を採取して、放射能濃度を測定した。

投与後 168 時間の尿及び糞中排泄率は表 4 に示されている。

性、投与量及び標識体の違いにかかわらず投与放射能は主に糞中に排泄された。(参照 2)

表 4 投与後 168 時間の尿及び糞中排泄率 (%TAR)

標識体 投与量(mg/kg 体重)	[ben- <sup>14</sup> C]メタフルミゾン				[trf- <sup>14</sup> C]メタフルミゾン			
	30		1,000		30		1,000	
性別	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌
尿*	0.87	0.74	2.20	2.27	1.5	1.08	3.11	2.09
糞	95.0	94.4	112	103	89.3	88.6	89.9	92.3

\* : ケージ洗浄液を含む。

##### b. 胆汁中排泄

胆管カニューレを挿入した SD ラット (一群雌雄 4 匹) に[ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン又は[trf-<sup>14</sup>C]メタフルミゾンを低用量又は高用量で単回経口投与して、胆汁中排泄試験が実施された。

投与後 72 時間の胆汁、尿、消化管及びカーカスにおける放射能は表 5 に示されている。

いずれの性、投与量及び標識体においても、投与後 72 時間に回収された総放射能は 10%TAR 未満であった。投与量にかかわらず、吸収されたメタフルミゾンの大部分は胆汁中へ排泄されたが、その量は低用量投与群及び高用量投与群で、それぞれ 0.9%TAR~4.7%TAR 及び 0.2%TAR~1.3%TAR であった。尿中への排泄率は非常に低く、低用量投与群及び高用量投与群ともに 0.5%TAR 未満であった。(参照 2)

表5 投与後 72 時間の胆汁、尿、消化管及びカーカスにおける放射能 (%TAR)

標識体	投与量	性別	胆汁	尿*	消化管	カーカス
[ben- <sup>14</sup> C] メタフルミゾン	30 mg/kg 体重	雄	4.7	0.3	0.0	2.3
		雌	3.7	0.5	0.1	2.4
	1,000 mg/kg 体重	雄	1.3	0.2	0.0	0.4
		雌	0.7	0.4	0.0	0.3
[trf- <sup>14</sup> C] メタフルミゾン	30 mg/kg 体重	雄	1.2	0.5	0.0	1.0
		雌	0.9	0.3	0.0	1.7
	1,000 mg/kg 体重	雄	0.3	0.3	0.0	0.3
		雌	0.2	0.3	0.0	0.3

\* : ケージ洗浄液を含む。

### ⑤ 反復投与後の分布・代謝・排泄

SD ラット（一群雌雄各 3 匹）に [ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン又は [trf-<sup>14</sup>C]メタフルミゾンを、低用量で 14 日間反復経口投与した。試験期間中、定期的に尿、糞及びケージ洗浄液を採取した。[ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン投与群については、最終投与後 168 時間まで、[trf-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン投与群については、288 時間まで定期的に解剖し、臓器・組織中の放射能濃度を測定した。

14 日間反復投与後の尿、糞及び組織中放射能濃度は表 6 に、14 日間反復投与後の主要組織における残留放射能濃度は表 7 に示されている。

投与した放射能の大部分（71.5%TAR～89.9%TAR）は糞中から回収され、尿（ケージ洗浄液を含む。）中からも 1.6%TAR～4.7%TAR の少量の放射能が検出された。組織中には、1.1%TAR～15.2%TAR の放射能が検出された。

主要な臓器・組織中の残留放射能分布において、[ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン投与群で、最終投与 168 時間後に放射能濃度の高かった組織は、脂肪、肝臓、膵臓、卵巣（雌）、副腎、皮膚及び消化管であった。最終投与 168 時間後において、雌では雄よりも組織中に残存する放射能が高かった。

[trf-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン投与群で最終投与 288 時間後に放射能濃度の高かった組織は、脂肪、赤血球、血液、皮膚及び副腎であった。

標識体にかかわらず、放射能が高濃度で維持された組織は脂肪であった。[trf-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン投与群では [ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン投与群に比べ、赤血球及び血液に高濃度の放射能が検出された。

放射能濃度の高かった組織、すなわち筋肉、肝臓、腎臓、脂肪及び血漿中の放射能を抽出して、分析した。いずれの組織においても、抽出率には顕著な性差あるいは標識体による差は認められなかった。組織中に残存する放射能を抽出すると、大部分が未変化のメタフルミゾンとして存在した。未変化のメタフルミゾン以外にもいくつかの代謝物が検出されたが、いずれも微量成分であった。14 日間反復投与後の筋肉、肝臓、腎臓、脂肪及び血漿中のメタフルミゾン濃度を、単

回投与の結果と比較すると、30 mg/kg 体重の用量ではそれぞれ 26（筋肉）、13（肝臓）、13（腎臓）、43（脂肪）及び 26（血漿）倍高かった。投与後 168 時間においてこれらの臓器を含めて全ての臓器・組織中放射能は顕著に減衰した。（参照 2）

表 6 14 日間反復投与後の尿、糞及び組織中放射能濃度 (%TAR)

標識体		[ben- <sup>14</sup> C]メタフルミゾン					
性別		雄			雌		
試料		尿*	糞	組織	尿*	糞	組織
最終 投与後時間 (hr)	10	2.7	71.5	15.2	4.3	76.3	9.6
	48	3.4	82.5	4.7	4.7	80.7	4.3
	168	3.1	88.1	1.8	4.2	81.0	3.3
標識体		[trf- <sup>14</sup> C]メタフルミゾン					
性別		雄			雌		
試料		尿*	糞	組織	尿*	糞	組織
最終 投与後時間 (hr)	12	3.0	82.1	6.2	2.1	79.0	10.2
	168	3.2	87.7	1.7	2.0	88.4	2.4
	288	3.4	88.1	1.1	1.6	89.9	1.4

\* : ケージ洗浄液を含む。

表 7 14 日間反復投与後の主要組織における残留放射能濃度 (µg/g)

標識体	性別	T <sub>max</sub> 付近 <sup>1)</sup>	最終試料採取時間 <sup>2)</sup>
[ben- <sup>14</sup> C] メタフル ミゾン	雄	脂肪(153)、副腎(47.6)、消化管(40.2)、膵臓(29.6)、肝臓(20.3)、甲状腺(13.3)、腎臓(11.4)、骨髄(7.19)、脾臓(6.34)、皮膚(4.63)、血漿(1.64)、血液(1.32)、赤血球(1.16)	脂肪(69.0)、肝臓(13.9)、膵臓(10.4)、副腎(7.17)、皮膚(4.39)、消化管(3.55)、甲状腺(2.63)、腎臓(2.52)、脾臓(1.37)、筋肉(1.34)、骨髄(1.30)、赤血球(0.44)、血液(0.42)、血漿(0.21)
	雌	脂肪(144)、骨髄(69.2)、副腎(53.1)、膵臓(39.8)、子宮(38.0)、卵巣(32.4)、消化管(25.2)、甲状腺(17.8)、腎臓(15.9)、脾臓(10.1)、肝臓(5.30)、血漿(2.55)、血液(2.06)、赤血球(1.69)、皮膚(1.37)	脂肪(95.2)、皮膚(22.0)、肝臓(16.1)、膵臓(14.8)、卵巣(13.4)、副腎(12.3)、子宮(8.63)、消化管(7.76)、甲状腺(5.72)、骨髄(5.12)、腎臓(4.80)、脾臓(2.54)、赤血球(0.62)、血液(0.56)、血漿(0.40)

[trf- <sup>14</sup> C] メタフル ミゾン	雄	脂肪(56.5)、副腎(17.0)、膵臓(15.1)、消化管(12.9)、肝臓(11.8)、赤血球(11.2)、皮膚(9.38)、血液(8.62)、腎臓(6.23)、脾臓(4.22)、骨髄(3.10)、血漿(1.14)	脂肪(32.2)、赤血球(10.6)、血液(6.56)、副腎(3.01)、皮膚(2.93)、肝臓(2.39)、消化管(2.38)、腎臓(1.81)、脾臓(1.71)、骨髄(1.00)、血漿(0.21)
	雌	脂肪(58.9)、肝臓(23.4)、消化管(18.2)、赤血球(17.9)、膵臓(16.3)、皮膚(15.1)、卵巣(14.2)、血液(12.6)、子宮(12.6)、腎臓(12.5)、脾臓(7.28)、副腎(6.81)、骨髄(6.81)、血漿(2.80)	脂肪(39.0)、赤血球(7.22)、皮膚(5.89)、血液(4.90)、副腎(4.79)、消化管(4.28)、卵巣(3.66)、子宮(3.66)、膵臓(3.55)、肝臓(2.43)、腎臓(1.96)、脾臓(1.69)、骨髄(1.30)、血漿(0.23)

<sup>1)</sup> [ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン投与群は 10 時間後、[trf-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン投与群は 12 時間後。

<sup>2)</sup> [ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン投与群は 168 時間後、[trf-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン投与群は 288 時間後。

## ⑥ 28 日間反復投与による脂肪組織への分布及び代謝

SD ラット（一群雌各 30 匹）に[ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン又は[trf-<sup>14</sup>C]メタフルミゾンを 30 mg/kg 体重/日（溶媒：0.5%CMC）で 28 日間反復経口投与して、脂肪組織内分布及び代謝試験が実施された。

[ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン投与群の脂肪組織では、投与開始 28 日後に最高濃度（918 µg/g）となり、投与終了後 2 相性の減衰を示して、63 日後に 68.2 µg/g となった。初期及び終期半減期は 2.1 及び 17.0 日であった。その他の組織の放射能濃度は血球、血漿、肝臓及び腎臓において投与 28 日後に 5.35、6.67、108 及び 59.1 µg/g であり、その後 2 相性の減衰を示して、残留放射能濃度は脂肪組織より低かった。初期及び終期半減期は 1.5～2.2 及び 11.4～19.7 日であった。

[trf-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン投与群の脂肪組織では、投与開始 21 日後に最高濃度（1,020 µg/g）となり、投与終了後 2 相性の減衰を示して、63 日後には 69.2 µg/g となった。初期及び終期半減期は 5.2 及び 14.6 日であった。その他の組織の放射能濃度は血球、血漿、肝臓及び腎臓において投与 28 日後に 36.8、3.31、36.0 及び 26.9 µg/g であり、その後 2 相性の減衰を示して、残留放射能濃度は脂肪組織より低かった。初期及び終期半減期は 2.3～6.2 及び 17.9～46.3 日であった。

脂肪組織中への蓄積性は認められなかった。また、代謝物は認められず、未変化のメタフルミゾンのみ認められた。（参照 48、49）

## (2) ラット②

投与方法による本剤のバイオアベイラビリティーの差を検討することを目的として、以下の検討が実施された。

### ① 経口投与試験（クレモフォール添加）

Wistar Hannover ラット（雄 4 匹）に[ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾンを 6.2 mg/kg 体重（溶媒：1%クレモフォール添加 0.5%CMC 水溶液）で単回経口投与して、

排泄試験が実施された。

投与後 168 時間における尿及び糞中排泄率は表 8 に示されている。

単回経口投与後 168 時間の尿、ケージ洗浄液、カーカス及び皮下脂肪組織の放射能の合計から、メタフルミゾン（クレモフォール添加）の吸収率は 33.4%と算出された。（参照 64、65）

表 8 投与後 168 時間における尿及び糞中排泄率 (%TAR)

投与量	6.2 mg/kg 体重
尿	3.91
糞	67.9
ケージ洗浄液	0.24
胃内容物	0.04
腸内容物	1.90
カーカス	27.3
皮下脂肪組織	1.95
合計	103

## ② 経口投与試験（クレモフォール非添加）

Wistar Hannover ラット（雄 4 匹）に[ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾンを 6.3 mg/kg 体重（溶媒：0.5%CMC 水溶液）で単回経口投与して、排泄試験が実施された。

投与後 168 時間における尿及び糞中排泄率は表 9 に示されている。

単回経口投与後 168 時間の尿、ケージ洗浄液、カーカス、血球細胞及び血漿の放射能の合計から、メタフルミゾン（クレモフォール非添加）の吸収率は 16.8%と算出された。（参照 64、66）

表 9 投与後 168 時間における尿及び糞中排泄率 (%TAR)

投与量	6.3 mg/kg 体重
尿	1.46
糞	74.8
ケージ洗浄液	0.05
胃内容物	0.00
胃	0.00
腸内容物	0.07
腸	0.05
カーカス	15.3
血球細胞	0.01
血漿	0.00
合計	91.7

### ③ 混餌投与と単回経口投与（クレモフォル非添加）の比較試験

Wistar Hannover ラット（雄 5 匹）を 2 日間絶食させ、[ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン混餌投与群では検体混合飼料（平均検体摂餌量：0.76 mg/kg 体重）で 2 時間与え、単回経口投与群では 2 時間給餌後 0.73 mg/kg 体重（溶媒：0.5%CMC 水溶液）で単回経口投与して、排泄試験が実施された。

投与後 168 時間における尿及び糞中排泄率は表 10 に示されている。

混餌投与又は単回経口投与後 168 時間の尿、ケージ洗浄液及びカーカスの放射能の合計から、メタフルミゾンの吸収率は混餌投与群で 23.0%、単回経口投与群で 10.8%と算出された。（参照 64、67）

表 10 投与後 168 時間における尿及び糞中排泄率 (%TAR)

投与群	混餌	単回経口
投与量	0.76 mg/kg 体重	0.73 mg/kg 体重
尿	2.83	1.69
糞	65.8	85.6
ケージ洗浄液	0.61	0.27
胃内容物	0.01	0.01
腸内容物	1.27	0.63
カーカス	19.6	8.79
合計	90.1	97.0

### (3) ヤギ

泌乳ヤギ（系統不明、一群雌 2 頭）に[ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン又は[trf-<sup>14</sup>C]メタフルミゾンを 12 mg/kg 飼料相当の用量で 14 日間経口投与して、動物体内運命試験が実施された。投与期間中に乳汁、尿及び糞を経時的に採取し、最終投与

後にと殺して、胆汁、肝臓、腎臓、筋肉及び脂肪を採取した。

各試料における残留放射能分布及び代謝物は表 11 に示されている。

投与放射能の 81%TAR～90%TAR が回収された。尿及び糞中の排泄率はそれぞれ 2.5%TAR～5.0%TAR 及び 66%TAR～79%TAR であり、標識体の違いにかかわらず投与放射能は主に糞中に排泄された。

乳汁中放射能は投与 12 日以降に定常状態となり、[ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン及び[trf-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン投与群でそれぞれ最大 0.39%TAR 及び最大 0.14%TAR であった。

尿中には未変化のメタフルミゾンは検出されず、代謝物 F、I、L、P 及び X が、糞中には未変化のメタフルミゾンのほか、代謝物 V 及び X が、胆汁中には未変化のメタフルミゾンのほか、代謝物 V、W、X 及び Y が認められた。

乳汁中には未変化のメタフルミゾンが 68%TRR～88.4%TRR 認められたほかに、代謝物は検出されなかった。組織中の主要成分は未変化のメタフルミゾンであり、脂肪中に最も高い割合で認められた。肝臓で代謝物 X 及び Y が 19.7%TRR 及び 11.2%TRR 認められた。ほかに代謝物 C、D、G、I、L、V、W 及び AB が認められたが、いずれも 10%TRR 未満であった。

ヤギにおけるメタフルミゾンの主要代謝経路は、①ヒドラジンカルボキサミド部分の加水分解による代謝物 E 及び D の生成とその後の分解、酸化及びグリシン抱合による代謝物 L の生成、還元及びグルクロン酸又はグルタミン酸抱合による代謝物 I 又は Y の生成、②トリフルオロメトキシフェニル環の水酸化及びその後のグルクロン酸抱合による代謝物 V 及び W の生成、③ベンジル位の炭素の水酸化とその後の酸化及び環化による代謝物 C の生成と考えられた。（参照 69、70）

表 11 各試料における残留放射能分布及び代謝物 (µg/g)

標識体	試料	総残留放射能	メタフルミゾン <sup>a</sup>	代謝物
[ben- <sup>14</sup> C] メタフルミゾン	乳汁	0.53	0.469 (88.4)	ND
	肝臓	2.8	0.879 (30.9)	X(19.7)、Y(11.2)、L(2.0)、W(1.8)、C(0.8)、G(0.5)
	腎臓	0.38	0.303 (79.2)	X(7.7)、Y(2.8)、V(1.8)、I(0.7)
	筋肉	0.18	0.164 (91.1)	D(1.4)、X(0.1)
	脂肪	2.9	3.10 (108)	ND
	胆汁	2.0	0.061 (3.1)	W(89.4)、Y(0.9)、X(0.3)
	尿	0.99	ND	X(50.0)、L(13.0)、I(12.3)、F(4.3)
	糞	1.6	0.703 (43.7)	V(51.0)、X(2.1)
[trf- <sup>14</sup> C] メタフルミゾン	乳汁	0.2	0.13 (68)	ND
	肝臓	1.3	0.015 (1.1)	AB(8.9) <sup>b</sup> 、W(3.9)、X(3.9)、Y(3.7)、C(1.0)、G(0.5)
	腎臓	0.2	0.13 (61)	W(2.3)、X(2.3)
	筋肉	0.07	0.045 (65.2)	D(9.3)
	脂肪	0.73	0.58 (80)	ND
	胆汁	1.4	0.09 (6.4)	W(90)、V(1.8)
	尿	0.43	ND	P(53)、X(16)
	糞	1.6	0.6 (37)	V(58)

( ) : %TRR、ND : 検出されず

a : *E*異性体+*Z*異性体

b : 抽出残渣を酢酸中、150℃条件下、超音波処理にて加水分解して得られた。

#### (4) ニワトリ

産卵鶏（系統不明、一群雌 12 羽）に[ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン又は[trf-<sup>14</sup>C]メタフルミゾンを 12 mg/kg 飼料相当の用量で 14 日間経口投与して、動物体内運命試験が実施された。投与期間中に卵及び排泄物を経時的に採取し、最終投与後にと殺して、肝臓、筋肉及び脂肪を採取した。

各試料における残留放射能分布及び代謝物は表 12 に示されている。

[ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン及び[trf-<sup>14</sup>C]メタフルミゾンの卵中放射能は投与期間



中増加し、投与開始 14 日後に 0.83%TRR 及び 0.71%TRR であった。

卵及び組織中の主要成分は未変化のメタフルミゾンであり、脂肪中に最も高い割合で認められた。肝臓で代謝物 AB が 17.9%TRR 認められたほか、卵中で代謝物 D が認められたが、10%TRR 未満であった。

排泄物中には代謝物 Z が認められた。

ニワトリにおけるメタフルミゾンの主要代謝経路は、①ヒドラジンカルボキサミド部分の加水分解による代謝物 D の生成とその後の還元による代謝物 X 及びグルタミン酸との結合による代謝物 Y の生成、②トリフルオロメチルフェニル基の水酸化による代謝物 Z の生成と考えられた。(参照 69、70)

表 12 各試料における残留放射能分布及び代謝物 (µg/g)

標識体	試料	総残留放射能	メタフルミゾン <sup>a</sup>	代謝物
[ben- <sup>14</sup> C] メタフルミゾン	卵	2.8	2.6 (93.4)	D(1.5)
	肝臓	4.6	2.6 (56.4)	ND
	筋肉	1.1	1.1 (96.4)	ND
	脂肪	27	28 (104)	ND
	排泄物	3.0	ND	Z(18.1)
[trf- <sup>14</sup> C] メタフルミゾン	卵	2.6	2.4 (89.3)	ND
	肝臓	3.7	2.9 (79.0)	AB(17.9) <sup>b</sup>
	筋肉	1.2	1.1 (90.4)	ND
	脂肪	23	24.4 (106)	ND
	排泄物	2.9	ND	Z(17.4)

( ) : %TRR、ND : 検出されず

a : E<sup>-</sup>異性体+Z<sup>-</sup>異性体

b : 抽出残渣を酢酸中、150°C条件下、超音波処理にて加水分解して得られた。

## 2. 植物体内運命試験

### (1) キャベツ

栽培開始 106、113、120 及び 127 日後のキャベツ (品種 : Charmant) にフロアブル剤に調製した [ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン又は [trf-<sup>14</sup>C]メタフルミゾンを 280 g ai/ha 相当の用量で散布して、植物体内運命試験が実施された。最終処理 0、3 及び 7 日後に葉部を採取し、試料とした。

[ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン及び [trf-<sup>14</sup>C]メタフルミゾンの総残留放射能濃度は処

理 3 日後でそれぞれ 9.71 及び 14.1 mg/kg、7 日後でそれぞれ 13.8 及び 14.7 mg/kg であった。両標識体とも抽出性放射能として 99.2%TRR~99.4%TRR 検出され、特にメタノール画分に 98.7%TRR~99.1%TRR 存在した。

抽出性放射能を分析した結果、未変化のメタフルミゾン (*E*異性体及び *Z*異性体)が 7.33~14.4 mg/kg (75.5%TRR~98.3%TRR) 検出された。メタフルミゾンの異性体比 (*E/Z*比)は処理 7 日後で 7 : 3~8 : 2 であった。主要代謝物として、D が処理 3 及び 7 日後に、それぞれ 1.56 及び 2.09 mg/kg (16.0%TRR 及び 15.1%TRR) 検出された。ほかに代謝物 C、G 及び未同定代謝物が検出されたが、いずれも 5%TRR 未満であった。(参照 3)

## (2) トマト

ほ場又は温室で栽培中のトマト (品種 : Roma) にフロアブル剤に調製した [ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン又は[trf-<sup>14</sup>C]メタフルミゾンを 280 g ai/ha の用量で 1 回/週の頻度で 6 回散布して、植物体内運命試験が実施された。最終処理 2 時間後及び 7 日後に成熟したトマト果実を採取し、試料とした。

[ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン及び[trf-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン処理後の総残留放射能濃度は、[ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン処理 2 時間後で 0.60 (ほ場)~0.78 (温室) mg/kg、処理 7 日後で 0.34~0.52 mg/kg、[trf-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン処理 2 時間後で 0.39~0.40 mg/kg、処理 7 日後で 0.30 mg/kg (ほ場、温室とも) であった。両標識体ともに残留放射能の大部分 (93.8%TRR~98.0%TRR) がアセトニトリル抽出画分に存在した。非抽出性画分中には 2.0%TRR~6.2%TRR しか検出されなかった。

抽出性放射能の代謝物分析の結果、両標識体ともに、未変化のメタフルミゾン (*E*異性体及び *Z*異性体) が最も高濃度で検出され、処理 2 時間後及び 7 日後における残留濃度はそれぞれ 0.32~0.57 mg/kg (62.4%TRR~83.7%TRR) 及び 0.20~0.38 mg/kg (59.1%TRR~82.7%TRR) であった。メタフルミゾンの異性体比 (*E/Z*比)は、いずれの標識体又は栽培条件においても処理 2 時間後で約 5 : 5、処理 7 日後で約 4 : 6 であり、処理後速やかに *E*異性体から *Z*異性体への異性化が生じることが示唆された。主要代謝物として D が、処理 2 時間後及び 7 日後にそれぞれ 0.08~0.12 mg/kg (12.6%TRR~15.7%TRR) 及び 0.04~0.06 mg/kg (11.5%TRR~11.9%TRR) 検出された。ほかに代謝物 C、F 及び未同定代謝物が検出されたが、いずれも 5%TRR 未満であった。(参照 4)

## (3) ワタ

ワタ (品種 : Acala Maxxa) にフロアブル剤に調製した [ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン又は[trf-<sup>14</sup>C]メタフルミゾンを、333~339 g ai/ha の用量で 1 回/週の頻度で 6 回散布して、植物体内運命試験が実施された。最終処理 21 日後に種子綿及びジントラッシュ (茎、葉、包葉などの綿繰り後の副産物) を採取し、種子綿のコッ

トンを操ってリント（長い綿毛）及びアンデリントコットンシード（短い地毛が付いた状態の種子）を得て、アンデリントコットンシード及びジントラッシュを試料とした。

[ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン又は[trf-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン処理 21 日後の総残留放射能濃度は、アンデリントコットンシードで 0.14~0.37 mg/kg、ジントラッシュで 19.2~29.3 mg/kg であった。また、アンデリントコットンシードでは 84.5%TRR~84.8%TRR が、ジントラッシュでは 97.0%TRR~97.2%TRR が抽出性放射能として検出された。

抽出性放射能を分析した結果、アンデリントコットンシードのメタノール抽出画分中から、未変化のメタフルミゾン（*E*異性体及び *Z*異性体）、代謝物 C、D、E 及び F が検出された。いずれの標識体を処理した場合においても、未変化のメタフルミゾン（*E*異性体及び *Z*異性体）が最も多く、0.07~0.13 mg/kg（33.7%TRR~46.4%TRR）検出された。異性体比（*E/Z* 比）は 4 : 6~5 : 5 であった。主要代謝物として D が、処理 21 日後に 0.06 mg/kg（16.6%TRR）検出された。ほかに代謝物 C、E、F 及び未同定代謝物が検出されたが、いずれも 10%TRR 未満であった。

ジントラッシュのメタノール/アセトニトリル抽出画分中から、未変化のメタフルミゾン（*E*異性体及び *Z*異性体）、代謝物 C、D 及び F が検出された。処理した標識体にかかわらず未変化のメタフルミゾン（*E*異性体及び *Z*異性体）が最も多く、12.5~14.1 mg/kg（48.1%TRR~64.7%TRR）検出された。異性体比（*E/Z* 比）は、4 : 6 であった。主要代謝物はアンデリントコットンシードと同様 D であり、処理 21 日後に 3.83 mg/kg（13.1%TRR）検出された。ほかに代謝物 C、F 及び未同定代謝物が検出されたが、いずれも 10%TRR 未満であった。

植物体内におけるメタフルミゾンの主要代謝経路は、*E*異性体から *Z*異性体への異性化、ヒドラジンカルボキサミド部分の加水分解による代謝物 D の生成又はベンジル部位の水酸化による代謝物 G の生成並びにこれに続く閉環による代謝物 C の生成又は加水分解による代謝物 F の生成であると考えられた。（参照 5）

### 3. 土壌中運命試験

#### (1) 好氣的土壌中運命試験

砂壤土（米国）に[ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン又は[trf-<sup>14</sup>C]メタフルミゾンを 0.8 mg/kg 乾土（880 g ai/ha 相当）の濃度で添加し、暗条件下 20±2°C で 364 日間インキュベートして、好氣的土壌中運命試験が実施された。処理直後（0 日）、処理 14、28、61、100、120、187、273 及び 364 日後に土壌を採取し、分析した。

[ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン及び[trf-<sup>14</sup>C]メタフルミゾンの放射能の総回収率は 94.4%TRR~110%TRR であった。メタノール抽出画分の放射能は処理直後に

104%TAR～108%TARであったが、処理 364 日後（試験終了時）には 35.7%TAR～43.0%TAR に減少した。非抽出性放射能は、処理直後に 0.8%TAR～1.1%TAR であったが、処理 364 日後には 20.8%TAR～38.1%TAR に増加した。試験終了時までには CO<sub>2</sub> は 8.2%TAR～28.6%TAR 検出されたが、揮発性有機物は検出されなかった。

メタフルミゾンの推定半減期は 186～209 日であった。

メタフルミゾンは処理直後の 100%TAR～103%TAR から経時的に減少し、処理 364 日後には 23.2%TAR～30.0%TAR となった。メタフルミゾンの異性体比（*E/Z* 比）は、処理直後に約 90 : 10 であったが、処理 364 日後には約 63 : 37～73 : 27 に変化した。処理 364 日後に主要分解物として CO<sub>2</sub> が 8.2%TAR～28.6%TAR、C が 7.2%TAR～7.5%TAR、G が 2.1%TAR～2.3%TAR 検出された。

以上の結果から、メタフルミゾンの好氣的土壤中での主要代謝経路は、*E*-異性体から *Z*-異性体への異性化、ベンジル部位の水酸化による分解物 G の生成及び閉環による分解物 C の生成並びにヒドラジンカルボキサミド部分の加水分解による分解物 D 及び H の生成を経て、最終的には土壤微生物により CO<sub>2</sub> まで分解されると推察された。（参照 6）

## （2）土壤吸着試験

メタフルミゾンの土壤吸着試験が 4 種類の国内土壤（宮崎、埼玉岡部、栃木及び埼玉白岡）を用いて実施された。

Freundlich の吸着係数  $K_{ads}$  は 329～648、有機炭素含有率により補正した吸着係数  $K_{oc}$  は 10,200～52,200 であった。吸着係数は大きく、メタフルミゾンの地下水汚染の可能性はほとんどないと考えられた。（参照 7）

## 4. 水中運命試験

### （1）加水分解試験

pH 4 及び 5（フタル酸水素カリウム緩衝液）並びに pH 7 及び 9（トリス塩酸緩衝液）の各緩衝液に [ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン又は [trf-<sup>14</sup>C]メタフルミゾンをそれぞれ 1.6 µg/L となるように加えた後、25℃で、30 日間（pH 5 においては 32 日間）インキュベートして、メタフルミゾンの加水分解試験が実施された。

その結果、25℃条件下、30 日後の pH 4、5、7 及び 9 の緩衝液におけるメタフルミゾン（*E*-異性体及び *Z*-異性体）の残存率は、[ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾンにおいてはそれぞれ 2.4%TAR、47.6%TAR、87.5%TAR 及び 85.9%TAR であり、[trf-<sup>14</sup>C]メタフルミゾンにおいてはそれぞれ 3.5%TAR、44.3%TAR、93.8%TAR 及び 86.9%TAR であった。メタフルミゾンの推定半減期は pH 4、5、7 及び 9 の緩衝液において、6～7、27～31、304～648 及び 218～249 日であった。

メタフルミゾンは酸性条件下では加水分解され、中性及びアルカリ性条件下では比較的安定であった。主要分解物は [ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン添加時は D（最大

88.5 %TAR、pH 4、処理 30 日後)、[trf-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン添加時は H が緩衝液中のフタル酸カリウムと反応して生成したアミド体とイミノ体(最大合計値 73.8%TAR、pH 4、処理 14 日後)であり、その他の未同定分解物は 10%TAR 未満であった。(参照 8)

## (2) 水中光分解試験(蒸留水及び自然水)

蒸留水(pH 5.66~5.69)又は自然水(大阪地下水、pH 7.88)に[ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾン又は[trf-<sup>14</sup>C]メタフルミゾンを 0.895 µg/L となるように加えた後、25±2°Cで 15 日間キセノン光照射(光強度:96.1~104.3 W/m<sup>2</sup>、測定波長:280~800 nm)して、水中光分解試験が実施された。

蒸留水中及び自然水中において、メタフルミゾンは速やかに分解して、処理 15 日後のメタフルミゾン(*E*異性体及び *Z*異性体)の残留率は蒸留水で 5.1%TAR~23.9%TAR、自然水で 12.7%TAR~21.9%TAR であった。主要分解物として、蒸留水中及び自然水中いずれにおいても、[ben-<sup>14</sup>C]メタフルミゾンでは F 及び U、[trf-<sup>14</sup>C]メタフルミゾンでは TLC 原点及び原点付近に局在する極性分解物群が多く認められた。そのほか、照射時間の増加に伴い複数の未同定分解物の生成が認められたが、個々の分解物は 10%TAR 以下であった。また、*E*異性体から *Z*異性体への異性化が示唆された。

メタフルミゾンの推定半減期は蒸留水中で 3.7~7.1 日、自然水中で 5.4~6.7 日、自然太陽光[北緯 35°(東京)、春(4~6月)]下の推定半減期に換算すると、蒸留水中で 3.6~7.5 日、自然水中で 5.3~7.1 日と算出された。(参照 9)

## 5. 土壌残留試験

火山灰土・軽埴土(茨城)及び沖積土・埴壤土(高知)を用いて、メタフルミゾン(*E*異性体及び *Z*異性体)及び分解物 C を分析対象化合物とした土壌残留試験(容器内及びほ場試験)が実施された。

結果は表 13 に示されている。(参照 10)

表 13 土壌残留試験成績(推定半減期)

試験	濃度*	土壌	推定半減期	
			メタフルミゾン	メタフルミゾン+分解物 C
容器内試験	0.75 mg/kg	火山灰土・軽埴土	119 日	142 日
		沖積土・埴壤土	51 日	53 日
ほ場試験	750 g ai/ha	火山灰土・軽埴土	101 日	101 日
		沖積土・埴壤土	94 日	95 日

\*: 容器内試験で原体、ほ場試験で 25%フロアブル剤を使用

## 6. 作物等残留試験

### (1) 作物残留試験

はくさい、だいず等を用いて、メタフルミゾン (*E*異性体及び *Z*異性体) 並びに代謝物 C 及び D を分析対象化合物とした作物残留試験が実施された。

結果は別紙 3 に示されている。

メタフルミゾン (*E*異性体及び *Z*異性体) 並びに代謝物 C 及び D の最大残留値は、メタフルミゾン (*E*異性体) が最終散布 1 日後のサラダ菜で 16.1 mg/kg、メタフルミゾン (*Z*異性体) が最終散布 1 及び 3 日後のサラダ菜で 18.7 mg/kg、代謝物 C が最終散布 3 日後のはくさいで 0.07 mg/kg、代謝物 D が最終散布 7 日後のだいこん (葉) で 4.62 mg/kg であった。(参照 11、45~47、57~61、64、78~84)

### (2) 後作物残留試験

レタス及びだいこんを用いて、メタフルミゾン (*E*異性体及び *Z*異性体) 並びに代謝物 C 及び D を分析対象化合物とした後作物残留試験が実施された。

結果は別紙 4 に示されている。

メタフルミゾン (*E*異性体及び *Z*異性体) 並びに代謝物 C 及び D の残留値は全て定量限界 (0.01 mg/kg) 未満であった。(参照 12)

### (3) 畜産物残留試験

#### ① 泌乳牛

泌乳牛 (ホルスタイン・フリージアン種、一群雌 3 頭) にメタフルミゾンを 45 日間カプセル経口 (原体 : 0、0.2、1.0、5.5 及び 16.5 mg/kg 飼料相当) 投与して、メタフルミゾンを分析対象化合物とした畜産物残留試験が実施された。

乳汁及び各主要組織における残留放射能濃度は別紙 5 に示されている。

乳汁において、メタフルミゾンは投与 7 日以降定常状態に達し、最大残留値は、5.5 及び 16.5 mg/kg 飼料相当投与群でそれぞれ 0.0286 µg/g (投与 21 日) 及び 0.0832 µg/g (投与 45 日) であった。0.2 及び 1.0 mg/kg 飼料相当投与群ではいずれの試料においても定量限界未満であった。

乳製品におけるメタフルミゾンの最大残留値は、16.5 mg/kg 飼料相当投与群におけるクリーム中の 0.883 µg/g (投与 40 日) であった。無脂肪乳ではいずれの試料においても定量限界未満であった。

組織におけるメタフルミゾンの最大残留値は、16.5 mg/kg 飼料相当投与群における脂肪の 0.864 µg/g (投与 45 日) であった。肝臓の抽出残渣における代謝物 AB の最大残留値は 16.5 mg/kg 飼料相当投与群で 0.308 µg/g (最終投与 14 日後) であった。(参照 69、70)

## ② 産卵鶏

産卵鶏（白色レグホン種、一群 15 羽）にメタフルミゾン<sup>®</sup>を 55 日間カプセル経口（原体：0、0.1、0.3 及び 1.0 mg/kg 飼料相当）投与して、メタフルミゾンを分析対象化合物とした畜産物残留試験が実施された。投与期間中に卵を採取し、最終投与後 24 時間以内にと殺して、肝臓、筋肉及び脂肪を採取した。

結果は別紙 6 に示されている。

卵におけるメタフルミゾンは投与 21 日以降定常状態に達し、最大残留値は、0.1、0.3 及び 1.0 mg/kg 飼料相当投与群でそれぞれ 0.061 µg/g（投与 55 日）、0.295 µg/g（投与 55 日）及び 0.909 µg/g（投与 42 日）であった。

組織におけるメタフルミゾンの最大残留値は、1.0 mg/kg 飼料相当投与群における脂肪の 3.49 µg/g（最終投与 1 日後）であった。（参照 69、70）

## （4）魚介類における最大推定残留値

メタフルミゾンの公共用水域における水産動植物被害予測濃度（水産 PEC）及び生物濃縮係数（BCF）を基に、魚介類の最大推定残留値が算出された。

メタフルミゾンの水産 PEC は 0.028 µg/L、BCF は 7,900（魚種：ブルーギル）、魚介類における最大推定残留値は 1.11 mg/kg であった。（参照 52）

## （5）推定摂取量

別紙 3 の作物残留試験の分析値、別紙 5 及び 6 の畜産物残留試験の分析値並びに魚介類における最大推定残留値を用いて、農産物中の暴露評価対象物質をメタフルミゾン（*E*-異性体及び *Z*-異性体）及び代謝物 D、畜産物及び魚介類中の暴露評価対象物質をメタフルミゾン（*E*-異性体及び *Z*-異性体）とした際に食品中から摂取される推定摂取量が表 14 に示されている（別紙 7 参照）。

なお、本推定摂取量の算定は、登録又は申請された使用方法からメタフルミゾン及び代謝物 D が最大の残留を示す使用条件で、全ての適用作物に使用され、かつ、魚介類への残留が上記の最大推定残留値を示し、加工・調理による残留農薬の増減が全くないものとの仮定の下に行った。

表 14 食品中から摂取されるメタフルミゾン及び代謝物 D の推定摂取量

	国民平均 (体重：55.1 kg)	小児(1～6 歳) (体重：16.5 kg)	妊婦 (体重：58.5 kg)	高齢者(65 歳以上) (体重：56.1 kg)
推定摂取量 (µg/人/日)	1,410	654	1,480	1,610

注) 畜産物における推定摂取量については、農薬登録の使用条件の範囲内での計算が困難であることから、試験結果のうち最大残留値を用いたため、農産物に比べて過大評価となっている可能性がある。

## 7. 一般薬理試験

ラット及びマウスを用いた一般薬理試験が実施された。  
結果は表 15 に示されている。(参照 13)

表 15 一般薬理試験概要

試験の種類	動物種	動物数 匹/群	投与量 (mg/kg 体重) (投与経路)	最大 無作用量 (mg/kg 体重)	最小 作用量 (mg/kg 体重)	結果の概要
中枢 神経 系	一般状態 (Irwin 法)	ICR マウス	雄：3 雌：3 0、200、 600、2,000 (経口)	2,000	—	影響なし
	一般状態(FOB)	SD ラット	雄 5 0、200、 600、2,000 (経口)	2,000	—	影響なし
	睡眠時間 (ヘキソバルビ タール睡眠)	ICR マウス	雄 8 0、200、 600、2,000 (経口)	2,000	—	影響なし
循環 器系	血圧・心拍数	SD ラット	雄 5 0、200、 600、2,000 (経口)	2,000	—	影響なし
消化 器系	腸管輸送能 (炭末輸送能)	ICR マウス	雄 8 0、200、 600、2,000 (経口)	600	2,000	2,000 mg/kg 体重で炭末輸 送能の低下(投 与 1.5 時間後)
腎 機能	尿量・尿中電解質	SD ラット	雄 5 0、200、 600、2,000 (経口)	2,000	—	影響なし
血液	血液学的検査	SD ラット	雄 5 0、200、 600、2,000 (経口)	2,000	—	影響なし
	溶血検査	SD ラット	雄 5 0、200、 600、2,000 (経口)	2,000	—	影響なし

—：最小作用量を設定できなかった。

注：経口投与の溶媒には 0.5%CMC 水溶液が用いられた。



## 8. 急性毒性試験

### (1) 急性毒性試験

メタフルミゾンのラットを用いた急性経口毒性試験、急性経皮毒性試験及び急性吸入毒性試験が実施された。

結果は表 16 に示されている。(参照 14~16)

表 16 急性毒性試験概要 (原体)

投与経路	動物種 性別・匹数	LD <sub>50</sub> (mg/kg 体重)		観察された症状
		雄	雌	
経口	SD ラット 雌雄各 5 匹	>5,000	>5,000	投与量：雌雄 5,000 mg/kg 体重 症状及び死亡例なし
経皮	SD ラット 雌雄各 5 匹	>5,000	>5,000	症状なし 雄 1 例死亡*
吸入	Wistar(CrlGl× BrlHan:WI) ラット 雌雄各 5 匹	LC <sub>50</sub> (mg/L)		雌雄：逃避行動、過呼吸、 うずくまり及び被毛の汚れ 死亡例なし
		>5.2	>5.2	

\*：他の動物において死亡及び中毒症状が認められなかったため、検体投与の影響ではないと考えられた。

注：経口投与の溶媒には 0.5%CMC 水溶液が用いられた。

Z異性体及び代謝物 C のラットを用いた急性経口毒性試験が実施された。

結果は表 17 に示されている。(参照 17、18)

表 17 急性毒性試験概要 (原体中異性体及び代謝物)

投与経路	化合物	動物種 性別・匹数	LD <sub>50</sub> (mg/kg 体重)		観察された症状
			雄	雌	
経口	Z異性体	SD ラット 雌雄各 3 匹	>5,000	>5,000	投与量：雌雄 5,000 mg/kg 体重 雌雄：全身状態の悪化、 呼吸困難及び立毛 死亡例なし
経口	代謝物 C	Wistar(CrlGl × BrlHan:WI) ラット 雌 6 匹	/	>2,000	症状及び死亡例なし

注：経口投与の溶媒には 0.5%CMC 水溶液が用いられた。

/：実施されず。

### (2) 急性神経毒性試験

Wistar (CrlGl×BrlHan:WI) ラット (一群雌雄各 10 匹) を用いた強制経口 (0、125、500 及び 2,000 mg/kg 体重、溶媒：0.5%CMC) 投与による急性神経

毒性試験が実施された。

本試験において、2,000 mg/kg 体重においても検体投与による影響は認められなかったため、一般毒性及び神経毒性の無毒性量は、雌雄とも本試験の最高用量である 2,000 mg/kg 体重と考えられた。急性神経毒性は認められなかった。（参照 50）

## 9. 眼・皮膚に対する刺激性及び皮膚感作性試験

NZW ウサギを用いた眼一次刺激性試験及び皮膚一次刺激性試験が実施された。その結果、眼刺激性はなし又は軽度の刺激性が認められた。皮膚刺激性は認められなかった。（参照 19、20）

Hsd Poc:DH 系モルモットを用いた皮膚感作性試験（Maximization 法）が実施された。皮膚感作性は陰性であった。（参照 21）

<反復投与試験における検体の投与方法について>

ラット及びマウスを用いた混餌投与による予備試験が実施された結果、摂餌忌避が認められたため、亜急性毒性試験、慢性毒性試験及び発がん性試験並びに 2 世代繁殖試験は強制経口投与により実施された。

## 10. 亜急性毒性試験

### (1) 90 日間亜急性毒性試験（ラット）

SD ラット（一群雌雄各 10 匹）を用いた強制経口 [原体：0、30、60、300（雄）及び 300/200（雌）mg/kg 体重/日（雌は投与 3 週後から 200 mg/kg 体重/日）、溶媒：0.5%CMC 水溶液] 投与による 90 日間亜急性毒性試験（2 年間慢性毒性/発がん性併合試験 [11. (2)] において 90 日間投与後中間と殺した動物のデータを採用）が実施された。

各投与群で認められた毒性所見は表 18 に示されている。

300 mg/kg 体重/日投与群の雌で投与 2 週後の平均体重が対照群より 16%の低値を、体重増加量が 71%の低値を示したため、投与 3 週後からの投与量を 200 mg/kg 体重/日に変更した。同群の雌では投与 13 週後に体重増加抑制が認められた（対照群と比べ平均体重で 12%、体重増加量で 27%の減少）。

本試験において、300 mg/kg 体重/日投与群の雄に小葉中心性肝細胞肥大等が、300/200 mg/kg 体重/日投与群の雌に体重増加抑制、摂餌量減少等が認められたため、無毒性量は雌雄とも 60 mg/kg 体重/日であると考えられた。（参照 23）

表 18 90 日間亜急性毒性試験(ラット)で認められた毒性所見

投与群	雄	雌
300(雄)、300/200(雌) mg/kg 体重/日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ RBC 減少及び網状赤血球数増加</li> <li>・ 小葉中心性肝細胞肥大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体重増加抑制(投与 1 週以降)</li> <li>・ 摂餌量減少(投与 2 週まで)</li> <li>・ MCV 及び網状赤血球数増加</li> <li>・ AST 減少及び T.Chol 増加</li> </ul>
60 mg/kg 体重/日以下	毒性所見なし	毒性所見なし

## (2) 90 日間亜急性毒性試験 (イヌ)

ビーグル犬 (一群雌雄各 5 匹) を用いたカプセル経口 (原体 : 0、6、12、30 及び 60/40/30 mg/kg 体重/日) 投与による 90 日間亜急性毒性試験が実施された。本試験は 90 日間亜急性毒性試験及び 1 年間慢性毒性試験の併合試験として実施された。すなわち、投与 90 日後のと殺動物は設定せず、投与 1 年後にと殺予定の動物から得られた投与 90 日後の検査結果 (生死、一般状態、詳細な症状観察、体重変化、摂餌量、食餌効率、血液学的検査、血液生化学的検査、尿検査及び眼科学的検査) をもって 90 日間亜急性毒性を評価した。

最高用量群においては、当初は 60 mg/kg 体重/日の濃度で投与を開始したが、嘔吐、摂餌量低下、体重増加抑制、体重減少等著しい毒性変化がみられたので、投与 49 日後から 40 mg/kg 体重/日に減じた (同群では 1 年間慢性毒性試験実施時に、投与 245 日後から投与量をさらに 30 mg/kg 体重/日に減じたので、60/40/30 mg/kg 投与群と表記した)。

各投与群で認められた毒性所見は表 19 に示されている。

60/40/30 mg/kg 体重/日投与群では体重及び摂餌量の減少とともに雄 1 匹及び雌 2 匹に嘔吐、運動失調、流涎、横臥位等一般状態の悪化がみられたので、切迫と殺した。

本試験において、30 mg/kg 体重/日以上投与群の雌雄で嘔吐、運動失調、体重減少、摂餌量減少等が認められたので、無毒性量は雌雄とも 12 mg/kg 体重/日であると考えられた。(参照 24)

表 19 90 日間亜急性毒性試験(イヌ)で認められた毒性所見

投与群	雌雄
60/40/30 mg/kg 体重/日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全身状態の悪化(投与 56 及び 57 日)</li> <li>・切迫と殺(雄 1 匹、雌 2 匹：投与 57 日)</li> </ul>
30 mg/kg 体重/日以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嘔吐(雄、投与 273 日以降)、運動失調(雄、投与 232 日以降)、流涎(雌、投与 208 日以降)及び横臥位(雄、投与 250 日以降、雌、投与 226 日以降)</li> <li>・体重減少、体重増加抑制<sup>§1</sup></li> <li>・摂餌量減少<sup>§2</sup></li> <li>・MCHC 減少</li> </ul>
12 mg/kg 体重/日以下	毒性所見なし

<sup>§1</sup> : 30 mg/kg 体重/日投与群の雌で投与 24 週以降、60/40/30 mg/kg 体重/日投与群の雌で投与 4 週に認められた。

<sup>§2</sup> : 30 mg/kg 体重/日投与群の雌で投与 19 週以降、60/40/30 mg/kg 体重/日投与群の雌で投与 7 週に認められた。

### (3) 28 日間亜急性毒性試験(イヌ) <参考資料<sup>3</sup>>

ビーグル犬(一群雌 2 匹)を用いたカプセル経口(原体：0 及び 100 mg/kg 体重/日)投与による 28 日間亜急性毒性試験が実施された。

その結果、100 mg/kg 体重/日投与群において、嘔吐が散発的に認められた。最終と殺時の体重は対照群より 20%低く、体重減少及び摂餌量減少が認められた。その他の検査項目において検体投与の影響は認められなかった。(参照 22)

### (4) 90 日間亜急性神経毒性試験(ラット)

Wistar (CrlGl×BrlHan:WI) ラット(一群雌雄各 10 匹)を用いた強制経口[原体：(雄) 0、12、36、150 及び 300 mg/kg 体重/日、(雌) 0、12、36 及び 150 mg/kg 体重/日、溶媒：0.5%CMC]投与による 90 日間亜急性神経毒性試験が実施された。

各投与群で認められた毒性所見は表 20 に示されている。

本試験において、300 mg/kg 体重/日投与群の雄で体重増加抑制、摂餌量低下等が認められ、150 mg/kg 体重投与群の雌雄で死亡例、雌で体重増加抑制等が認められたので、無毒性量は雌雄とも 36 mg/kg 体重/日であると考えられた。亜急性神経毒性は認められなかった。(参照 51)

<sup>3</sup> 動物数が少なく、1 用量の試験のため参考資料とした。

表 20 90 日間亜急性神経毒性試験（ラット）で認められた毒性所見

投与群	雄	雌
300 mg/kg 体重/日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くずれ易い糞(投与 66 日以降)、生殖器周囲の尿汚れ(投与 85 日以降)</li> <li>・体重増加抑制(投与 21 日以降)</li> <li>・摂餌量及び摂餌効率低下(投与 2 週以降)</li> </ul>	/
150 mg/kg 体重/日以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・死亡例(1 例、投与 59 日)</li> <li>・立毛(投与 49 日以降)、全身状態の悪化(投与 54 日以降)及び高体温(投与 49 日以降)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・死亡例(1 例、投与 16 日)</li> <li>・立毛(投与 14 日以降)、全身状態の悪化、低体温、くずれ易い糞(投与 71 日以降)、うずくまり(投与 20 日以降)、腹部膨満(投与 63 日以降)及び呼吸音(投与 54 日以降)</li> <li>・体重増加抑制(投与 1 週以降)</li> <li>・摂餌量及び摂餌効率低下(投与 1 週以降)</li> </ul>
36 mg/kg 体重/日以下	毒性所見なし	毒性所見なし

/ : 実施されず。

#### (5) 90 日間亜急性毒性試験（ラット、Z-異性体）

Z-異性体の SD ラット（一群雌雄各 10 匹）を用いた強制経口（Z-異性体：0、100、300 及び 1,000 mg/kg 体重/日、溶媒：0.5%CMC 水溶液）投与による 90 日間亜急性毒性試験が実施された。

各投与群で認められた毒性所見は表 21 に示されている。

血液生化学的検査において、300 mg/kg 体重/日以上投与群の雄で ALP が、また 100 mg/kg 体重/日以上投与群の雌で T.Bil が増加した。しかし、いずれも軽度な変化であり、用量相関性が認められなかったため、検体投与の影響とは考えられなかった。

病理組織学的検査において、1,000 mg/kg 体重/日投与群の雌 2 匹に脾臓の動脈周囲リンパ組織及び辺縁帯の細胞密度の減少が認められ、このうち 1 匹は死亡した。また、この死亡例及び 300 mg/kg 体重/日投与群の切迫と殺例では脾臓のヘモジデリンが増加した。300 mg/kg 体重/日投与群の切迫と殺例及び 1,000 mg/kg 体重/日投与群の 3 匹（1 匹は死亡）では腸間膜リンパ節の傍皮質におけるリンパ球の壊死が認められた。これらの所見を示した動物は著しい体重減少を伴っていたため、検体投与における直接的な影響ではなく、体重減少に起因する二次的な変化であると考えられた。

本試験において、1,000 mg/kg 体重/日投与群の雄で小葉中心性肝細胞肥大、300 mg/kg 体重/日以上投与群の雌で全身状態の悪化等の症状、体重増加抑制等が認めら

れたので、無毒性量は雄で 300 mg/kg 体重/日、雌で 100 mg/kg 体重/日であると考  
えられた。(参照 25)

表 21 90 日間亜急性毒性試験(ラット、Z-異性体)で認められた毒性所見

投与群	雄	雌
1,000 mg/kg 体重/日	・小葉中心性肝細胞肥大	・死亡(1 例、投与 77 日) ・腹臥位、歩行失調、強直性痙攣、 横臥位及び四肢の外転 ・運動協調性の消失
300 mg/kg 体重/日 以上	300 mg/kg 体重/日以下 毒性所見なし	・切迫と殺(1 例、投与 77 日) <sup>§1</sup> ・肛門生殖器の尿による汚れ <sup>§1</sup> 、 無排便、頭部の斜位、立毛及び 全身状態の悪化 ・自発運動量減少 ・体重増加抑制 <sup>§2</sup> ・摂餌量減少 <sup>§3</sup> ・副腎比重量 <sup>4</sup> 増加 ・副腎皮質(束状帯)空胞化
100 mg/kg 体重/日		毒性所見なし

§1 : 300 mg/kg 体重/日投与群のみ認められた。

§2 : 300 mg/kg 体重/日投与群でのみ投与 10 及び 11 週に認められた。

§3 : 300 mg/kg 体重/日投与群で投与 3~11 週、1,000 mg/kg 体重/日投与群で投与 4 週に認められた。

#### (6) 90 日間亜急性毒性試験 (ラット、代謝物 C)

代謝物 C の SD ラット (一群雌雄各 10 匹) を用いた強制経口 (代謝物 C : 0、  
50、200 及び 1,000 mg/kg 体重/日、溶媒 : 0.5%CMC 水溶液) 投与による 90 日  
間亜急性毒性試験が実施された。

各投与群で認められた毒性所見は表 22 に示されている。

試験期間中死亡例は認められなかった。1,000 mg/kg 体重/日投与群の雄全例及  
び雌 4 匹、200 mg/kg 体重/日投与群の雄 1 匹に軽度な流涎が投与後数分間のみ認め  
られ検体投与の影響と考えられた。FOB において、200 及び 1,000 mg/kg 体重/日  
投与群の雄の立ち上がり回数が増加したが、他の FOB 観察項目又は自発運動量に  
変化が認められなかったため、検体投与の影響ではないと考えられた。血液学的検  
査において、雌の全投与群で RBC の減少、50 及び 1,000 mg/kg 体重/日投与群で  
Hb 及び Ht の減少並びに 1,000 mg/kg 体重/日投与群で PLT の増加がみられたが、  
いずれも軽度な変化であり、用量相関性も認められないため、検体投与の影響では  
ないと考えられた。また、200 及び 1,000 mg/kg 体重/日投与群の雌における副腎絶  
対及び比重量の増加及び 200 mg/kg 体重/日投与群の雌における肝比重量の増加は、  
関連する病理組織学的変化が認められず、副腎においては用量相関性もないため、  
検体投与の影響ではないと考えられた。

<sup>4</sup>体重比重量を比重量という (以下同じ。)

本試験において、200 mg/kg 体重/日以上投与群の雄で甲状腺び慢性ろ胞上皮細胞肥大、1,000 mg/kg 体重/日投与群雌で肝比重量増加及び小葉中心性肝細胞肥大が認められたので、無毒性量は雄で 50 mg/kg 体重/日、雌で 200 mg/kg 体重/日であると考えられた。（参照 26）

表 22 90 日間亜急性毒性試験（ラット、代謝物 C）で認められた毒性所見

投与群	雄	雌
1,000 mg/kg 体重/日	・小葉中心性肝細胞肥大	・肝比重量増加 ・小葉中心性肝細胞肥大
200 mg/kg 体重/日以上	・甲状腺び慢性ろ胞上皮細胞肥大	200 mg/kg 体重/日以下 毒性所見なし
50 mg/kg 体重/日	毒性所見なし	

## 1 1. 慢性毒性試験及び発がん性試験

### (1) 1 年間慢性毒性試験（イヌ）

ビーグル犬（一群雌雄各 5 匹）を用いたカプセル経口（原体：0、6、12、30 及び 60/40/30 mg/kg 体重/日）投与による 1 年間慢性毒性試験が実施された。

最高用量群においては、当初は 60 mg/kg 体重/日の用量で投与を開始したが、著しい毒性変化がみられたため、49 日から 40 mg/kg 体重/日に、さらに 245 日から 30 mg/kg 体重/日に投与量を減じた。

各投与群で認められた毒性所見は表 23 に示されている。

血液学的検査において、60/40/30 及び 30 mg/kg 体重/日投与群の雌雄で多くの検査時期に形態学的な低色素性赤血球の発生頻度が増加し、MCHC の減少も認められた。12 及び 6 mg/kg 体重/日投与群雌雄で認められた MCHC の減少は、減少の程度が僅かであり、用量相関性及び赤血球の形態学的な低色素性が伴っていなかったため、検体投与の影響とは考えられなかった。60/40/30 及び 30 mg/kg 体重/日投与群の雄で認められた Hb の減少は、一過性の変化であったが、低色素性赤血球の増加と関連する変化と考えられた。雌においては、Hb の減少は、用量相関性がなく検体投与の影響とは考えられなかった。

病理組織学的検査において、対照群を含めた雌雄の全投与群において、腎臓の尿細管上皮細胞色素沈着が認められた。本所見は、統計学的に有意な用量相関性が認められ、対照群には認められていない重度の沈着が認められた 30 mg/kg 体重/日以上投与群の雄については、検体投与の影響と考えられた。

本試験において、30 mg/kg 体重/日以上投与群の雄に MCHC 減少、低色素性赤血球増加、T.Bil 増加等、雌に嘔吐、運動失調、体重増加抑制、体重及び摂餌量減少等が認められたので、無毒性量は雌雄とも 12 mg/kg 体重/日であると考えられた。（参照 27）

表 23 1 年間慢性毒性試験(イヌ)で認められた毒性所見

投与群	雄	雌
60/40/30 mg/kg 体重/日	<ul style="list-style-type: none"> <li>嘔吐(投与 273 日以降)、運動失調(投与 232 日以降)、横臥位(投与 250 日以降) 及び一般状態の悪化(投与 153 日以降)</li> <li>切迫と殺(2 匹：投与 57 及び 250 日)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般状態の悪化(投与 56 日以降)</li> <li>切迫と殺(3 匹：投与 57 及び 226 日)</li> </ul>
30 mg/kg 体重/日以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>MCHC 減少、低色素性赤血球増加及び Hb 減少</li> <li>T.Bil 増加</li> <li>腎尿細管上皮褐色色素沈着</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>嘔吐(投与 229 日以降)、運動失調(投与 166 日以降)、流涎(投与 208 日以降)及び横臥位(投与 226 日以降)</li> <li>切迫と殺(2 匹：投与 215 及び 237 日)</li> <li>体重減少、体重増加抑制<sup>§1</sup></li> <li>摂餌量減少<sup>§2</sup></li> <li>MCHC 減少及び低色素性赤血球増加</li> <li>T.Bil 増加</li> </ul>
12 mg/kg 体重/日以下	毒性所見なし	毒性所見なし

<sup>§1</sup> : 30 mg/kg 体重/日投与群で投与 24 週以降、60/40/30 mg/kg 体重/日投与群で投与 4 週に認められた。

<sup>§2</sup> : 30 mg/kg 体重/日投与群で投与 19 週以降、60/40/30 mg/kg 体重/日投与群で投与 7 週に認められた。

## (2) 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験 (ラット)

SD ラット (一群雌雄各 80 匹：3 か月後中間と殺群雌雄各 10 匹、12 か月後中間と殺群雌雄各 10 匹、最終と殺群雌雄各 60 匹) を用いた強制経口 [原体：0、30、60、300 (雄) 及び 300/200 (雌) mg/kg 体重/日、溶媒：0.5%CMC 水溶液] 投与による 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験が実施された。

雌の 300 mg/kg 体重/日投与群では体重に著しい影響が認められたため、投与 3 週後から投与量を雌のみ 200 mg/kg 体重/日に変更した。雄では対照群の生存率が低下したため、全群の生存動物を投与開始 23 か月後でと殺した。

死亡率には検体投与に関連した影響は認められなかった。

各投与群で認められた毒性所見は表 24 に示されている。

血液学的及び血液生化学的検査では、雄の全投与群において Hb 及び RBC の減少、60 及び 300 mg/kg 体重/日投与群において Ht の減少が認められたが、いずれも投与 6 か月の検査時期のみに認められており、その時の対照群の値 (Hb : 16.5、RBC : 9.53、Ht : 51.4) が他の時期 (Hb : 14.1~16.3、RBC : 7.85~9.23、Ht : 43.0~47.9) に比べ高かったことがひとつの要因と考えられた。また、用量相関性も認められなかったため、検体投与の影響とは考えられなかった。

腫瘍性病変については、その発生頻度に検体投与に関連した影響は認められなかった。



本試験において、60 mg/kg 体重/日以上投与群の雄に小葉中心性肝細胞肥大及び肝細胞好塩基性化、雌に Hb、Ht 及び RBC 減少等が認められたので、無毒性量は雌雄とも 30 mg/kg 体重/日であると考えられた。発がん性は認められなかった。（参照 28）

表 24 2年間慢性毒性/発がん性併合試験（ラット）で認められた毒性所見

投与群	雄	雌
300 (雄)、300/200(雌) mg/kg 体重/日		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体重増加抑制(投与 1 週以降)</li> <li>・ MCV 増加及び MCHC 減少</li> <li>・ 小葉中心性肝細胞肥大</li> </ul>
60 mg/kg 体重/日以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小葉中心性肝細胞肥大</li> <li>・ 肝細胞好塩基性化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Hb、Ht 及び RBC 減少</li> <li>・ T.Bil 増加</li> </ul>
30 mg/kg 体重/日	毒性所見なし	毒性所見なし

### (3) 18 か月間発がん性試験（マウス）

ICR マウス（一群雌雄各 65 匹）を用いた強制経口（原体：0、100、250 及び 1,000 mg/kg 体重/日、溶媒：0.5%CMC 水溶液）投与による 18 か月間発がん性試験が実施された。

血液学的検査において、1,000 mg/kg 体重/日投与群雌において網状赤血球数の増加、MCV 及び MCH の減少が認められた。同群においては、RBC、Hb 及び Ht に変化は認められず、網状赤血球数、MCV 及び MCHC の変動は軽微であったが、脾臓の色素沈着増加を伴っていたので、投与による影響と考えられた。

病理組織学的検査において、脾臓の褐色色素増加の発生例が 1,000 mg/kg 体重/日投与群の雌雄で増加した。この色素は Perl 染色の結果、ヘモジデリンと類似の染色性を示した。しかし、赤血球の破壊が増加した場合に想定される髄外造血の亢進は認められなかった。検体投与に関連して発生頻度が増加した腫瘍性病変は認められなかった。

本試験において、1,000 mg/kg 体重/日投与群の雌雄に脾臓褐色色素増加等が認められたので、無毒性量は雌雄とも 250 mg/kg 体重/日であると考えられた。発がん性は認められなかった。（参照 29）

## 1 2. 生殖発生毒性試験

### (1) 2 世代繁殖試験（ラット）

Wistar (CrI Gl×Brl Han:WI) ラット（一群雌雄各 25 匹）を用いた強制経口（原体：0、12、20/30 及び 50/75 mg/kg 体重/日、溶媒：0.5%CMC 水溶液）投与による 2 世代繁殖試験が実施された。

75 mg/kg 体重/日投与群の雌親動物に摂餌量減少、体重増加量抑制及び全身状態の悪化がみられ、児動物に対しても生存率の低下、体重増加抑制等の影響がみられたため、F<sub>1</sub> 児を離乳時に全例安楽致死させた。この時点で親動物への投与量

を 0、12、20 及び 50 mg/kg 体重/日に変更し、1 回目と同じ方法を用いて、同じ親動物を同じ交配相手と再度、交配させて産児を得た。

各世代と投与量との関係及び各世代の呼称は表 25 に示されている。

表 25 2 世代繁殖試験(ラット)における各世代と投与量との関係及び各世代の呼称

P 世代			F <sub>1</sub> 世代	
親動物	F <sub>1</sub> 産児	投与量 (mg/kg 体重/日)	F <sub>2</sub> 産児	投与量 (mg/kg 体重/日)
P <sub>1</sub> (1 回目交配)	F <sub>1a</sub>	0、12、30、75	—	—
P <sub>2</sub> (2 回目交配)	F <sub>1b</sub>	0、12、20、50	F <sub>2</sub>	0、12、20、50

親動物及び児動物における各投与群で認められた毒性所見は表 26 に示されている。

親動物に対する影響として、2 回目交配時、50 mg/kg 体重/日投与群の雌 (P<sub>2</sub>) に、育成期間中及び妊娠期間中に全身状態悪化が認められた。同群の体重は低値で推移したが、体重増加量に影響は認められなかった。この体重低値は、P<sub>1</sub> 親動物において誘発された体重増加抑制に起因するものであり、50 mg/kg 体重/日の検体投与によって誘発されたものではないと考えられた。

児動物に対する影響として、2 回目交配時、50 mg/kg 体重/日投与群の児動物の死産児数が増加し、そのため出生率が低下した。同群では、母動物の授乳が不十分だったことに起因する喰殺された児動物及び計画と殺前に死亡した児動物数が増加し、それにより同群の生存率は低下した。F<sub>1b</sub> 並びに F<sub>2</sub> 児動物の性比、一般状態、体重変化、性成熟、剖検及び臓器重量に検体投与の影響は認められなかった。

本試験において、親動物では P<sub>2</sub> の雌親動物の 50 mg/kg 体重/日投与群において全身状態の悪化を示す個体が増加した。P 世代の児動物では、50 mg/kg 体重/日投与群 (F<sub>1b</sub>) において出生率及び生存率低下が認められたことから、無毒性量は親動物及び児動物とも 20 mg/kg 体重/日であると考えられた。(参照 30)

表 26 2 世代繁殖試験(ラット)で認められた所見

投与群		親：P <sub>1</sub> 、児：F <sub>1a</sub>		
1 回 目 交 配	親動物 75 mg/kg 体重/日	雄	雌	
		・受胎率低下	・全身状態の悪化(投与1週以降) ・体重増加抑制(投与1週以降) ・摂餌量減少(投与1週以降) ・受胎率低下 ・哺育(授乳)行動低下	
児動物 75 mg/kg 体重/日	雌雄			
	・喰殺数増加 ・生存率減少	・死亡動物数増加 ・体重増加抑制		
投与群		親：P <sub>2</sub> 、児：F <sub>1b</sub>		親：F <sub>1b</sub> 、児：F <sub>2</sub>
2 回 目 交 配	親動物 50 mg/kg 体重/日 20 mg/kg 体重/日以下	雄	雌	雌雄 毒性所見なし
		50 mg/kg 体重/日以下 毒性所見なし	・全身状態悪化(投与1週以降) ・哺育(授乳)行動低下 毒性所見なし	
児動物 50 mg/kg 体重/日 20 mg/kg 体重/日以下	雌雄		雌雄 毒性所見なし	
	・死産児数増加 ・喰殺数増加	・出生率低下 ・死亡動物数増加		

/: F<sub>1</sub>児を全例安楽死させたため実施できなかった。

## (2) 発生毒性試験 (ラット)

Wistar (CrI Gl×Brl Han:WI) ラット (一群雌 25 匹) の妊娠 6～19 日に強制経口 (原体：0、15、40 及び 120 mg/kg 体重/日、溶媒：0.5%CMC 水溶液) 投与して発生毒性試験が実施された。

120 mg/kg 体重/日投与群の母動物に体重増加抑制 (妊娠 6～8 日) 及び摂餌量減少 (妊娠 10～15 日) が認められた。

妊娠子宮重量、黄体数、着床数、子宮内死亡率、胚・胎児死亡数、生存胎児数、胎児の性比及び胎児重量に検体投与の影響は認められなかった。

胎児において、奇形・変異が観察されたが、その発生頻度はいずれも対照群との間に有意差が認められず、また用量相関性も認められなかったため、自然発生性のものと考えられた。

本試験において、120 mg/kg 体重/日投与群において、母動物に体重増加抑制及び摂餌量の減少が認められ、胎児には検体投与の影響が認められなかったため、無毒性量は、母動物で 40 mg/kg 体重/日、胎児で本試験の最高用量 120 mg/kg 体重/日であると考えられた。催奇形性は認められなかった。(参照 31)

### (3) 発生毒性試験 (ウサギ)

Chbb:HM 系ウサギ (一群雌 25 匹) の妊娠 6~28 日に強制経口 (原体: 0、30、100 及び 300 mg/kg 体重/日、溶媒: 0.5%CMC 水溶液) 投与して発生毒性試験が実施された。

母動物では 300 mg/kg 体重/日投与群において、4 匹に毒性徴候が認められた。このうち 2 匹が流産し切迫と殺した。2 匹は妊娠 23 又は 24 日以降に横臥位、歩行失調、全身状態の悪化及び無排便を示し、このうち 1 匹は瀕死状態であったため切迫と殺した。流産動物の 1 匹は、妊娠 26~28 日に横臥位及び歩行失調を示し、28 日に流産し、他の 1 匹は妊娠 22 日に流産した。その他の親動物に関する検査項目 (体重、摂餌量及び剖検所見) 及び繁殖に関する検査項目 (黄体数、着床数、早期吸収胚数、後期吸収胚数及び生存胎仔数) に検体投与の影響は認められなかった。

胎児では、300 mg/kg 体重/日投与群の平均胎児体重が有意差はないものの、対照群より約 7%減少した。これは、同群において発育不全の胎児の割合の増加を伴っており、検体投与の影響と考えられた。外表奇形が対照群、300 及び 100 mg/kg 体重/日投与群に各 1 例認められたが、群間に有意差は認められなかった。骨格及び内臓の奇形が各群に散見されたが、いずれも自然発生性の変化と考えられた。骨格変異として、胸骨分節の不完全骨化の発生率が、300 及び 100 mg/kg 体重/日投与群において増加したが、100 mg/kg 体重/日投与群については、1 腹平均胎児数の増加による平均胎児体重の僅かな減少に関連する変化であり、偶発的なものと考えられた。一方、300 mg/kg 体重/日投与群については平均胎児体重の減少、胎児の発育不全に関連する変化であると考えられた。生存胎児数、胎盤重量及び胎児の性比に検体投与の影響は認められなかった。

本試験において、300 mg/kg 体重/日投与群の母動物では横臥位、歩行失調、全身状態の悪化、流産等の毒性徴候が認められ、胎児では発育抑制等の胎児毒性が認められたので、無毒性量は母動物及び胎児とも 100 mg/kg 体重/日であると考えられた。なお胎児毒性は、母動物の状態の悪化に伴う変化であり、検体投与の直接作用によるものではないと考えられた。催奇形性は認められなかった。(参照 32)

### 1 3. 遺伝毒性試験

メタフルミゾンの細菌を用いた復帰突然変異試験、チャイニーズハムスター肺由来線維芽細胞 (V79 細胞) を用いた遺伝子突然変異試験及び染色体異常試験、マウスを用いた小核試験並びにラットを用いた肝細胞不定期 DNA 合成 (UDS) 試験が実施された (表 27)。

その結果、染色体異常試験では代謝活性化系非存在下で陽性 (構造異常誘発) であったが、*in vivo* 試験を含む他の全ての試験で陰性であったことから、メタフ

ルミゾン<sup>®</sup>は生体において問題となる遺伝毒性はないものと考えられた。(参照 33～36、68)

表 27 遺伝毒性試験結果概要(原体)

試験	対象	処理濃度・投与量	結果
<i>in vitro</i>	復帰突然変異試験 <i>Salmonella typhimurium</i> (TA98、TA100、TA1535、 TA1537 株) <i>Escherichia coli</i> (WP2 <i>uvrA</i> 株)	15 ~ 5,000 µg/プレート (+/-S9)	陰性
	遺伝子突然変異試験 ( <i>Hprt</i> 遺伝子) チャイニーズハムスター 肺由来線維芽細胞(V79)	① 156.3 ~ 5,000 µg/mL (+/-S9) ② 25~800 µg/mL (-S9) 50~1,200 µg/mL (+S9) (4 時間処理、1 週間培養後 標本作製)	陰性
	染色体異常試験 チャイニーズハムスター 肺由来線維芽細胞(V79)	① 12.5~50.0 µg/mL (-S9) 25.0~100.0 µg/mL (+S9) (4 時間処理、14 時間培養 後標本作製) ② 3.125~50.00 µg/mL (-S9) (4 時間処理、14 時間培養 後標本作製)	陽性*
<i>in vivo</i>	小核試験 CrI:NMRI マウス (骨髓細胞) (一群雄 5 匹)	500、1,000、2,000 mg/kg 体 重/日 (2 回腹腔内投与後 24 時間で標 本作製)	陰性
	UDS 試験 CrIGlxBrIHan:WI ラット(肝細胞) (一群雄 3 匹)	1,000、2,000 mg/kg 体重 (単回経口投与後 3 及び 14 時間 で標本作製)	陰性

注) +/-S9 : 代謝活性化系存在下及び非存在下

\* : 代謝活性化系非存在下でのみ陽性 (構造異常誘発)

Z 異性体及び代謝物 C (植物及び土壌由来) の細菌を用いた復帰突然変異試験、代謝物 C の V79 細胞を用いた遺伝子突然変異試験及び染色体異常試験並びにマウスを用いた小核試験が実施された。

結果は表 28 に示されている。

その結果、代謝物 C を用いた染色体異常試験では代謝活性化系非存在下で陰性であったが、代謝活性化系存在下で陽性 (構造異常誘発) を示した。その他の試験では全て陰性であった。代謝物 C では、代謝活性化系の存在下で染色体異常誘発が認められたが、限界用量まで試験された小核試験において陰性であり、生体において問題となる遺伝毒性はないものと考えられた。(参照 37~40、68)

表 28 遺伝毒性試験結果概要 (Z-異性体及び代謝物)

被験物質	試験		対象	処理濃度・投与量	結果
Z異性体	<i>in vitro</i>	復帰突然変異試験	<i>S. typhimurium</i> (TA98、TA100、TA1535、 TA1537 株) <i>E. coli</i> (WP2 <i>uvrA</i> 株)	20～5,000 µg/プレート (+/-S9)(プレート法) 4～2,500 µg/プレート (+/-S9) (プレインキュ ベーション法)	陰性
代謝物 C	<i>in vitro</i>	復帰突然変異試験	<i>S. typhimurium</i> (TA98、TA100、TA1535、 TA1537 株) <i>E. coli</i> (WP2 <i>uvrA</i> 株)	20～5,000 µg/プレート (+/-S9) (プレート法) 62.5～1,500 µg/プレ ート (+/-S9)(プレイン キュベーション法)	陰性
		遺伝子突然変異試験 ( <i>Hprt</i> 遺伝子)	チャイニーズハムスター 肺由来線維芽細胞(V79)	0.125～6.0 µg/mL (-S9) 1.25～100 µg/mL (+S9) (4 時間処理、1 週間培養 後標本作製)	陰性
		染色体異常試験	チャイニーズハムスター 肺由来線維芽細胞(V79)	① 0.25 ～ 1.00 µg/mL (-S9) 1.00 ～ 10.0 µg/mL (+S9) (4 時間処理、14 時間 培養後標本作製) ② 7.50 ～ 12.5 µg/mL (+S9) (4 時間処理、14 時間 培養後標本作製)	陽性*
	<i>in vivo</i>	小核試験	Cr1:NMRI マウス (骨髓細胞) (一群雄各 5 匹)	500、1,000、2,000 mg/kg 体重/日 (2 回経口投与後 24 時間 で標本作製)	陰性

注) +/-S9 : 代謝活性化系存在下及び非存在下

\* : 代謝活性化系存在下でのみ陽性 (構造異常誘発)

### Ⅲ. 食品健康影響評価

参照に挙げた資料を用いて、農薬「メタフルミゾン」の食品健康影響評価を実施した。なお、今回、作物残留試験（かぶ、温州みかん等）の成績等が新たに提出された。

$^{14}\text{C}$  で標識したメタフルミゾンを用いた動物体内運命試験において、投与された [ $\text{trf-}^{14}\text{C}$ ]メタフルミゾンの消失が [ $\text{ben-}^{14}\text{C}$ ]メタフルミゾンに比べて遅く、トリフルオロメトキシフェニル環を有する代謝物が血球成分に吸着又は結合したことが推定された。投与後 72 時間の吸収率は、少なくとも低用量投与群で 2.7%~7.3%、高用量投与群で 0.8%~1.9%と算出された。投与された放射能は主に糞中に排泄され、放射能の大部分が未変化のメタフルミゾンとして排泄された。一方、吸収された放射能は肝臓、腎臓、脂肪等種々の臓器・組織に分布したが、投与終了後の減衰は概ね速やかであった。

$^{14}\text{C}$  で標識したメタフルミゾンによる畜産動物を用いた動物体内運命試験において、泌乳ヤギでは乳汁中に未変化のメタフルミゾンが 68%TRR~88.4%TRR 認められたほか、代謝物は検出されなかった。組織中の主要成分は未変化のメタフルミゾンであり、10%TRR を超える代謝物として肝臓で代謝物 X 及び Y がそれぞれ 19.7%TRR 及び 11.2%TRR 認められたほか、代謝物 C、D、G、I、L、V 及び W が認められたが、いずれも 10%TRR 未満であった。産卵鶏では卵及び組織中の主要成分は、未変化のメタフルミゾンであり、10%TRR を超える代謝物は認められなかった。

$^{14}\text{C}$  で標識したメタフルミゾンを用いた植物体内運命試験において、いずれの作物でも代謝パターンは類似していると考えられた。各作物中の主要成分は未変化のメタフルミゾン（*E*-異性体及び *Z*-異性体）であり、10%TRR を超える代謝物として D が検出された。

メタフルミゾン（*E*-異性体及び *Z*-異性体）並びに代謝物 C 及び D を分析対象化合物とした作物残留試験の結果、最大残留値は、メタフルミゾン（*E*-異性体）で 16.1 mg/kg（サラダ菜）、メタフルミゾン（*Z*-異性体）で 18.7 mg/kg（サラダ菜）、代謝物 C で 0.07 mg/kg（はくさい）、代謝物 D で 4.62 mg/kg（だいこん葉）であった。

メタフルミゾン（*E*-異性体及び *Z*-異性体）を分析対象化合物とした畜産物残留試験の結果、最大残留値は、泌乳牛で 0.864  $\mu\text{g/g}$ （脂肪）及び産卵鶏で 3.49  $\mu\text{g/g}$ （脂肪）であった。

魚介類における最大推定残留値は 1.11 mg/kg であった。

各種毒性試験結果から、メタフルミゾン投与による影響は、主に体重（増加抑制）、血液（貧血）及び肝臓（小葉中心性肝細胞肥大等）に認められた。

ラットを用いた 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験の雄で肝細胞好塩基性化が認められた。この病変の発現要因は不明であるが、投与群において肝腫瘍等の増殖性変化を伴っていないことから、前がん病変とは関連しない変化と考えられた。また、

ラットを用いた2世代繁殖試験において、高用量群の児動物で死産児数増加、出生率低下及び生存率低下が認められたが、これらは、同群の雌親動物の全身状態悪化及び授乳行動低下に関連した変化であると考えられた。

神経毒性、発がん性、催奇形性及び生体において問題となる遺伝毒性は認められなかった。代謝物 C についても、復帰突然変異試験、遺伝子突然変異試験、染色体異常試験及び小核試験が実施され、生体において問題となる遺伝毒性は認められなかった。

植物体内運命試験の結果、10%TRR を超える代謝物として D が認められ、畜産動物を用いた動物体内運命試験の結果、10%TRR を超える代謝物として X 及び Y が認められた。代謝物 D はラットで認められるが、作物残留試験において相当量の残留が認められること、代謝物 X はラットの代謝中間体であり、代謝物 Y は X のグルタミン酸抱合体であることから、農産物中の暴露評価対象物質をメタフルミゾン (*E*-異性体及び *Z*-異性体) 及び代謝物 D、畜産物及び魚介類中の暴露評価対象物質をメタフルミゾン (*E*-異性体及び *Z*-異性体) (親化合物のみ) と設定した。

各試験における無毒性量等は表 29 に示されている。

食品安全委員会は、各試験で得られた無毒性量のうち最小値は、イヌを用いた1年間慢性毒性試験の 12 mg/kg 体重/日であったことから、これを根拠として、安全係数 100 で除した 0.12 mg/kg 体重/日を一日摂取許容量 (ADI) と設定した。

また、メタフルミゾンの単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響は認められなかったことから、急性参照用量 (ARfD) は設定する必要がないと判断した。

ADI	0.12 mg/kg 体重/日
(ADI 設定根拠資料)	慢性毒性試験
(動物種)	イヌ
(期間)	1 年間
(投与方法)	カプセル経口
(無毒性量)	12 mg/kg 体重/日
(安全係数)	100

ARfD	設定の必要なし
------	---------

<参考>

<JMPR、2009 年>

ADI	0.1 mg/kg 体重/日
(ADI 設定根拠資料)	慢性毒性試験
(動物種)	イヌ
(期間)	1 年間



(投与方法) カプセル経口  
(無毒性量) 12 mg/kg 体重/日  
(安全係数) 100

ARfD 設定の必要なし

< EFSA、2013 年 >

ADI 0.01 mg/kg 体重/日

(ADI 設定根拠資料) ①亜急性毒性試験  
②慢性毒性試験

(動物種) イヌ

(期間) ①90 日間

②1 年間

(投与方法) カプセル経口

(無毒性量) 6 mg/kg 体重/日

(安全係数) 600

(イヌの生物濃縮性による追加係数 3、混餌投与及び強制経口投与による吸収率の差を考慮して安全係数 2 が追加された)

ARfD 0.13 mg/kg 体重

(ARfD 設定根拠資料) 発生毒性試験

(動物種) ラット

(期間) 妊娠 6～19 日

(投与方法) 強制経口

(無毒性量) 40 mg/kg 体重/日

(安全係数) 300

(経口摂取による吸収量の増大を考慮して安全係数 3 が追加された)

< 米国、2011 年 >

cRfD 0.04 mg/kg 体重/日

(cRfD 設定根拠資料) 慢性毒性試験

(動物種) イヌ

(期間) 1 年間

(投与方法)	カプセル経口
(無毒性量)	12 mg/kg 体重/日
(不確実係数)	100
(FQPA 安全係数 <sup>5</sup> )	3 (混餌投与及び強制経口投与による吸収率の差を考慮して安全係数 3 が追加された)
<b>aRfD (一般の集団)</b>	設定の必要なし
<b>aRfD (13~49 歳の女性)</b>	<b>0.33 mg/kg 体重</b>
(aRfD 設定根拠資料)	発生毒性試験
(動物種)	ウサギ
(期間)	妊娠 6~28 日
(投与方法)	強制経口
(無毒性量)	100 mg/kg 体重/日
(不確実係数)	100
(FQPA 安全係数)	3 (混餌投与及び強制経口投与による吸収率の差を考慮して安全係数 3 が追加された)

(参照 68~73)

---

<sup>5</sup> Food Quality Protection Act (米国食品品質保護法) による係数

表 29 各試験における無毒性量等

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量 (mg/kg 体重/日)	最小毒性量 (mg/kg 体重/日)	備考 <sup>1)</sup>
ラット	90日間 亜急性毒 性試験	雄：0、30、60、 300 雌：0、30、60、 300/200	雄：60 雌：60	雄：300 雌：300/200	雄：小葉中心性肝 細胞肥大等 雌：体重増加抑制、 摂餌量減少等
	90日間亜 急性神経 毒性試験	雄：0、12、36、 150、300 雌：0、12、36、 150	雄：36 雌：36	雄：150 雌：150	雄：臨床症状及び 死亡例 雌：体重減少、臨 床症状及び死亡例 等  (神経毒性は認め られない)
	2年間 慢性毒性 /発がん 性併合試 験	雄：0、30、60、 300 雌：0、30、60、 300/200	雄：30 雌：30	雄：60 雌：60	雄：小葉中心性肝 細胞肥大、肝細胞 好塩基性化 雌：Hb、Ht 及び RBC 減少等  (発がん性は認め られない)
	2世代 繁殖試験	0、12、30、75 (50)	親動物 雌雄：20 児動物 雌雄：20	親動物 雌雄：50 児動物 雌雄：50	親動物：全身状態 悪化、哺育(授乳) 行動低下 児動物：死産児数 増加、出生率低下、 喰殺数増加、死亡 動物数増加、生存 率減少
	発生毒性 試験	0、15、40、120	母動物：40 胎児：120	母動物：120 胎児：—	母動物：体重増加 抑制、摂餌量減少 胎児：毒性所見な し  (催奇形性は認め られない)
マウス	18か月間 発がん性 試験	0、100、250、 1,000	雄：250 雌：250	雄：1,000 雌：1,000	雌雄：脾臓褐色色 素増加等  (発がん性は認め られない)
ウサギ	発生毒性 試験	0、30、100、300	母動物：100 胎児：100	母動物：300 胎児：300	母動物：全身状態 の悪化、流産等 胎児：発育抑制等  (催奇形性は認め られない)

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量 (mg/kg 体重/日)	最小毒性量 (mg/kg 体重/日)	備考 <sup>1)</sup>
					られない)
イヌ	1年間 慢性毒性 試験	0、6、12、30、 60/40/30	雄：12 雌：12	雄：30 雌：30	雄：MCHC 減少、 低色素性赤血球増 加、T.Bil 増加等 雌：嘔吐、運動失 調、体重増加抑制、 体重及び摂餌量減 少等
ADI			NOAEL : 12 SF : 100 ADI : 0.12		
ADI 設定根拠資料			イヌ 1年間慢性毒性試験		

ADI : 一日摂取許容量、SF : 安全係数、NOAEL : 無毒性量

— : 最小毒性量は設定できなかった。

<sup>1)</sup> : 最小毒性量で認められた毒性所見を示した。

<別紙 1 : 代謝物/分解物略称>

記号	略称	化学名
C	M32 OI23	4-[5-ヒドロキシ-3-オキソ-4-[4-(トリフルオロメトキシ)フェニル]-6-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]-2,3,4,5-テトラヒドロ-1,2,4-トリアジン-5-イル]ベンゾニトリル
D	M32 OI04	<i>p</i> -[ <i>m</i> -(トリフルオロメチル)フェナシル]ベンゾニトリル
E	M32 OI05	<i>p</i> -(トリフルオロメトキシ)アニリン
F	M32 OI06	<i>p</i> -シアノ安息香酸
G	M32 OI07	2'-[2-(4-シアノフェニル)-2-ヒドロキシ-1-( $\alpha, \alpha, \alpha$ -トリフルオロ- <i>m</i> -トリル)エチリデン]-4-(トリフルオロメトキシ)カルバニロヒドラジド
H	M32 OI08	<i>N</i> [4-(トリフルオロメトキシ)フェニル]ヒドラジンカルボキサミド
I	M32 OI10	4-[2-( $\beta$ -D-グルコピランウロノシルオキシ)-2-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]エチル]ベンゾニトリル
J	M32 OI11	2 or 3-( $\beta$ -D-グルコピランウロノシルオキシ)-4- {2-ヒドロキシ-2-[3-(トリフルオロメチル)フェニル]エチル} ベンゾニトリル
K	M32 OI12	1- <i>O</i> [4-(2- {3-[ジフルオロ(チオ- $\gamma$ -グルタミルアラニニル)メチル]フェニル} -2-オキソエチル)ベンソイル]- $\beta$ -D-グルコピランウロン酸
L	M32 OI13	<i>N</i> (4-シアノベンソイル)グリシン
M	M32 OI14	5 or 2-アミノ-2 or 5-(トリフルオロメトキシ)フェニル]ヒドロゲンスルファート
N	M32 OI15	5 or 2-(ホルミルアミノ)-2 or 5-(トリフルオロメトキシ)フェニル ヒドロゲンスルファート
O	M32 OI16	3-オキソ-3-{[4-(トリフルオロメトキシ)フェニル]アミノ}プロピオン酸
P	M32 OI17	オキソ{[4-(トリフルオロメトキシ)フェニル]アミノ}酢酸
Q	M32 OI18	2- <i>O</i> (2-[(2-アミノ-2-カルボキシエチル)チオ](ジフルオロ)メトキシ)-4-ヒドロキシ-5-[(ヒドロキシメチル)アミノ]フェニル)- $\beta$ -D-グルコピランウロン酸
S	M32 OI20	2- <i>O</i> (2-[(2-アミノ-2-カルボキシエチル)チオ](ジフルオロ)メトキシ)-5-[(ヒドロキシメチル)アミノ]フェニル)- $\beta$ -D-グルコピランウロン酸
T	M32 OI21	2- <i>O</i> {2-[(2-[4-アミノ-4-カルボキシブタノイル]アミノ)-3-[(カルボキシメチル)アミノ]-3-オキソプロピル)スルファニル](ジフルオロ)メトキシ}-5-[(ヒドロキシメチル)アミノ]フェニル)- $\beta$ -D-グルコピランウロン酸
U		4-シアノベンズアルデヒド
V	M32 OI22	Metaflumizone hydroxylated at the 3-fluoromethoxyphenyl ring

W	M32 0I24	glucuronic acid conjugate of M3210I22
X	M32 0I25	4-{2-hydroxy-2-[3-(trifluoromethyl)phenyl]ethyl}benzotrile
Y	M32 0I26	2-amino-pentanedioic acid 1-[2-(4-cyano-phenyl)-1-(3-trifluoromethyl-phenyl)-ethyl]ester
Z	M32 0I27	metaflumizone hydroxylated at the 3-fluoromethylphenyl ring
AB	M32 0I28	<i>N</i> [4-(trifluoromethoxy) phenyl]acetamide

<別紙 2 : 検査値等略称>

略称	名称
ai	有効成分量 (active ingredient)
ALP	アルカリホスファターゼ
AST	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ (=グルタミン酸オキサロ酢酸トランスアミナーゼ)
AUC	薬物濃度曲線下面積
C <sub>max</sub>	最高濃度
CMC	カルボキシメチルセルロース
FOB	機能観察総合検査
Hb	ヘモグロビン (血色素量)
Ht	ヘマトクリット値
LC <sub>50</sub>	半数致死濃度
LD <sub>50</sub>	半数致死量
MCHC	平均赤血球血色素濃度
MCV	平均赤血球容積
PHI	最終使用から収穫までの日数
PLT	血小板数
RBC	赤血球数
T <sub>1/2</sub>	消失半減期
TAR	総投与 (処理) 放射能
T.Bil	総ビリルビン
T.Chol	総コレステロール
T <sub>max</sub>	最高濃度到達時間
TRR	総残留放射能

<別紙 3：作物残留試験成績>

作物名 (栽培形態) [分析部位] 実施年度	試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)															
					公的分析機関						社内分析機関									
					メタフルミゾン (E異性体)		メタフルミゾン (Z異性体)		代謝物 C		代謝物 D		メタフルミゾン (E異性体)		メタフルミゾン (Z異性体)		代謝物 C		代謝物 D	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
とうもろ こし(子実) (露地) [種子] H21、H22 年度	1	500 <sup>SC</sup>	3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02		
			3	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02		
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	
	1	500 <sup>SC</sup>	3	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	
			3	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	
だいず (露地) [乾燥子実] H21 年度	1	425~ 500 <sup>SC</sup>	3	1	0.04	0.04	0.07	0.07	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	0.04	0.04	0.05	0.05	<0.018	<0.018		
			3	3	0.06	0.06	0.11	0.10	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	0.05	0.04	0.07	0.06	<0.018	<0.018		
			3	7	<0.01	<0.01	0.02	0.02	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	0.02	0.02	<0.018	<0.018	<0.018	<0.018		
	1	500 <sup>SC</sup>	3	1	0.06	0.06	0.11	0.10	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	0.05	0.05	0.09	0.08	<0.018	<0.018		
			3	3	0.05	0.05	0.10	0.10	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	0.05	0.05	0.08	0.08	<0.018	<0.018		
			3	7	0.03	0.03	0.06	0.06	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	0.03	0.03	0.05	0.04	<0.018	<0.018		
			3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018		
1	120 <sup>G</sup>	3	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018			
		3	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018			



作物名 (栽培形態) [分析部位] 実施年度		試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)											
						公的分析機関						社内分析機関					
						メタフルミゾン (E異性体)		メタフルミゾン (Z異性体)		代謝物 C		代謝物 D		メタフルミゾン (E異性体)		メタフルミゾン (Z異性体)	
最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値		
[乾燥子実] H21 年度	1	3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	
		3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018	
		3	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018	
		3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018	
さといも (露地) [塊茎] H21 年度	1	3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018	
		3	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018		
		3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018	<0.018	
		3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018	<0.018	
かんしよ (露地) [塊根] H20 年度	1	3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018	
		3	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018		
		3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018	<0.018	
		3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018	
だいこん (露地) [葉] H20 年度	1	3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018	
		3	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018		
		3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018	<0.018	
		3	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018	
だいこん (露地) [葉] H20 年度	1	2	1*	10.4	10.2	13.2	13.1	1.40	1.35	9.22	9.18	9.68	9.64	1.26	1.21		
		2	3*	10.5	10.2	16.0	15.8	3.01	2.94	9.73	9.72	14.4	14.3	3.06	3.03		
		2	7	6.24	6.14	10.3	10.2	2.89	2.87	5.82	5.79	9.00	8.96	3.13	3.10		
		2	7	6.24	6.14	10.3	10.2	2.89	2.87	5.82	5.79	9.00	8.96	3.13	3.10		

作物名 (栽培形態) [分析部位] 実施年度		試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	公的分析機関						社内分析機関																											
						メタフルミゾン (E異性体)		メタフルミゾン (Z異性体)		代謝物 C		代謝物 D		メタフルミゾン (E異性体)		メタフルミゾン (Z異性体)		代謝物 C		代謝物 D																			
						最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値																
H19年度	1	2	12.7	12.0	16.7	16.0	1.58	1.52	10.6	10.6	16.5	16.5	1.33	1.33	10.6	10.6	16.5	16.5	1.33	1.33																			
																					2	8.97	8.93	14.9	14.9	3.13	3.08	7.78	7.78	12.7	12.6	2.17	2.14	7.78	7.78	12.7	12.6	2.17	2.14
だいこん (露地) [根] H19年度	1	2	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.088	<0.088	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.088	<0.088																			
																					2	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.088	<0.088	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.088	<0.088
だいこん (露地) [葉] H19年度	1	2	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.088	<0.088	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.088	<0.088																			
																					2	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.088	<0.088	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.088	<0.088
だいこん (露地) [葉] H19年度	1	2	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.088	<0.088	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.088	<0.088																			
																					2	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.088	<0.088	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.088	<0.088
だいこん (露地) [根] H19年度	1	2	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.088	<0.088	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.088	<0.088																			
																					2	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.088	<0.088	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.088	<0.088

作物名 (栽培形態) [分析部位] 実施年度		試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)											
						公的分析機関						社内分析機関					
						メタフルミゾン (E-異性体)		メタフルミゾン (Z-異性体)		代謝物 C		代謝物 D		メタフルミゾン (E-異性体)		メタフルミゾン (Z-異性体)	
最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値		
だいこん (つまみ菜) [莖葉] H21年度	1	120G	2	7		<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	
						<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018	<0.018	<0.018	<0.018	<0.018
だいこん (間引菜) [莖葉] H21年度	1	120G	2	14		<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018	<0.018	
						<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018	<0.018	<0.018
かぶ (施設) [根部] H28年度	1	480SC	2	3		0.06	0.06	0.06	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	<0.02	<0.02	<0.02	
						0.03	0.03	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
						0.06	0.06	0.06	0.04	0.04	0.04	0.04	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
	1	500SC	2	7		<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.02	
						<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
						<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
1	448SC	2	7		0.03	0.03	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	<0.02	<0.02	<0.02		
					0.02	0.02	0.02	0.03	0.03	0.03	0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	
					0.02	0.02	0.02	0.03	0.03	0.03	0.03	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
1	480SC	2	7		5.78	5.72	5.72	11.2	11.0	11.0	11.0	11.0	0.38	0.38	0.38		
					3.04	3.02	3.02	6.09	6.08	6.08	6.08	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	
					2.33	2.32	2.32	4.19	4.18	4.18	4.18	0.24	0.24	0.24	0.24	0.24	



作物名 (栽培形態) [分析部位] 実施年度		試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)															
						公的分析機関						社内分析機関									
						メタフルミゾン (E異性体)		メタフルミゾン (Z異性体)		代謝物 C		代謝物 D		メタフルミゾン (E異性体)		メタフルミゾン (Z異性体)		代謝物 C		代謝物 D	
最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値						
キヤベツ (露地) [葉球] H16年度	1	750~ 918 <sup>SC</sup>	3	1	1.15	1.14	1.75	1.74	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09	0.92	0.89	1.17	1.12	<0.05	<0.05	0.26	0.25	
			3	3	0.69	0.68	0.74	0.73	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09	0.51	0.48	0.65	0.59	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09	
			3	7	0.10	0.09	0.18	0.16	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09	0.13	0.12	0.09	0.08	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09	
		500 <sup>SC</sup>	3	14	0.10	0.10	0.14	0.14	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09
			3	1	0.44	0.42	0.77	0.74	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09	0.43	0.42	0.71	0.70	<0.05	<0.05	0.09	0.09	
			3	3	0.30	0.30	0.53	0.52	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09	0.41	0.40	0.71	0.68	<0.05	<0.05	0.30	0.28	
			3	7	0.08	0.08	0.11	0.11	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09	0.10	0.10	0.11	0.10	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09	
キヤベツ (露地) [葉球] H20年度	1	600 <sup>G*</sup>	3	14	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09	
			3	1	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.088	<0.088	
			3	3	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.088	<0.088	
		500 <sup>SC</sup>	3	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.088	<0.088	
			3	1	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.088	<0.088	
			3	3	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.088	<0.088	
			3	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.088	<0.088	
こまつな (露地) [茎葉] H21年度	1	500 <sup>SC</sup>	3	1	4.40	4.30	7.53	7.40	0.09	0.09	4.98	4.90	8.80	8.59	0.140	0.140	0.140	0.140	0.140		
			3	3	3.50	3.43	6.95	6.89	0.10	0.10	2.98	2.95	6.17	6.06	0.088	0.088	0.088	0.088			
			3	7	0.84	0.84	1.83	1.79	0.05	0.05	0.92	0.92	1.86	1.81	0.088	0.088	0.088	0.088			
		500 <sup>SC</sup>	3	14	0.20	0.20	0.46	0.45	0.02	0.02	0.11	0.11	0.24	0.24	<0.018	<0.018	<0.018	<0.018	<0.018	<0.018	
			3	1	13.0	12.6	11.8	11.5	0.33	0.32	9.78	9.61	9.38	9.24	0.210	0.210	0.210	0.210			

作物名 (栽培形態) [分析部位] 実施年度		試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)																
						公的分析機関						社内分析機関										
						メタフルミゾン (E異性体)		メタフルミゾン (Z異性体)		代謝物 C		代謝物 D		メタフルミゾン (E異性体)		メタフルミゾン (Z異性体)		代謝物 C		代謝物 D		
最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値							
みずな [茎葉] H21年度	1	500SC	3	3	1	11.6	11.4	16.7	16.4			0.52	0.52	7.58	7.32	11.5	11.3	0.333	0.315			
						7.08	6.98	11.1	11.0			0.44	0.42	8.11	7.96	12.3	12.0	0.333	0.315			
						3.11	3.10	5.31	5.30			0.21	0.20	4.43	4.32	7.16	6.96	0.333	0.315			
	1	375SC	3	7	14	6.97	6.90	9.34	9.24			0.175	0.175									
						5.19	5.16	8.58	8.04			0.140	0.140									
						4.96	4.70	8.66	8.54			0.280	0.280									
	1	425SC	3	14	3	1.10	1.07	2.22	2.16			0.070	0.070									
						14.2	14.2	16.1	16.0			0.158	0.158									
						5.45	5.16	7.86	7.51			0.158	0.140									
	チンゲン サイ (施設) [茎葉] H21年度	1	450SC	3	1	3	1.29	1.28	1.03	1.02			0.04	0.04	1.28	1.23	0.90	0.90	0.018	0.018		
							1.04	1.02	1.02	1.00			0.04	0.04	1.20	1.20	1.43	1.42	0.035	0.035		
							0.96	0.92	1.06	1.02			0.07	0.06	1.11	1.06	1.33	1.32	0.123	0.105		
1		425SC	3	14	3	0.32	0.32	0.38	0.36			0.02	0.02	0.44	0.41	0.50	0.48	0.053	0.053			
						1.62	1.58	1.91	1.86			0.04	0.04	1.39	1.36	1.50	1.50	0.035	0.035			
						0.79	0.78	1.71	1.68			0.05	0.05	0.71	0.70	1.65	1.62	0.053	0.053			

作物名 (栽培形態) [分析部位] 実施年度		試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)											
						公的分析機関						社内分析機関					
						メタフルミゾン (E異性体)		メタフルミゾン (Z異性体)		代謝物 C		代謝物 D		メタフルミゾン (E異性体)		メタフルミゾン (Z異性体)	
最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値		
ブロッコリー [花蕾] H19年度	1	750 <sup>SC</sup>		3	7	0.44	0.44	0.44	0.96	0.04	0.04	0.54	0.54	0.93	0.92	0.035	0.035
						0.12	0.12	0.24	0.23	<0.02	<0.02	0.17	0.17	0.25	0.25	<0.018	<0.018
						3.21	3.16	1.92	1.92	<0.09	<0.09	2.13	2.12	1.24	1.24	<0.088	<0.088
						1.29	1.28	1.05	1.02	<0.09	<0.09	1.71	1.71	1.57	1.54	<0.088	<0.088
						0.77	0.77	0.78	0.78	<0.09	<0.09	0.20	0.20	0.18	0.18	<0.088	<0.088
						1.79	1.76	1.66	1.64	<0.09	<0.09	0.34	0.34	0.40	0.40	<0.088	<0.088
						0.73	0.70	0.96	0.94	0.14	0.14	0.10	0.10	0.32	0.31	<0.088	<0.088
ブロッコリー [花蕾] H19年度	1	300 <sup>G*</sup>		2	7	0.65	0.64	0.78	0.78	0.14	0.13	0.24	0.24	0.27	0.27	<0.088	<0.088
						<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.088	<0.088
						<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.088	<0.088
						<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.088	<0.088
						<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.088	<0.088
						<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.088	<0.088
						<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.088	<0.088
レタス (施設) [茎葉] H21、H22 年度	1	750 <sup>SC</sup>		3	1	2.29	2.22	2.42	2.36	0.07	0.07	4.20	3.62	4.59	3.98	0.053	0.053
						1.65	1.62	1.81	1.80	0.10	0.10	0.50	0.50	0.73	0.72	<0.018	<0.018
						0.58	0.58	0.81	0.78	0.09	0.09	0.36	0.35	0.50	0.44	<0.018	<0.018
						1.75	1.71	1.33	1.32	<0.02	<0.02	1.82	1.76	1.24	1.15	0.018	0.018
						1.86	1.83	1.64	1.62	<0.02	<0.02	1.70	1.70	1.27	1.26	<0.018	<0.018
						1.18	1.16	1.52	1.52	<0.02	<0.02	1.30	1.28	1.23	1.22	<0.018	<0.018
										<0.02	<0.02	1.70	1.70	1.27	1.26	<0.018	<0.018

作物名 (栽培形態) [分析部位] 実施年度		試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)											
						公的分析機関						社内分析機関					
						メタフルミゾン (E異性体)		メタフルミゾン (Z異性体)		代謝物 C		代謝物 D		メタフルミゾン (E異性体)		メタフルミゾン (Z異性体)	
最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値		
レタス (施設) [茎葉] H21年度	1	120 <sup>G</sup>	3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018	
			3	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018	
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018	
	1	120 <sup>G</sup>	3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018	
			3	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018	
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018	
			3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018	
リーフレ タス (施設) [茎葉] H19年度	1	300 <sup>G*</sup>	2	1*	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09			
			2	3*	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09			
			2	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09			
	1	300 <sup>G*</sup>	2	1*	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09			
			2	3*	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09			
			2	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09			
			2	7	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09	<0.05	<0.05	<0.09	<0.09			
リーフレ タス (施設) [茎葉] H20、H23 年度	1	500 <sup>SC</sup>	2	1*	3.90	3.89	3.13	3.12	<0.088	<0.088	<0.088	<0.088	<0.088	<0.088	<0.088		
			2	3*	3.69	3.68	3.64	3.64	<0.088	<0.088	<0.088	<0.088	<0.088	<0.088			
			2	7	1.81	1.80	2.26	2.26	0.088	0.088	0.088	0.088	0.088	0.088			
	1	625 <sup>SC</sup>	2	1*	15.8	15.6	17.9	17.9	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21	
			2	3*	9.39	9.39	13.9	13.8	0.37	0.35	0.37	0.35	0.37	0.35	0.37	0.35	
			2	7	4.39	4.35	5.75	5.71	0.26	0.26	0.26	0.26	0.26	0.26	0.26	0.26	
			2	1	13.9	13.8	12.4	12.2	0.385	0.385	0.385	0.385	0.385	0.385	0.385		
1	500 <sup>SC</sup>	2	3	11.9	11.9	7.98	7.97	0.998	0.980	0.998	0.980	0.998	0.980	0.998	0.980		
		2	7	6.33	6.32	5.30	5.29	0.158	0.158	0.158	0.158	0.158	0.158	0.158			
		2	1	13.9	13.8	12.4	12.2	0.385	0.385	0.385	0.385	0.385	0.385	0.385			
		2	3	11.9	11.9	7.98	7.97	0.998	0.980	0.998	0.980	0.998	0.980	0.998	0.980		











作物名 (栽培形態) [分析部位] 実施年度		試験 ほ 場 数	使用量 (g ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)																									
						公的分析機関						社内分析機関																			
						メタフルミゾン (E <sup>+</sup> 異性体)		メタフルミゾン (Z <sup>-</sup> 異性体)		代謝物 C		代謝物 D		メタフルミゾン (E <sup>+</sup> 異性体)		メタフルミゾン (Z <sup>-</sup> 異性体)		代謝物 C		代謝物 D											
ミニトマ ト (施設) [果実] H22年度	1	625 <sup>SC</sup>	3	1	3	最高値	0.91	0.88	0.88	0.60	0.87	0.77	0.42	0.68	1.15	1.12	0.94	0.98	0.99	0.91	0.04	0.04	1.31	1.26	1.43	1.40	0.07	0.07			
						平均値	0.88	0.86	0.60	0.87	0.77	0.42	0.68	1.15	1.12	0.94	0.98	0.99	0.91	0.04	0.04	1.31	1.26	1.43	1.40	0.07	0.07	1.19	1.16	0.12	0.11
						最高値	0.60	0.60	1.06	0.83	0.83	0.89	0.68	1.15	1.11	1.06	1.06	1.06	0.68	0.68	0.68	0.70	0.69	1.10	1.09	0.09	0.09	1.10	1.09	0.09	0.07
						平均値	0.87	0.87	1.06	0.83	0.83	0.89	0.68	1.15	1.11	1.06	1.06	1.06	0.68	0.68	0.68	0.70	0.69	1.10	1.09	0.09	0.09	1.10	1.09	0.09	0.07
						最高値	0.80	0.77	0.91	0.89	0.91	0.89	0.68	1.15	1.11	0.89	0.89	0.89	0.68	0.68	0.68	0.72	0.68	0.71	0.66	0.05	0.05	0.71	0.66	0.05	0.05
						平均値	0.43	0.42	0.68	0.68	0.68	0.68	0.68	1.12	1.12	0.68	0.68	0.68	0.68	0.68	0.68	0.62	0.60	0.72	0.71	0.05	0.05	0.72	0.71	0.05	0.05
						最高値	0.71	0.68	1.15	1.12	1.12	1.12	1.12	1.12	1.12	1.12	1.12	1.12	1.12	1.12	1.12	1.13	1.10	1.76	1.66	<0.02	<0.02	1.76	1.66	<0.02	<0.02
						平均値	0.57	0.54	1.15	1.11	1.11	1.11	1.11	1.11	1.11	1.11	1.11	1.11	1.11	1.11	1.11	0.70	0.68	1.35	1.28	<0.02	<0.02	1.35	1.28	<0.02	<0.02
						最高値	0.34	0.33	0.76	0.74	0.74	0.74	0.74	0.74	0.74	0.74	0.74	0.74	0.74	0.74	0.22	0.21	0.45	0.42	<0.02	<0.02	0.45	0.42	<0.02	<0.02	
						平均値	1.09	1.07	1.21	1.20	1.20	1.20	1.20	1.20	1.20	1.20	1.20	1.20	1.20	1.20	1.47	1.45	1.39	1.38	<0.02	<0.02	1.47	1.45	<0.02	<0.02	
						最高値	0.74	0.72	1.17	1.12	1.12	1.12	1.12	1.12	1.12	1.12	1.12	1.12	1.12	1.12	0.98	0.98	1.43	1.38	<0.02	<0.02	0.98	0.98	<0.02	<0.02	
						平均値	0.52	0.52	0.91	0.89	0.89	0.89	0.89	0.89	0.89	0.89	0.89	0.89	0.89	0.89	0.75	0.72	1.32	1.24	<0.02	<0.02	0.75	0.72	<0.02	<0.02	
最高値	0.26	0.26	0.28	0.28	0.28	0.28	0.28	0.28	0.28	0.28	0.28	0.28	0.28	0.28	0.25	0.24	0.28	0.26	<0.02	<0.02	0.25	0.24	<0.02	<0.02							
平均値	0.12	0.11	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.38	0.38	0.40	0.38	<0.02	<0.02	0.38	0.38	<0.02	<0.02							
最高値	0.03	0.02	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06	0.07	0.06	0.10	0.09	<0.02	<0.02	0.07	0.06	<0.02	<0.02							
平均値	0.42	0.42	0.27	0.26	0.26	0.26	0.26	0.26	0.26	0.26	0.26	0.26	0.26	0.26	0.86	0.81	0.42	0.39	<0.02	<0.02	0.86	0.81	<0.02	<0.02							
最高値	0.17	0.16	0.18	0.18	0.18	0.18	0.18	0.18	0.18	0.18	0.18	0.18	0.18	0.18	0.43	0.42	0.28	0.28	<0.02	<0.02	0.43	0.42	<0.02	<0.02							
平均値	0.05	0.05	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.11	0.10	0.12	0.11	<0.02	<0.02	0.11	0.10	<0.02	<0.02							

作物名 (栽培形態) [分析部位] 実施年度		試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)																								
						公的分析機関						社内分析機関																		
						メタフルミゾン (E異性体)		メタフルミゾン (Z異性体)		代謝物 C		代謝物 D		メタフルミゾン (E異性体)		メタフルミゾン (Z異性体)		代謝物 C		代謝物 D										
最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値															
ほうれん そう (施設) [茎葉] H21年度	1	500 <sup>SC</sup>		3	1*	19.0	18.6	33.4	32.4								0.77	0.77	18.4	17.2	34.1	31.5							0.578	0.543
						11.5	11.1	27.6	26.4								0.93	0.92	12.7	12.2	24.4	23.8							0.858	0.840
						6.73	6.72	17.4	17.2								0.84	0.82	6.9	6.82	15.0	14.2							0.613	0.595
						2.16	2.12	5.17	5.08								0.33	0.32	2.46	2.41	5.72	5.28							0.298	0.280
						11.2	10.8	14.9	14.4								0.24	0.24	9.56	9.42	12.4	12.1							0.175	0.175
						7.72	7.42	14.8	14.2								0.46	0.45	9.50	8.90	14.8	14.5							0.193	0.193
						7.89	7.87	16.4	16.4								0.89	0.88	5.38	5.28	12.0	11.6							0.595	0.595
						3.46	3.42	6.93	6.79								0.32	0.31	4.28	4.14	9.88	9.78							0.595	0.595
						<0.01	<0.01	<0.01	<0.01								<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01							<0.018	<0.018
						<0.01	<0.01	<0.01	<0.01								<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01							<0.018	<0.018
						<0.01	<0.01	<0.01	<0.01								<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01							<0.018	<0.018
						<0.01	<0.01	<0.01	<0.01								<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01							<0.018	<0.018
						<0.01	<0.01	<0.01	<0.01								<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01							<0.018	<0.018
						2.30	2.22	3.00	2.94								0.09	0.08	2.54	2.14	3.02	2.70							0.070	0.070
1.27	1.20	2.32	2.23	0.09	0.08	1.36	1.18	2.43	2.04	0.088	0.070																			
0.48	0.48	0.94	0.93	0.04	0.04	1.06	1.04	1.43	1.40	0.035	0.035																			
0.39	0.38	0.88	0.86	0.04	0.04	0.67	0.67	1.23	1.22	0.035	0.035																			
1.31	1.30	1.94	1.94	0.02	0.02	1.64	1.61	2.48	2.45	0.018	0.018																			
0.99	0.99	1.62	1.61	0.02	0.02	0.95	0.95	1.84	1.82	0.018	0.018																			

作物名 (栽培形態) [分析部位] 実施年度		試験 ほ 場 数	使用量 (g ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)																			
						公的分析機関						社内分析機関													
						メタフルミゾン (E-異性体)		メタフルミゾン (Z-異性体)		代謝物 C		代謝物 D		メタフルミゾン (E-異性体)		メタフルミゾン (Z-異性体)		代謝物 C		代謝物 D					
最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値								
えだまめ [さや] H21 年度	1	120g		3	7	0.96	0.92	1.70	1.68			0.02	0.02	0.74	0.72	1.66	1.62	0.018	0.018						
						0.64	0.62	1.13	1.12			<0.02	<0.02	0.55	0.54	0.96	0.95	<0.018	<0.018	<0.018	<0.018				
						<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018	<0.018	<0.018			
						<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018	<0.018	<0.018			
						<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018	<0.018	<0.018			
						<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018	<0.018	<0.018			
						<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018	<0.018	<0.018			
						<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018	<0.018	<0.018			
						<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018	<0.018	<0.018			
						<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018	<0.018	<0.018			
						<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018	<0.018	<0.018			
						<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			<0.02	<0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.018	<0.018	<0.018	<0.018			
						温州みか ん (施設) [果肉] H26 年度	1	1,440 <sup>SC</sup>		3	7	0.05	0.05	0.08	0.08			<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.018	<0.018
												0.04	0.04	0.07	0.07			<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.018	<0.018
0.04	0.04	0.07	0.07									<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.018	<0.018	<0.018	<0.018			
0.03	0.03	0.04	0.04									<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.018	<0.018	<0.018	<0.018			
0.02	0.02	0.03	0.03									<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.018	<0.018	<0.018	<0.018			
0.03	0.02	0.04	0.04									<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.018	<0.018	<0.018	<0.018			
0.06	0.06	0.05	0.05									<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.018	<0.018	<0.018	<0.018			
0.07	0.06	0.07	0.07									<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.018	<0.018	<0.018	<0.018			
0.02	0.02	0.04	0.04									<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.018	<0.018	<0.018	<0.018			
0.02	0.02	0.04	0.04									<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.018	<0.018	<0.018	<0.018			
0.06	0.06	0.05	0.05									<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.018	<0.018	<0.018	<0.018			
0.07	0.06	0.07	0.07									<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.018	<0.018	<0.018	<0.018			
0.02	0.02	0.04	0.04									<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.018	<0.018	<0.018	<0.018			
0.02	0.02	0.04	0.04									<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.018	<0.018	<0.018	<0.018			





作物名 (栽培形態) [分析部位] 実施年度		試験 ほ 場 数	使用量 (g ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	公的分析機関						社内分析機関										
						メタフルミゾン (E異性体)		メタフルミゾン (Z異性体)		代謝物 C		代謝物 D		メタフルミゾン (E異性体)		メタフルミゾン (Z異性体)		代謝物 C		代謝物 D		
						最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	
温州みかん (施設) [果肉] H28年度	1	1,880 <sup>SC</sup>	3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01				
						<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01		
						<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	
温州みかん (施設) [果皮] H26年度	1	1,440 <sup>SC</sup>	3	7	4.12	4.00	7.50	7.13							0.24	0.24	0.24	0.24				
						3.10	6.67	6.46						0.30	0.28	0.30	0.28					
						2.96	5.95	5.92						0.42	0.42	0.42	0.42					
						4.81	6.37	6.26						0.21	0.21	0.21	0.21					
						4.56	6.40	6.28						0.30	0.28	0.30	0.28					
						4.51	7.04	7.03						0.32	0.32	0.32	0.32					
						6.29	6.39	6.37						0.24	0.24	0.24	0.24					
						4.66	6.14	5.94						0.23	0.23	0.23	0.23					
						4.13	6.11	6.09						0.32	0.32	0.32	0.32					
						5.56	9.50	9.30						1.28	1.26	1.28	1.26					
						3.89	7.09	6.98						1.36	1.30	1.36	1.30					
						3.16	3.11	5.56						1.19	1.17	1.19	1.17					
温州みかん	1	1,440 <sup>SC</sup>	3	7	3.71	3.68	6.41	6.12						0.40	0.40	0.40	0.40					
						2.37	3.96	3.96					0.35	0.35	0.35	0.35						



作物名 (栽培形態) [分析部位] 実施年度		試験 ほ 場 数	使用量 (g ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)																
						公的分析機関				社内分析機関												
						メタフルミゾン (E-異性体)		メタフルミゾン (Z-異性体)		メタフルミゾン (E-異性体)		メタフルミゾン (Z-異性体)		代謝物 C		代謝物 D						
最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値									
(施設) [果皮] H28 年度	1	2,230 <sup>SC</sup>	3	7		<0.01	<0.01	0.01	0.01			<0.02	<0.02									
						0.88	0.70	0.69	0.74	0.68	0.74	1.20	0.95	0.83	1.10	0.78	0.67	0.72	0.51	0.54	1.23	0.96
温州みかん (施設) [果実全 体、計算 値] H26 年度	1	1,440 <sup>SC</sup>	3	7																		
						0.88	0.70	0.69	0.74	0.68	0.74	1.20	0.95	0.83	1.10	0.78	0.67	0.72	0.51	0.54	1.23	0.96
						1.55	1.46	1.37	0.97	0.95	1.16	1.24	1.26	1.25	1.89	1.41	1.19	1.18	0.86	0.98	1.86	1.59
						0.07	0.08	0.11	0.05	0.06	0.07	0.06	0.06	0.08	0.27	0.28	0.26	0.09	0.09	0.12	0.22	0.25
						0.07	0.08	0.11	0.05	0.06	0.07	0.06	0.06	0.08	0.27	0.28	0.26	0.09	0.09	0.12	0.22	0.25
						0.07	0.08	0.11	0.05	0.06	0.07	0.06	0.06	0.08	0.27	0.28	0.26	0.09	0.09	0.12	0.22	0.25
						0.07	0.08	0.11	0.05	0.06	0.07	0.06	0.06	0.08	0.27	0.28	0.26	0.09	0.09	0.12	0.22	0.25
						0.07	0.08	0.11	0.05	0.06	0.07	0.06	0.06	0.08	0.27	0.28	0.26	0.09	0.09	0.12	0.22	0.25
						0.07	0.08	0.11	0.05	0.06	0.07	0.06	0.06	0.08	0.27	0.28	0.26	0.09	0.09	0.12	0.22	0.25
						0.07	0.08	0.11	0.05	0.06	0.07	0.06	0.06	0.08	0.27	0.28	0.26	0.09	0.09	0.12	0.22	0.25
温州みかん (露地) [果実全 体、計算 値]	1	1,650 <sup>SC</sup>	3	7																		
						0.88	0.70	0.69	0.74	0.68	0.74	1.20	0.95	0.83	1.10	0.78	0.67	0.72	0.51	0.54	1.23	0.96
						1.55	1.46	1.37	0.97	0.95	1.16	1.24	1.26	1.25	1.89	1.41	1.19	1.18	0.86	0.98	1.86	1.59
						0.07	0.08	0.11	0.05	0.06	0.07	0.06	0.06	0.08	0.27	0.28	0.26	0.09	0.09	0.12	0.22	0.25



作物名 (栽培形態) [分析部位] 実施年度		試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)															
						公的分析機関						社内分析機関									
						メタフルミゾン (E-異性体)		メタフルミゾン (Z-異性体)		代謝物 C		代謝物 D		メタフルミゾン (E-異性体)		メタフルミゾン (Z-異性体)		代謝物 C		代謝物 D	
						最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
かぼす (露地) [果実全 体] H26 年度	1	1,400 <sup>SC</sup>	3	7	3	0.83	0.82	1.33	1.31	/	/	/	/	/	/	/	/				
						0.53	0.50	0.99	0.94												
						0.33	0.33	0.64	0.64												
かぼす (露地) [果実全 体] H27 年度	1	2,000 <sup>SC</sup>	3	7	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/	/				
						<0.01	<0.01	<0.01	<0.01												
						<0.01	<0.01	<0.01	<0.01												
すだち (露地) [果実全 体] H26 年度	1	1,250 <sup>SC</sup>	3	7	3	0.73	0.72	1.00	1.00	/	/	/	/	/	/	/	/				
						0.36	0.36	0.61	0.61												
						0.26	0.26	0.37	0.37												
すだち (露地) [果実全 体] H27 年度	1	2,090 <sup>SC</sup>	3	7	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/	/				
						<0.01	<0.01	<0.01	<0.01												
						<0.01	<0.01	<0.01	<0.01												
うめ (露地)	1	833 <sup>SC</sup>	3	1	3	1.07	1.02	1.52	1.48	/	/	/	/	/	/	/	/				
						0.76	0.74	1.16	1.13												
						0.18	0.18	0.10	0.10												

作物名 (栽培形態) [分析部位] 実施年度		試験 ほ 場 数	使用量 (g ai/ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)																																																																																																																																			
						公的分析機関						社内分析機関																																																																																																																													
						メタフルミゾン (E-異性体)		メタフルミゾン (Z-異性体)		代謝物 C		代謝物 D		メタフルミゾン (E-異性体)		メタフルミゾン (Z-異性体)		代謝物 C		代謝物 D																																																																																																																					
最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値																																																																																																																										
[果実] H23 年度	1	1,000 <sup>SC</sup>	3	7	0.52	0.52	0.98	0.96	0.52	0.52	0.98	0.96	0.09	0.09	0.09	0.09																																																																																																																									
																	3	21	0.14	0.14	0.28	0.28	0.28	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02																																																																																																												
																														3	1	1.98	1.96	1.49	1.49	1.49	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04																																																																																																
																																										3	3	1.25	1.22	1.59	1.54	1.54	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05																																																																																				
																																																						3	7	0.91	0.88	1.36	1.32	1.32	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04																																																																								
																																																																		3	21	0.62	0.60	1.08	1.07	1.07	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05																																																												
																																																																														3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02																																																
																																																																																										3	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02																																				
																																																																																																						3	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02																								
																																																																																																																		3	1	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02												
																																																																																																																														3	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02
3	1	0.05	0.05	0.02	0.02	0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02																																																																																																																														
												3	3	0.02	0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02																																																																																																																		
																								3	7	0.03	0.03	0.02	0.02	0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02																																																																																																						
																																				3	1	0.04	0.04	0.02	0.02	0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02																																																																																										
																																																3	3	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02																																																																														
																																																												3	7	0.03	0.03	0.02	0.02	0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02																																																																		
																																																																								3	1	0.05	0.05	0.02	0.02	0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02																																																						

作物名 (栽培形態) [分析部位] 実施年度	試験 ほ場 数	使用量 (g ai/ha)	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)															
					公的分析機関					社内分析機関										
					メタフルミゾン (E-異性体)		メタフルミゾン (Z-異性体)		代謝物 C		代謝物 D		メタフルミゾン (E-異性体)		メタフルミゾン (Z-異性体)		代謝物 C		代謝物 D	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
キウイフ ルーツ (露地) [果実] H27年度	1	875 <sup>SC</sup>	3	3	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	<0.02	<0.02		
						3.35	3.32	1.41	1.40	0.07	0.07	0.05	0.05	0.07	0.07	0.14	0.14	0.16	0.16	
						2.66	2.65	1.34	1.32	0.07	0.07	0.14	0.14	0.16	0.16	0.18	0.18	0.10	0.10	0.12
	1	900 <sup>SC</sup>	3	7	3.12	3.10	3.10	2.24	2.20	1.51	1.62	1.62	1.62	1.62	1.62	1.62	0.16	0.16		
						3.69	3.53	1.56	1.51	0.10	0.10	0.12	0.12	0.16	0.16	0.16	0.16	0.16	0.16	
						2.82	2.80	1.65	1.62	0.10	0.10	0.12	0.12	0.16	0.16	0.16	0.16	0.16	0.16	0.16
	1	833 <sup>SC</sup>	3	7	2.98	2.92	2.92	1.91	1.85	1.85	1.85	1.85	1.85	1.85	1.85	1.85	0.16	0.16		
						2.98	2.92	1.91	1.85	0.16	0.16	0.16	0.16	0.16	0.16	0.16	0.16	0.16	0.16	
						2.98	2.92	1.91	1.85	0.16	0.16	0.16	0.16	0.16	0.16	0.16	0.16	0.16	0.16	0.16

SC:フロアブル剤、G: 粒剤

- ・ 農薬の使用量又は使用時期 (PHI) が、登録又は申請された使用方法から逸脱している場合は、使用量又は PHI に\*を付した。
- ・ 全てのデータが定量限界未満の場合は定量限界値に<を付して記載した。
- /: 測定せず

<別紙 4 : 後作物残留試験>

作物名 (栽培形態) 分析部位 実施年	試験 ほ場数	使用量 (g ai/ ha)	回 数 (回)	PHI (日)	残留値 (mg/kg)							
					メタフルミゾン <i>E</i> 異性体		メタフルミゾン <i>Z</i> 異性体		代謝物 C		代謝物 D	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値
レタス (露地) 茎葉 2003年	1	750	3	76	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
だいこん (露地) 葉部 2003年	1	750	3	111	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
だいこん (露地) 根部 2003年	1	750	3	111	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

注) ・ 散布には25%フロアブル剤を使用した。

・ 全てのデータが定量限界未満の場合は定量限界値の平均に<を付して記載した。



<別紙5：畜産物残留試験成績（泌乳牛）>

乳汁及び組織中の残留値（ $\mu\text{g/g}$ ）

試料	投与群 (mg/kg 飼料相当)	試料数	残留値（ $\mu\text{g/g}$ ） <sup>a</sup>			
			最小値	最大値	中央値	平均値±標準偏差
乳汁	0.2	45	<0.01	<0.01	0.005	0.005
	1.0	45	<0.01	<0.01	0.005	0.005
	5.5	45	<0.01	0.0286	0.005	0.0112±0.007
	16.5(Ea)	45	<0.01	0.0695	0.0439	0.0418±0.017
	16.5(Eb)	3	<0.01	0.0832	0.0430	0.0436±0.021
無脂肪乳	0.2	3	<0.01	<0.01	0.005	0.005
	1.0	3	<0.01	<0.01	0.005	0.005
	5.5	3	<0.01	<0.01	0.005	0.005
	16.5(Ea)	3	<0.01	<0.01	0.005	0.005
	16.5(Eb)	3	<0.01	<0.01	0.005	0.005
クリーム	0.2	3	<0.01	<0.01	0.005	0.005
	1.0	3	0.04	0.0519	0.0473	0.0487±0.003
	5.5	3	0.103	0.242	0.117	0.154±0.077
	16.5(Ea)	3	0.630	0.669	0.637	0.645±0.021
	16.5(Eb)	3	0.638	0.883	0.678	0.733±0.131
肝臓	0.2	3	<0.02	<0.02	0.01	0.01
	1.0	3	<0.02	<0.02	0.01	0.01
	5.5	3	<0.02	<0.02	0.01	0.01
	16.5(Ea)	3	0.0255	0.0586	0.0409	0.0417±0.017
	16.5(Eb)	3	<0.02	<0.02	0.01	0.01
肝臓 <sup>b</sup>	0.2	3	<0.115	<0.115	0.058	0.058
	1.0	3	<0.115	<0.115	0.058	0.058
	5.5	3	<0.115	0.141	0.086	0.058±0.048
	16.5(Ea)	3	0.300	0.308	0.212	0.300±0.157
	16.5(Eb)	3	<0.115	0.159	0.092	0.058±0.058
腎臓	0.2	3	<0.02	<0.02	0.01	0.01
	1.0	3	<0.02	<0.02	0.01	0.01
	5.5	3	<0.02	<0.02	0.01	0.01
	16.5(Ea)	3	0.0326	0.0531	0.0416	0.0424±0.010
	16.5(Eb)	3	<0.02	<0.02	0.01	0.01
筋肉	0.2	3	<0.02	<0.02	0.01	0.01
	1.0	3	<0.02	<0.02	0.01	0.01
	5.5	3	<0.02	<0.02	0.01	0.01
	16.5(Ea)	3	<0.02	0.0625	0.0508	0.0411±0.028
	16.5(Eb)	3	<0.02	<0.02	0.01	0.01
脂肪	0.2	3	<0.02	<0.02	0.01	0.01
	1.0	3	<0.02	0.0429	0.0191	0.024±0.017
	5.5	3	0.115	0.182	0.163	0.153±0.034
	16.5(Ea)	3	0.386	0.864	0.447	0.566±0.260
	16.5(Eb)	3	0.0900	0.332	0.126	0.183±0.131

注)：最小値及び最大値の算出において、定量限界未満の場合は定量限界値（0.010：乳汁、無脂肪乳及びクリーム、0.020：組織）に<を付して記載した。中央値、平均及び標準偏差の算出において、定量限界未満の場合は定量限界の1/2の値を用いた。

a：E<sup>-</sup>異性体+Z<sup>-</sup>異性体、b：抽出残渣中の代謝物 AB（メタフルミゾン換算値）

<別紙 6 : 畜産物残留試験成績 (産卵鶏) >

卵及び組織中の残留値 (µg/g)

試料	投与群 (mg/kg 飼料相当)	試料数	残留値 (µg/g) <sup>a</sup>			
			最小値	最大値	中央値	平均値±標準偏差
卵	0.1	67	<0.01	0.061	0.035	0.031±0.014
	0.3	68	<0.01	0.295	0.091	0.094±0.055
	1.0	136	0.01	0.909	0.316	0.320±0.195
筋肉	0.1	4	<0.02	0.021	0.01	0.012±0.006
	0.3	4	0.021	0.031	0.025	0.026±0.004
	1.0	4	0.040	0.057	0.048	0.048±0.007
肝臓	0.1	4	0.029	0.033	0.031	0.031±0.002
	0.3	4	0.081	0.114	0.092	0.095±0.014
	1.0	4	0.161	0.298	0.240	0.235±0.059
脂肪	0.1	4	0.297	0.338	0.315	0.316±0.019
	0.3	4	0.921	1.25	1.05	1.07±0.134
	1.0	4	2.65	3.49	3.07	3.07±0.437

注) : 最小値及び最大値の算出において、定量限界未満の場合は定量限界値 (0.01 : 卵、0.02 : 組織) に<を付して記載した。中央値、平均及び標準偏差の算出において、定量限界未満の場合は定量限界の 1/2 の値を用いた。

<sup>a</sup> : **E**異性体+**Z**異性体

<別紙 7 : 推定摂取量>

食品名	残留値 (mg/kg)	国民平均 (体重 : 55.1kg)		小児(1~6歳) (体重 : 16.5kg)		妊婦 (体重 : 58.5kg)		高齢者(65歳以上) (体重 : 56.1kg)	
		ff (g/人/日)	摂取量 (μg/人/日)	ff (g/人/日)	摂取量 (μg/人/日)	ff (g/人/日)	摂取量 (μg/人/日)	ff (g/人/日)	摂取量 (μg/人/日)
大豆	0.16	39.0	6.24	20.4	3.26	31.3	5.01	46.1	7.38
だいこん(葉)	21.1	1.7	35.9	0.6	12.7	3.1	65.4	2.8	59.1
かぶ(根)	0.12	2.8	0.34	0.8	0.10	0.1	0.01	5.0	0.60
かぶ(葉)	21.7	0.3	6.51	0.1	2.17	0.1	2.17	0.6	13.0
はくさい	5.6	17.7	99.1	5.1	28.6	16.6	93.0	21.6	121
キャベツ	2.88	24.1	69.4	11.6	33.4	19.0	54.7	23.8	68.5
こまつな	28.3	5.0	142	1.8	50.9	6.4	181	6.4	181
みずな	30.4	2.2	66.9	0.4	12.2	1.4	42.6	2.7	82.1
チンゲンサイ	3.48	1.8	6.26	0.7	2.44	1.8	6.26	1.9	6.61
ブロッコリー	5.08	5.2	26.4	3.3	16.8	5.5	27.9	5.7	29.0
レタス	35.1	9.6	337	4.4	154	11.4	400	9.2	323
ねぎ	3.6	9.4	33.8	3.7	13.3	6.8	24.5	10.7	38.5
アスパラガス	0.20	1.7	0.34	0.7	0.14	1.0	0.20	2.5	0.50
にんじん	0.07	18.8	1.32	14.1	0.99	22.5	1.58	18.7	1.31
トマト	2.73	32.1	87.6	19.0	51.9	32.0	87.4	36.6	99.9
ピーマン	2.83	4.8	13.6	2.2	6.23	7.6	21.5	4.9	13.9
なす	1.20	12.0	14.4	2.1	2.52	10.0	12.0	17.1	20.5
ほうれんそう	14.5	12.8	186	5.9	85.6	14.2	206	17.4	252
しょうが	0.04	1.5	0.06	0.3	0.01	1.1	0.04	1.7	0.07
えだまめ	5.24	1.7	8.91	1.0	5.24	0.6	3.14	2.7	14.2
みかん	0.15	17.8	2.67	16.4	2.46	0.6	0.09	26.2	3.93
なつみかんの 果実全体	2.31	1.3	3.00	0.7	1.62	4.8	11.1	2.1	4.85
その他のかん きつ類果実	2.25	5.9	13.3	2.7	6.08	2.5	5.63	9.5	21.4
うめ	3.49	1.4	4.89	0.3	1.05	0.6	2.09	1.8	6.28
キウイ	0.09	2.2	0.20	1.4	0.13	2.3	0.21	2.9	0.26
その他のスパ イス	18.5	0.1	1.85	0.1	1.85	0.1	1.85	0.2	3.70
牛・筋肉と脂肪	0.864	15.3	13.2	9.7	8.38	20.9	18.1	9.9	8.55
牛・肝臓	0.0586	0.1	0.01	0.0	0.00	1.4	0.08	0.0	0.00
その他陸棲哺乳	0.864	0.4	0.35	0.1	0.09	0.4	0.35	0.4	0.35

乳類・筋肉と脂肪と肝臓と腎臓と食用部分									
鶏・筋肉と脂肪	3.49	18.7	65.3	13.6	47.5	19.8	69.1	13.9	48.5
鶏・肝臓	0.298	0.7	0.21	0.5	0.15	0.0	0.00	0.8	0.24
その他家き ん・筋肉と脂肪 と肝臓と腎臓 と食用部分	3.49	0.1	0.35	0.0	0.00	0.0	0.00	0.1	0.35
乳	0.0832	264	22.0	332.0	27.6	365.0	30.4	216.0	18.0
鶏卵	0.909	41.3	37.5	32.8	29.8	47.8	43.5	37.7	34.3
その他の家き んの卵	0.909	0.3	0.27	0.4	0.36	0.3	0.27	0.3	0.27
魚介類	1.11	93.1	103	39.6	44.0	53.2	59.1	115.0	128
合計			1,410		654		1,480		1,610

- ・作物残留値は、登録又は申請されている使用時期・回数メタフルミゾンの **E** 及び **Z** 異性体並びに代謝物 **D** の平均含量の最大のものを用いた。なお、当該平均含量の計算に当たって、作物残留試験成績における残留値の一部が定量限界未満である場合は、定量限界値を検出したものとした。
- ・「ff」：平成 17～19 年の食品摂取頻度・摂取量調査（参照 54）の結果に基づく農畜水産物摂取量（g/人/日）
- ・「摂取量」：農産物については残留値及び農産物摂取量から求めたメタフルミゾンの **E** 及び **Z** 異性体並びに代謝物 **D** の推定摂取量（ $\mu\text{g}/\text{人}/\text{日}$ ）、畜産物及び魚介類については残留値及び畜水産物摂取量から求めたメタフルミゾンの **E** 及び **Z** 異性体の推定摂取量（ $\mu\text{g}/\text{人}/\text{日}$ ）
- ・魚介類の残留値にはメタフルミゾンの最大推定残留値を用いた。
- ・とうもろこし、さといも、かんしょ、だいこん（根）、ごぼう及びいちごについては、全データが定量限界未満であったため摂取量の計算に用いなかった。
- ・『レタス』については、サラダ菜の値を用いた。
- ・『その他のかんきつ類果実』については、かぼす及びすだちのうち残留値の高いかぼすの値を用いた。
- ・『その他のスパイス』については、温州みかん（果皮）の値を用いた。
- ・『その他陸棲哺乳類・筋肉と脂肪と肝臓と腎臓と食用部分』については、泌乳牛の肝臓、腎臓、筋肉及び脂肪のうち、残留値の高い脂肪の値を用いた。
- ・『その他家きん・筋肉と脂肪と肝臓と腎臓と食用部分』については、産卵鶏の筋肉、肝臓及び脂肪のうち、残留値の高い脂肪の値を用いた。

<参照>

- 1 農薬抄録メタフルミゾン（殺虫剤）（平成 19 年 10 月 25 日改訂）：日本農薬株式会社、2007 年、一部公表
- 2 ラットにおける吸収、分布、代謝、排泄試験（GLP 対応）：BASF（米国）、2002 年、未公表
- 3 キャベツにおける代謝試験（GLP 対応）：BASF（独国）、2004 年、未公表
- 4 トマトにおける代謝試験（GLP 対応）：BASF（独国）、2002 年、未公表
- 5 ワタにおける代謝試験（GLP 対応）：BASF（米国）、2002 年、未公表
- 6 好氣的土壌代謝試験（GLP 対応）：BASF（米国）、2002 年、未公表
- 7 土壌吸着性試験（GLP 対応）：日本農薬株式会社、2004 年、未公表
- 8 加水分解試験/加水分解運命試験（GLP 対応）：BASF（米国）、2004 年、未公表
- 9 水中光分解試験/水中光分解運命試験（GLP 対応）：日本農薬株式会社、2004 年、未公表
- 10 土壌残留試験結果：日本農薬株式会社、2002 年、未公表
- 11 作物残留試験結果：日本農薬株式会社、2006 年、未公表
- 12 後作物残留試験結果：日本農薬株式会社、2005 年、未公表
- 13 生体機能への影響に関する試験（GLP 対応）：環境バイリス研究所、2002 年、未公表
- 14 ラットにおける急性経口毒性試験（GLP 対応）：BASF（米国）、2001 年、未公表
- 15 ラットにおける急性経皮毒性試験（GLP 対応）：BASF（米国）、2001 年、未公表
- 16 ラットにおける急性吸入毒性試験（GLP 対応）：BASF（独国）、2002 年、未公表
- 17 Z異性体のラットにおける急性経口毒性試験（GLP 対応）：BASF（独国）、2002 年、未公表
- 18 代謝物 M320123(C)のラットにおける急性経口毒性試験（GLP 対応）：BASF（独国）、2003 年、未公表
- 19 ウサギを用いた皮膚刺激性試験（GLP 対応）：BASF（米国）、2001 年、未公表
- 20 ウサギを用いた眼刺激性試験（GLP 対応）：BASF（米国）、2001 年、未公表
- 21 モルモットを用いた皮膚感作性試験（GLP 対応）：BASF（米国）、2002 年、未公表
- 22 イヌを用いたカプセル投与による 28 日間反復経口投与毒性試験（GLP 対応）：Huntingdon Life Sciences（米国）、2002 年、未公表
- 23 ラットを用いた 90 日間反復経口投与毒性試験（GLP 対応）：Huntingdon Life Sciences（米国）、2002 年、未公表
- 24 イヌを用いた 90 日間反復経口投与毒性試験（GLP 対応）：BASF（独国）、2004 年、未公表
- 25 Z異性体のラットを用いた 90 日間反復経口投与毒性試験（GLP 対応）：BASF（独国）、2004 年、未公表
- 26 代謝物 M320123(C) のラットを用いた 90 日間反復経口投与毒性試験（GLP 対応）：BASF（独国）、2004 年、未公表

- 27 イヌを用いたカプセル投与による 1 年間反復経口投与毒性試験 (GLP 対応) : BASF (独国)、2004 年、未公表
- 28 ラットを用いた強制経口投与による 24 カ月反復経口投与毒性/発がん性併合試験 (GLP 対応) : Huntingdon Life Sciences (米国)、2003 年、未公表
- 29 マウスを用いた強制経口による 18 ヶ月間発がん性試験 (GLP 対応) : Huntingdon Life Sciences (米国)、2003 年、未公表
- 30 ラットを用いた繁殖毒性試験 (GLP 対応) : BASF (独国)、2004 年、未公表
- 31 ラットにおける催奇形性試験 (GLP 対応) : BASF (独国)、2004 年、未公表
- 32 ウサギにおける催奇形性試験 (GLP 対応) : BASF (独国)、2004 年、未公表
- 33 細菌を用いる復帰突然変異試験 (GLP 対応) : BioReliance (米国)、2001 年、未公表
- 34 V79 細胞を用いた *in vitro* 染色体異常試験 (GLP 対応) : BASF (独国)、2002 年、未公表
- 35 マウスを用いた小核試験 (GLP 対応) : BASF (独国)、2004 年、未公表
- 36 ラット肝細胞を用いた *in vivo* 不定期 DNA 合成 (UDS) 試験、2003 年、未公表
- 37 Z 異性体の細菌を用いる復帰突然変異試験 (GLP 対応) : BASF (独国)、2004 年、未公表
- 38 代謝物 M320123 (C) の細菌を用いる復帰突然変異試験 (GLP 対応) : BASF (独国)、2003 年、未公表
- 39 代謝物 M320123 (C) の V79 細胞を用いた *in vitro* 染色体異常試験 (GLP 対応) : BASF (独国)、2004 年、未公表
- 40 代謝物 M320123 (C) のマウスを用いた小核試験 (GLP 対応) : BASF (独国)、2004 年、未公表
- 41 食品健康影響評価について(平成 18 年 2 月 27 日付け厚生労働省発食安第 0227001 号)
- 42 メタフルミゾンの食品健康評価資料の追加提出 : 日本農薬株式会社、2007 年、未公表
- 43 食品健康影響評価の結果の通知について(平成 20 年 8 月 29 日付け府食第 927 号)
- 44 食品、添加物等の規格基準(昭和 34 年厚生省告示 370 号)の一部を改正する件(平成 21 年 9 月 28 日付け厚生労働省告示第 422 号)について
- 45 農薬抄録メタフルミゾン(殺虫剤)(平成 23 年 1 月 7 日改訂) : 日本農薬株式会社、一部公表
- 46 メタフルミゾンの作物残留試験成績① : 日本農薬株式会社、2007 年、2009 年、未公表
- 47 メタフルミゾンの作物残留試験成績② : 日本農薬株式会社、2008 年、2009 年、未公表
- 48 ラットを用いた反復経口投与による脂肪組織への分布試験 (GLP 対応) : BASF (独国)、2004 年、未公表
- 49 ラットを用いた反復経口投与による脂肪組織の代謝物分析 (GLP 対応) : BASF(独国)、

2004年、未公表

- 50 ラットを用いた単回強制経口投与による急性神経毒性試験 (GLP 対応) : BASF (独国)、2003年、未公表
- 51 ラットを用いた3か月間反復強制経口投与による神経毒性試験 (GLP 対応) : BASF (独国)、2003年、未公表
- 52 メタフルミゾンの魚介類における最大推定残留値に係る追加資料
- 53 食品影響評価について (平成23年3月22日付け厚生労働省発食安0322第10号)
- 54 平成17~19年の食品摂取頻度・摂取量調査 (薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会資料、2014年2月20日)
- 55 食品健康影響評価の結果の通知について (平成24年2月16日付け府食第166号)
- 56 食品、添加物等の規格基準 (昭和34年厚生省告示370号) の一部を改正する件 (平成25年5月15日付け厚生労働省告示第370号) について
- 57 農薬抄録メタフルミゾン (殺虫剤) (平成25年10月3日改訂) : 日本農薬株式会社、一部公表
- 58 メタフルミゾンの作物残留試験成績 (ねぎ) : 日本農薬株式会社、2007年、未公表
- 59 メタフルミゾンの作物残留試験成績 (うめ、ごぼう、にんじん) : 日本農薬株式会社、2011年、未公表
- 60 メタフルミゾンの作物残留試験成績 (いちご、アスパラガス) : 日本農薬株式会社、2011年、未公表
- 61 メタフルミゾンの作物残留試験成績 (未成熟とうもろこし、アスパラガス、ミニトマト等) : 日本農薬株式会社、2007年~2011年、未公表
- 62 食品健康影響評価について (平成26年3月20日付け厚生労働省発食安0320第6号)
- 63 食品健康影響評価の結果の通知について (平成26年6月24日付け府食第479号)
- 64 農薬抄録メタフルミゾン (殺虫剤) (平成27年11月4日改訂) : 日本農薬株式会社、一部公表
- 65 ラットにおける生物学的利用能試験 (強制経口投与クレモフォル添加) メタフルミゾン (GLP 対応) : BASF (独国)、2006年、未公表
- 66 ラットにおける生物学的利用能試験 (強制経口投与クレモフォル非添加) メタフルミゾン (GLP 対応) : BASF (独国)、2007年、未公表
- 67 ラットにおける生物学的利用能試験 (混餌投与と強制経口投与の比較) メタフルミゾン (GLP 対応) : BASF (独国)、2007年、未公表
- 68 JMPR①: “Metaflumizone”, Pesticide residues in food -2009- Joint FAO/WHO Meeting on Pesticide Residues, Toxicological Evaluations, p.357-418.
- 69 JMPR②: “Metaflumizone”, Pesticide residues in food -2009, Evaluations, Part II-Toxicological, p.217-237.
- 70 JMPR③: “Metaflumizone” Pesticide residues in food-2009, Evaluations, Part

I-Residues, p.675-828.

- 71 EPA① : “METAFLUMIZONE” Acute and Chronic Dietary Exposure and Risk Assessment in Support of the Proposed Registration of Metaflumizone as a Granular Fly Bait (2011)
- 72 EPA② : Federal Register : “Metaflumizone” Vol.80, No.210: 66795～66801 (2015)
- 73 EFSA : Conclusion on the peer review of the pesticide risk assessment of the active substance metaflumizone (2013)
- 74 食品健康影響評価について (平成 28 年 11 月 14 日付け厚生労働省発食安 1114 第 5 号)
- 75 食品健康影響評価の結果の通知について (平成 29 年 5 月 23 日付け府食第 367 号)
- 76 食品、添加物等の規格基準 (昭和 34 年厚生省告示第 370 号) の一部を改正する件 (平成 30 年 3 月 30 日付け厚生労働省告示第 153 号)
- 77 食品健康影響評価について (平成 30 年 4 月 18 日付け厚生労働省発生食 0418 第 31 号)
- 78 農薬抄録メタフルミゾン (殺虫剤) (平成 29 年 10 月 3 日改訂) : 日本農薬株式会社、一部公表
- 79 メタフルミゾンの作物残留試験成績 (かぶ) (GLP 対応) : 一般社団法人日本植物防疫協会、2017 年、未公表
- 80 メタフルミゾンの作物残留試験成績 (温州みかん) (GLP 対応) : 一般社団法人日本植物防疫協会、2016 年～2017 年、未公表
- 81 メタフルミゾンの作物残留試験成績 (なつみかん) (GLP 対応) : 一般社団法人日本植物防疫協会、2016 年、未公表
- 82 メタフルミゾンの作物残留試験成績 (かぼす) : 一般財団法人日本食品分析センター多摩研究所、2015 年～2016 年、未公表
- 83 メタフルミゾンの作物残留試験成績 (すだち) : 一般財団法人日本食品分析センター多摩研究所、2015 年～2016 年、未公表
- 84 メタフルミゾンの作物残留試験成績 (キウイフルーツ) (GLP 対応) : 一般社団法人日本植物防疫協会、2016 年、未公表